

文部科学省科学研究費補助金 研究成果報告書

ドイツ農民戦争期におけるオーバーシュヴァーベン地方農民要求箇条書の分布

研究課題：近世ドイツ語の地域的多様性と同質性についての研究

研究課題番号：12610534

平成12年度－平成14年度 文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C（2））

平成15年3月

研究代表者	堀口	里志	(福岡教育大学教育学部教授)
研究分担者	池田	利紀	(福岡教育大学教育学部教授)
	永田	諒一	(岡山大学文学部教授)
		共	編

まえがき

本研究報告は、平成 12 年度から 3 か年にわたって助成を受けた文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C）「近世ドイツ語の地域的多様性と同質性についての研究」の研究成果である。

本研究で、我々が意図した最も基本的な課題は、16 世紀のドイツ語圏地域を対象として、当時のドイツ語の地域的な多様性と同質性のあり方を分析することによって、現代にいたるドイツの言語および言語生活の地域的個性の歴史的発展をあとづける研究の一助を果たすことであった。すなわち、今日のドイツ、スイス東北部、オーストリア西部の諸地域において民衆が作成したドイツ語文書を収集・比較・検討することにより、近現代の標準ドイツ語 Neuhochdeutsch の基礎をなした初期新高ドイツ語 Frühneuhochdeutsch 確立の背景と過程を、語学的視点と歴史学的視点の双方から明らかにする試みのひとつである。

もちろん、この課題の名辞が意味するところは極めて広大であり、また、その解明は、従来と今後の個別研究の総合をもってはじめてなしうるところであり、本研究は、必然、その一モノグラフに位置せざるをえない。それにもかかわらず、本研究が、研究の発展に貢献したと言っているのは、従来はほとんど用いられることがなかった、16 世紀初頭ドイツ農民戦争期の「農民要求簡条書」という「ほぼ全ドイツ語圏にわたる共通内容の史料群」を基礎に置いたことである。これらの「要求簡条書」は、同じ内容の社会的不満と改革要求を数多く含んでいるが、その用語・文章の表現と書式は、地域ごとに多様であり、したがって、それらの収集・比較・検討は、同一内容の対象・主張を表現するときの言語習慣の地域差と、地域をこえた同質性がいかなるものであったかを明確に示してくれる。

本報告は、対象をオーバーシュヴァーベン地方に設定しており、また、検討内容も、上述の理由から、必ずしも十全とは言いがたいかもしれない。しかし、報告者たちは、学界に一定の貢献をなしたという自負のもとに、本報告が、様々な研究者のさらなる研究発展の一基礎となることを期待している。

なお、まえがきの最後を借りて、3 年間の調査研究において、書類作成、手続き等を手際よく進めていただいた福岡教育大学教育学部の事務担当各氏に感謝申しあげたい。

平成 15 年 3 月

堀口里志

池田利紀

永田諒一

研究組織

研究代表者 堀口 里志 (福岡教育大学教育学部教授)
研究分担者 池田 利紀 (福岡教育大学教育学部教授)
永田 諒一 (岡山大学文学部教授)

研究経費

平成 12 年度	1,000 千円
平成 13 年度	500 千円
平成 14 年度	800 千円
<hr/>	
総計	2,300 千円

ドイツ農民戦争期におけるオーバーシュヴァーベン地方農民要求箇条書の分布

目次

・まえがき	・・・・・・・・堀口里志・池田利紀・永田諒一	2
・オーバーシュヴァーベン地方「農民要求箇条書」とその基本的性格の多様性	・・・・・・・・・・・・・・・・堀口里志・永田諒一	5
1. はじめに		
2. 「シュヴァーベン農民の十二箇条」		
3. オーバーシュヴァーベン地方の諸箇条書		
4. まとめ		
・オーバーシュヴァーベン地方における「農民要求箇条書」成立と農民戦争波及過程の相関	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・永田諒一	10
1. はじめに		
2. 支配構造と地形		
3. 農民戦争の波及と諸箇条書		
4. まとめ		
・史料と解題：オーバーシュヴァーベン地方の「農民要求箇条書」	・・・・・・・・・・・・・・・・堀口里志・池田利紀（編）	28

オーバーシュヴァーベン地方「農民要求箇条書」とその基本的性格の多様性

堀口里志・永田諒一

(*本論は、『福岡教育大学紀要 第49号 第1分冊』(平成12年)所収の論文、堀口里志・永田諒一「ドイツ農民戦争期における農民箇条書のぶんぶ」に加筆、修正したものである。)

1. はじめに

ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』や、エンゲルスの『ドイツ農民戦争』で広く知られるドイツ農民戦争は、宗教改革運動期ドイツの一大農民反乱であった。それは、1524年6月にはじまり、ドイツの半分以上の地域に波及、拡大して、一年余りの戦乱の後、ようやく大方の終息をみた⁽¹⁾。反乱の期間中、各地域の農民たちは、自らの苦情、要求を箇条書の形式にまとめて、領主たちに提示することが常であり、その箇条書の数は、現在まで知られているものだけでも、百を越える。我が国でも、数種類の翻訳がなされている「シュヴァーベン農民の十二箇条」は、それらを代表するとともに、それらの中心に位置する文書である⁽²⁾。

本稿では、それらの箇条書の基本的性格と、個々の箇条書の要求内容について整理と些かの検討を行う。

2. 「シュヴァーベン農民の十二箇条」

まず、諸箇条書の代表ともいうべき、また、内容的、地理的に最も影響力が大きかったとされる「シュヴァーベン農民の十二箇条」Die Zwölf Artikelについて、内容、成立事情、そして、その他の諸箇条書との相互影響関係を示唆する諸条件を確認しておきたい。

「十二箇条」は、まず間違いなく、農民戦争初期の1525年初春、南ドイツ・オーバーシュヴァーベン地方のメミンゲンで作成された。流布は、筆写にも負ったが、主として、当時、普及しはじめていた印刷術によってなされた。3月に、アウクスブルクで、その最初の活版印刷化がなされて以来、各地で、独自あるいは共通の版を重ね、少なくとも二十五回、印刷された。印刷部数は、二万五千と見積もられている。また、流布された地域は、農民戦争が波及した地域のほぼ全域にあたっている。すなわち、北西ドイツを除いて、北はザクセン、プロイセン騎士団領、西は、エルザス、東は、ティロルまでの広がりをもった⁽³⁾。

「十二箇条」は、序文、11箇条の要求項目、第12条としての結文の三部から成ってい

る⁽⁴⁾。全文の邦訳も刊行されていること⁽⁶⁾を顧みて、ここでは、それらの内容を簡単に紹介するに留めたい。

序文は、農民の反乱は福音の教えに従う運動であるという要求の基礎となる大義である。その考え方は、農民戦争勃発の七年前にはじまった宗教改革の思想から得られている。第1条は、村落共同体が、自らの牧師を選出し、彼によって「真の福音」が宣べ伝えられるべきこと、第2条は、教会への貢納である十分の一税の一部廃止と使用目的の適正化、第3条は、農奴制の廃止、第4条は、狩猟や漁労の自由の回復、第5条は、森林の共有地としての回復、第6条と第7条は、強化されつつある各種の賦役の軽減、第8条は、地代の適正化、第9条は、恣意化されつつある法と裁判の公正化、第10条は、牧草地の共有地としての回復、第11条は、死亡税の廃止、を要求している。第12条は、以上の要求は神の言葉に合致していると確信するという結語である⁽⁶⁾。

これらの要求項目は、農奴制と死亡税の廃止を除いては、現状改良の要求に留まっている。「十二箇条」の性格規定については、史家によって多少の見解の相違が認められるが、いずれにせよ、それは、比較的穏健な主張であり、既存の支配体制の根底的な変革を求める内容ではない⁽⁷⁾。

「十二箇条」の成立場所、作成者については、かつて諸説⁽⁸⁾があったが、近年幾つかの関連手書き史料の発見により、ほぼ確定的といえる研究段階に到達している。1525年2月28日から3月3日までの期間に、オーバーシュヴァーベン地方の主要な帝国都市のひとつメミンゲンで編纂されたという判断である。編纂の指導的立場にあったのは、当地在住の宗教改革派の俗人説教師で、当時の反乱農民軍団のひとつバルトリンゲン農民団の書記であったロツァー Sebastian Lotzer、そして、やはりメミンゲンの宗教改革派牧師シャペラー Christoph Schapeller であった。ロツァーが、バルトリンゲン農民団に属する各地からの要求を取り上げ、地域的個性を越えた普遍的箇条書として整理し、それにシャペラーが序文と聖書の典拠を示す註を加えて完成されたという⁽⁹⁾。

3. オーバーシュヴァーベン地方の諸箇条書

ドイツ各地で作成された諸箇条書のうち、まず、本稿では、南ドイツのオーバーシュヴァーベン地方のそれらを取りあげる。というのは、メルクマールとすべき「シュヴァーベン農民の十二箇条」を生み出したのが、この地域であり、それ故、輪郭が明らかな「十二箇条」を参照しながら、諸箇条書を検討しうること、また、この地域の箇条書の検討を農村史の関心から試みたブリクレの成果と方法⁽¹⁰⁾が、さしあたり、本稿にとって有効な手がかりとなるからである。

ブリクレ P. Blickle は、刊行の諸資料集にあるオーバーシュヴァーベン地方の箇条書、7

1種類について、その作成場所、作成期日、要求内容のわかる一覧を公表している⁽¹¹⁾。しかし、本稿で利用できるのは、G. Franz (hrsg.), Quellen zur Geschichte des deutschen Bauernkrieges, 1963 ; G. Franz (hrsg.), Der deutsche Bauernkrieg : Aktenband, Darmstadt 1972 ; F. L. Baumann (hrsg.), Akten zur Geschichte des deutschen Bauernkrieges aus Oberschwaben, Freiburg 1877 ; W. Vogt (hrsg.), Die Correspondenz des schwaebischen Bundeshauptmannes Ulrich Artzt von Augsburg aus den Jahren 1524-1527, Zeitschrift des Historischen Vereins fuer Schwaben und Neuburg 6-10, 1879-1883 の4資料集にある65種の簡条書である。(但し、本報告書における順数字は、タイトル等だけで、史料文面を入手できなかったものがあるので、計71となる。)なお、農民戦争勃発前の約一世紀間、この地域では、比較的、頻繁に農民蜂起が起こっていたが、その際に作成された文書は、当然、未だ宗教改革の影響を受けておらず、農民戦争期の簡条書とは、幾分、性格を異にするので除外する⁽¹²⁾。

[表1]が、諸簡条書を整理した一覧、そして、[図1]が、それらの作成場所を示す地図である。簡条書は、はじめから名称がついたものもあるが、ないものがほとんどなので、作成場所の表記で、名称に代える。簡条書の作成は、多くが村を単位としているが、同一領主に従属する村々をひとまとめとした地域の場合、農民軍の協同歩調体制に従って自ずと定まった地域的まとまりの場合などがある。また、[表1]の簡条書の順番は、作成期日に従っている。作成期日が確定できない簡条書も少なくないが、それらについては、農民戦争の地域的、時間的展開を配慮した推定に基づいている。更に、簡条書の内容を、ブリクレは、大きく8項目に、個別には43項目に整理しているが、本稿の関心から、ここでは、6項目への整理に留めた。また、これも本稿の関心から、一部分を、ブリクレとは異なった項目整理にした。

4. まとめ

65種の簡条書を通覧すると、土地領主制、体僕制、地域支配権、共同地利用⁽¹³⁾という農民の日常的生活利害に密接に関わると考えられる項目は、ほとんどの簡条書で言及されている。しかし、特徴的なのは、信仰、教会に関する項目は、これを採用した簡条書と、一切、言及しない簡条書とが、大体、半数ずつになることである。

その信仰、教会に関する項目は、更に整理すると、福音の教えが宣べ伝えられるべきこと、教区民が牧師(司祭)を選出できること、小十分の一税と大十分の一税を廃止あるいは適正化すること、そして信仰、教会関係のその他の諸条件を改善することに分類され、前三者は、いずれも、宗教改革の主要なスローガンであった。例えば、宗教改革思想を明確に基底に据えた「シュヴァーベン農民の十二簡条」は、これらの項目を、第1条、第2条という、書面上、最も重要な位置に置いている。すなわち、これらの項目は、地域の日常生活の苦情という側面を無視できないことは然りであるが、なにかんずく、宗教改革の思想と大義の浸透を背景に提出されており、他の項目とは、幾らか性格を異にしているというこ

とができる。

従って、信仰、教会に関する項目は、地域の箇条書作成者たちの宗教改革に対する思想的あるいは世界観的意向に従って取捨されたと考えることができる。そして、これらの項目が採用された場合については、作成者が、宗教改革の宣伝活動から得た文書や知識に基づいて作文した可能性、あるいは、「十二箇条」をはじめとする他の箇条書から引き写したり、それらを参照しながら執筆した可能性が高い。いずれにしても、そのことは、各箇条書の文面は、ある程度、共通したテキストともいえるべき表現模範例に依拠しているという想定を可能にする。

註

(1) ドイツ農民戦争の通史的叙述として、今日、基本的と考えられる文献は、次の通り。

F. Engels, *Der deutsche Bauernkrieg, 1850* (エンゲルス、大内力 訳『ドイツ農民戦争』岩波文庫、1951年) ; G. Franz, *Der deutsche Bauernkrieg, 1933, 12. Aufl., Darmstadt 1984* (フランツ、寺尾誠 他訳『ドイツ農民戦争』未来社 1989年) ; M. Bensing u. S. Hoyer, *Der deutsche Bauernkrieg 1524-1526, Leipzig 1965* (ベンジング、ホイヤー、瀬原義生 訳『ドイツ農民戦争 1524 - 1526年』未来社 1977年。また、論文集であるが、E. L. Kuhn (hrsg.), *Der Bauernkrieg in Oberschwaben, Tuebingen 2000* は、本稿が対象とするオーバーシュヴァーベン地方の農民戦争に関する経過叙述や年表があり、有用である。

また、農民戦争の歴史的な位置づけをめぐるのは、1989年のドイツ統一のときまで、農民戦争を「古き良き慣習の回復を求める、基本的に裕福な農民の反乱」とみなす西ドイツ、西側諸国の「非マルクス主義的研究」と、「初期市民革命 *Die frühbürgerliche Revolution*」テーゼの下に、農民戦争を「新しい時代の想像をめざす、生成されつつあったプロレタリアートの運動」とみなす東ドイツ、東側諸国のマルクス主義的研究とが、長く対立していた。しかし、統一後、研究は、西側諸国の見解に基づいた形で一本化されていった。史学史的な観点から、不可欠とすべき文献は、次の通り。「非マルクス主義的研究」: G. Franz, a.a.O. ; T. Nipperdey, *Reformation, Revolution, Utopie, Göttingen 1975* ; P. Blickle, *Die Revolution von 1525, München 1975*. マルクス主義的研究: F. Engels, a.a.O. ; M. M. Smirin, *Die Volksreformation des Thomas Münzers und der große Bauernkrieg, Berlin 1956* ; M. Steinmetz, *Die frühbürgerliche Revolution in Deutschland 1476-1535 ; Thesen, G. Brendler u. A. Laube (hrsg.), Der deutsche Bauernkrieg 1524/25, Geschichte-Tradition-Lehren, Berlin 1977*. なお、農民戦争研究史の邦文による整理として、渡辺伸「ドイツ農民戦争の視点と課題」『京都府立大学報・人文 47』1995年 ; 青山孝「ドイツ農民戦争研究の現状と課題」『三田学会雑誌 75』1982年 ; 田中真造「初期市民革命としての宗教改革とドイツ農民戦争」『思想 591』1973年 ; 中村賢二郎「ドイツ農民戦争原因考 一研究史的発展を追って一」『西洋史学 10』1951年などがある。

また、研究史の現段階をふまえた最新の邦文の農民戦争研究として、野々瀬浩司『ドイツ農民戦争と宗教改革』慶應義塾大学出版会 2000年、渡辺伸『宗教改革と社会』京都大学学術出版界 2001年を無視することはできない。

(2) 本稿第2節の註(5)を参照。

(3) 前間良爾「ドイツ農民戦争史研究」九州大学出版会 1998年、124頁以降 ; 魚住昌良「所謂12

箇条の成立事情をめぐって」『アジア大学諸学紀要10』1963年、57頁以降；P. Blickle, *Nochmals zur Entstehung der zwölf Artikel im Bauernkrieg*, ders., (hrsg.), *Bauer, Reich und Reformation*, S.286ff.

(4) 「十二箇条」の活字化史料は、A. Laube (hrsg.), *Flugschriften der Bauernkriegszeit*, Berlin 1975；H. v. Knaake u. a. (hrsg.), *M. Luthers Werke, Kritische Gesamtausgabe (Weimarer Ausgabe)*, Bd.18, Graz 1964；F. L. Baumann (hrsg.), *Akten zur Geschichte des deutschen Bauernkrieges aus Oberschwaben, Freiburg 1877* など、数多いが、G. Franz (hrsg.), *Quellen zur Geschichte des Bauernkrieges*, Darmstadt 1963, S.85f. が標準的である。

(5) 例えば、徳善義和 他編「宗教改革著作集 第7巻：ミュンツアー、カールシュタット、農民戦争」教文館 1985年、345頁以降；前間良爾、前掲書、305頁以降；中村賢二郎 他編「原典宗教改革史」ヨルダン社 1976年、140頁以降。

(6) 本稿の必要のかぎりにおいて、各用語の意味するところについては、第4章の註(1)を参照。なお、各箇条の細かい解釈は、農民戦争そのものの性格規定とも結びつくことになり、研究者により微妙な異同がある。例えば、前間良爾、前掲書、313頁を参照。

(7) 同書、561頁以降。

(8) かつて、オーバーシュヴァーベン起源説とともに、オーバーライン起源説が有力であった。また、作成者についても、かつては、ロツター、シャペラーの他に、ミュンツアー、南ドイツ再洗礼派の指導者フープマイアー、「帝国改造案」の起草者ヴァイガントなどの名が挙がっていた。徳善義和 他編、前掲書、557頁以降；前間良爾、前掲書、137頁以降；Blickle, *Nochmals*, S.287ff.

(9) 前間良爾、前掲書、124頁以降。

(10) Blickle, *Revolution*.

(11) *Ebenda*, S.331ff.

(12) フランツ、前掲書、40頁以降。

(13) 土地領主制 *Grundherrschaft*、体僕制 *Leibeigenschaft*、地域支配権 *Ortherrschaft* は、領主が農民を支配する三重の法形態であった。領主は、土地領主として、借地人としての農民を、また、体僕領主として、農奴身分としての農民を、そして、裁判領主として、地域住民としての農民を拘束した。もちろん、特定の支配や農民負担が、三支配権のどれに由来するかは、判定しがたい場合もある。また、共同地 *Allmende* は、領主の所有であるが、慣習として農民が入会権を持っていた森、牧場、河川などである。

なお、十六世紀前半の南ドイツ農民の法的、経済的状况については、邦文研究も数多い。瀬原義生「ドイツ中世農民史の研究」未来社 1988年に所収の該当諸論文；三成美保「14—16世紀の西南ドイツにおけるライブアイゲンシャフト」『阪大法学135』1985年；同「15—16世紀ドイツ＝スイス地域における死亡税—西南ドイツ型ライブアイゲンシャフトに関する一考察—」『阪大法学143』1988年；島田勇「西南ドイツの農奴制—シュヴァルツヴァルト地方の聖界領主の領域政策についてのひとつの考察—」『史学雑誌97—2』1988年；青山孝「ライブアイゲンシャフトローデルにあらわれた農民の要求について—ケンプテン修道院を例として—」『三田学会雑誌77—3』1984年；浅野啓子「ドイツ農民戦争期のライブアイゲンシャフト」『早稲田大学文学研究科紀要 別冊9』1982年；同「16世紀西南ドイツの裁判領主制」『社会経済史学45—3』1979年；前間良爾「ドイツ農民戦争期における共有地問題」『西洋史学論集7』1959年など。

オーバーシュヴァーベン地方における「農民要求箇条書」成立と農民戦争波及過程の相関

永田 諒一

1. はじめに

本稿では、収集することができた65種の箇条書について、作成時期の時間的な前後関係、作成場所の地理的な相関関係、そして、諸箇条書間相互の内容的影響関係の可能性を検討する。すなわち、オーバーシュヴァーベンを中心とした南西ドイツにおける農民戦争の時間的、地域的展開を、諸研究の叙述に依拠しながら再構成し、その展開過程の中に諸箇条書の成立時期を推定する。主として利用した農民戦争史研究は、G. フランツ、寺尾聡 他訳『ドイツ農民戦争』未来社 1989年 (G. Franz, *Der deutsche Bauernkrieg*, 1933, 12. Aufl., Darmstadt 1984)、M. ベンジング、S. ホイヤー、瀬原義生 訳『ドイツ農民戦争——1524-1526年——』未来社 1977年 (M. Bensing u. S. Hoyer, *Der deutsche Bauernkrieg 1524-1526*, Leipzig 1965)、F. エンゲルス、大内力 訳『ドイツ農民戦争』岩波文庫 1951年 (F. Engels, *Der deutsche Bauernkrieg*, 1850)、そして E. L. Kuhn (hrsg.), *Der Bauernkrieg in Oberschwaben*, Tübingen 2000 である。

なお、これらの四文献には、「十二箇条」を除いて、諸箇条書の作成時期、経緯、内容についての言及はない。また、この目的にかなうその他の研究文献を見つけることはできなかった。例えば、収集した諸箇条書の出典である諸刊行史料⁽¹⁾には、それぞれの箇条書について、推定作成時期が記されているが、必ずしも推定の根拠が示されているわけではない。もっとも、これらの刊行史料の編者たちは、個々の箇条書について、農民戦争の推移を念頭におきながら、作成時期を確定したのであろうから、その意味では、本稿はその再確定の作業ともいえる。しかし、オーバーシュヴァーベン全体を眺望しながら、諸箇条書のそれぞれを位置づけた単一の研究は、管見のかぎりでは知らない⁽²⁾。

また、箇条書が作成された地名の確定、とりわけ、小村の確定にあたっては、ADAC Reise Atlas, München 2002 を活用した。

2. 支配構造と地形

ドイツ農民戦争は、シュヴァルツヴァルト Schwarzwald 南部のシュテューリンゲン Stühlingen ではじまり、まもなくオーバーシュヴァーベン Oberschwaben 地方のほぼ全域に拡がり、そして、その過程で、その他の地域にも波及した。

オーバーシュヴァーベン地方は、大まかに区切って、西はライン川 Rhein、東はレヒ川 Lech、北はアウクスブルク Augsburg、ウルム Ulm、フィリンゲン Villingen、フライブルク Freiburg を結ぶ線、南はライン川、ボーデン湖 Bodensee、アルプス Alpen 北辺で囲まれる地方の慣習的呼称で、現在のドイツの州区分では、バーデン・ヴュルテンベルク Baden-Württemberg 州とバイエルン Bayern 州のそれぞれ一部をなしている。⁽⁸⁾ 当地方は、中世以来、そして 16 世紀初頭の農民戦争時にも、強大な広域支配権力を欠き、独立的な中小の領主権力、都市権力が群雄割拠して、それらの支配地は細分化と錯綜を極めていた。すなわち、西はハプスブルク家の諸所領、東はバイエルン公国、北はヴュルテンベルク公国、南はスイスのアイトゲノッセンシャフト Eidgenossenschaft という大領邦に囲まれているが、オーバーシュヴァーベン地方は、農民戦争の直接的きっかけを作ったシュテューリング Stühlingen 伯、農民軍鎮圧の先鋒となったゲオルク・トゥルフゼス Georg Truchseß など、帝国直属の伯や騎士の領地、ロトヴァイル Rottweil、ラーヴェンスブルク Ravensburg、メミンゲン Memmingen など、帝国自由都市の領地、ケンプテン Kempten 修道院、アウクスブルク Augsburg 司教など、帝国直属の中小聖界領地が複雑に入り組みあっていた⁽⁴⁾。そのような政治的状況は、領主側による農民戦争の鎮圧をむずかしくしたし、また、農民の決起と反乱の拡大を容易にする要因ともなっていた。

地形は、東方に遠く黒海に向かうドナウ川とその支流であるリス川 Riß、ロート川 Rot、イラー川 Iller、ギュンツ川 Günz、ヴェルタッハ川 Wertach、レヒ川、また、北方のバルト海に向かうライン川とそのいくつかの短い支流、ライン川の大支流ネッカー川 Neckar（ネッカー川は、オーバーシュヴァーベン地方では独立の水系をなす）、そして、ボーデン湖に流れ込むシュッセン川 Schussen、アルゲン川 Argen など、多くの河川を擁している⁽⁵⁾。さらに、これらの河川の水源のほとんどが、この地方にきびすを接しながら位置しているので、極めて複雑な水系の集合体となっている⁽⁶⁾。しかし、標高の高い分水嶺はない。また、西から東に向かって、大体、フィリンゲンとシャッフハウゼン Schaffhausen を結ぶ線までは、比較的、細かく入り組んでいるが険しくはないシュヴァルツヴァルトの山岳地帯、ウルム、ビーベラハ Biberach、フリードリヒスハーフェン Friedrichshafen（但し、近世までは、ブーフホルン Buchhorn とよばれた）を結ぶ線までが、シュヴァーベン・アルプス Schwäbische Alp の東南斜面をなす、いくらか高低差のある丘陵地帯、それから東側は、平野に近い丘陵地帯である。但し、東南部のアルゴイ Allgäu 地域は、南に向かって次第に山岳地帯となり、アルプスに至っている。従って、オーバーシュヴァーベン地方の交通路体系は、基本的に多くの川の流れに沿っているといえるが、西部の山岳地帯の分水嶺を含めて、人の往来を大きく妨げる自然の障害はほとんどないので、全地域にわたって、意図すれば、縦横の行き来が可能である⁽⁷⁾。農民戦争時の農民たちもそれを実行している。

3. 農民戦争の波及と諸箇条書

以下に、農民戦争の経過をたどりながら、前稿で検討された65箇条書のうち、62箇条書について、それらの推定成立時期と場所を〔 〕内に記述する。なお、残る3箇条書については、場所の特定不能、史料内容の不備などの理由で除外してある。

(1) 農民戦争の勃発とヘーガウ 農民団 Hegauer Haufen の成立

1524年6月、シュテューリングゲン伯領で、有名な「かたつむり事件」を直接的な契機として数百名の農民が決起したことから農民戦争がはじまった。当地域の農民は、ハンス・ミュラー Hans Müller aus Bulgenbach を指導者に選出して、領主側と対峙した⁽⁸⁾。

8月になると、ヴァルツフト Waldshut (Stühlingen の南西 20km) で第二の蜂起がおこり、9月9日、彼らとシュテューリングゲン農民との同盟が成立した。そして、ティンゲン Tiengen (Waldshut の南東、数 km) で、彼らと領主側との交渉が試みられたが失敗した⁽⁹⁾。

10月2日、シュテューリングゲンで、農民たちは周辺地域の農民から成るヘーガウ農民団 Hegauer Haufen を結成した。彼らは、数千名の人数でシュヴァルツヴァルトの南方地域を行軍した。しかし、10月中旬、彼らの多くは、領主側から仲裁裁判所設置の約束をえると、一旦、解散した⁽¹⁰⁾。

これより少し前、9月に、フィリングゲン Villingen (Stühlingen の北方 30km、オーストリア領) 周辺で農民が決起した。このとき、彼らの反乱の大義として、はじめて「神の正義」 Götliches Recht の理念が登場した。彼らに、シュテューリングゲン農民のうち、まだ活動を続けていた部分が合流した。12月2日、農民たちは、ヒューフィンゲン Hüfingen (Villingen の南方 15km) に拠点を構えた。その間、ヘーガウ Hegau 地域 (大体、Bodensee の西側、Schaffhausen の東側、Donau の南側、Rhein の北側を指す小地域名)、クレットガウ Klettgau 地域 (大体、Schaffhausen の西側、Waldshut の東側、Donau 川と Rhein 川の間を指す小地域名)、そして、シュヴァルツヴァルトの西側でライン川水系のブライスガウ Breisgau 地域でも、農民の騒乱が頻発した⁽¹¹⁾。

しかし、12月14日に、ドナウエッシンゲン Donaueschingen 近郊で、農民団は、この地方の領主と都市の連合鎮圧軍に撃破された。また、1524年末から25年初頭にかけて、農民に対する仲裁裁判やラント裁判が試みられ、この地域の農民反乱は、ひとまず収束に向かったかにみえた⁽¹²⁾。

[58. Brigtal (Villingen の北方) 箇条書が、1524年12月18日に成立。]

以上の経過から推察するに、1524年6月から12月の間に、北はフィリングゲン Villingen の北方、南はライン川、西はヴァルツフト Waldshut、東はボーデン湖西北岸の地域で農民が蜂起し、彼らの間で、一定程度の地域的連帯が確立されたといえそうである。

(2) アルゴイ農民団 Allgäuer Haufen の成立

1525年2月、ヘーガウ Hegau 地域とはひとまず独立に、オーバーシュヴァーベン⁽¹³⁾のその他の地域でも農民が決起した。まず、1月に、アルゴイ Allgäu 地域のケンプテン Kempten 修道院領で、ケンプテン周辺の農民たちがロイパース Leubas (Kempten 東北、数 km) に集結した⁽¹³⁾。

[48. Kempten 簡条書が、1524年1月9日に成立。]

そして、2月中に、アルゴイ全域の各地で騒乱が起こった。2月14日に、農民たちは、ゾントホーフエン Sonthofen (Kempten 南 20km) で、「聖なる福音と神の法」を行使するための同盟を結成、さらに、2月24日に、オーベルストドルフ Oberstdorf (Sonthofen 南 10km) に再集合して、アルゴイ農民団 Allgäuer Haufen 結成を確認した。イエルク・シュミート Jörg Schmid とイエルク・トイバー Jörg Täuber がその指導者となった⁽¹⁴⁾。

[50. Rettenburg (Tigen) (Kempten の南方) 簡条書が、1525年2月15日に成立。]

[7. Edelbeuren (Wangen 近郊) 簡条書が、1525年2月中に成立。]

2月27日に、ゲオルク・トゥルフゼス Georg Truchseß von Waldburg を指揮官とする領主側連合軍であるシュヴァーベン同盟軍到来の誤報により、農民団は北上して、ロイパース Leubas に再集合した。さらに、3月4日には、ケンプテン Kempten で農民代表者たちの会合が開かれた⁽¹⁵⁾。

(3) ボーデン湖畔農民団 See Haufen の成立

ボーデン湖の北東岸地域では、1525年の年初はまだ平穏であったが、2月に農民の活動がはじまった。2月21日、ラッパーツヴァイラー Rappertsweiler (Lindau 北 10km) に、農民たちが集結して、ディートリヒ・フルレヴァーゲン Dietrich Hurlwagen とハンス・ヤーコプ・フンプス Hans Jakob Humpus を指導者に選び、ボーデン湖畔農民団 Seehaufen が成立した。まもなく、これに呼応して、プフレンドルフ Pfullendorf (Lindau 北北西 40km) からユーバーリングエン Überlingen (Lindau 北西 40km) を結ぶ線の東側のボーデン湖北岸、そして、東はオーストリア領のフォアアルベルク Vorarlberg 地域 (Lindau の南西地域) までの広がり、農民が立ち上がった⁽¹⁶⁾。

[43. Rappertsweiler (Lindau の北方) 簡条書が、1525年2月から3月の間に成立。]

[44. See Haufen (Lindau) 簡条書が、1525年3月6日以前に成立。]

(4) バルトリングエン農民団 Baltringer Haufen の成立

ウルム Ulm の南西方向のドナウ川水系でも、1525年2月に、農民が決起した。バルトリ

ンゲン Baltringen (Ulm 南西 30km) では、1524 年末から、農民たちが自分たちの苦情や要求についての会合を重ねていたが、2月9日に、ラウプハイム Laupheim (Baltringen 北数 km) に、地域の農民たち二千名が集合して、ウルリヒ・シュミート Ulrich Schmid を指導者とするバルトリンゲン農民団 Baltlinger Haufen が成立した⁽¹⁷⁾。

- [17. Rot an der Rot (Memmingen と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 15 日に成立。]
- [1. Achstetten (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [2. Altbierlingen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [3. Erolsheim, Walters u. Binnrot (Biberach 東方) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [6. Öffnegen u. Griesingen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [23. Rottenacker (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [24. Attenweiler (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [25. Oggelshausen u. Tiefenbach (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [26. Unterrot (Illertissen 東方) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [27. Oberholzheim (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [28. Mietingen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [29. Gutenzell (Biberach 東方) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [30. Mittelbiberach I. (Biberach 近郊) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [31. Mittelbiberach II. (Biberach 近郊) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [32. Äpfingen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [37. Streitberg (Biberach 西方) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [38. Baustetten (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [39. Spital Biberach 簡条書が、1525 年 2 月 16 日以前に成立。]
- [8. Bronnen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月中に成立か。]
- [12. Bach (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 21 日に成立。]
- [41. Schussenried (Biberach 南方) 簡条書が、1525 年 2 月 25 日以前に成立。]
- [13. Bußmannshausen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 22 日に成立。]
- [14. Untersulmetingen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月中に成立。]
- [15. Stadion (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月 25 日に成立。]
- [18. Sulmingen u. Maselheim (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月中に成立。]
- [33. Röhrwangen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月中に成立。]
- [34. Langenschemmern (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年のこの頃に成立か。]
- [16. Schemmerberg u. Altheim (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 2 月から 3 月の間に成立。]
- [35. Burgrieden, Bühl u. Stetten (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年 3 月中に成立。]
- [36. Baltringen I. (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年のこの頃に成立か。]
- [9. Ellmannsweiler (Biberach 近郊) 簡条書が、1525 年 3 月中に成立。]
- [10. Rißtissen (Ulm と Biberach の間) 簡条書が、1525 年のこの頃に成立か。]

- [11. Warthausen (Ulm と Biberach の間) 箇条書が、1525 年のこの頃に成立か。]
- [20. Ochsenhausen II. (Biberach 東方) 箇条書が、1525 年のこの頃に成立か。]
- [21. (Mönch-) Höfen (Ulm と Biberach の間) 箇条書が、1525 年のこの頃に成立か。]
- [22. Alberweiler (Ulm と Biberach の間) 箇条書が、1525 年のこの頃に成立か。]

彼らはすぐに一万名に膨れ上がり、また、2月中に、西はメスキルヒ Meßkirch (Überlingen 北 20km) から、東はレヒ川 Lech までの広い地域の農民たちがこれに所属した⁽¹⁸⁾。

- [52. Weicht (Kempten と Augsburg の間) 箇条書が、1525 年 3 月 3 日に成立。]
- [53. Wiedergeltingen (Kempten と Augsburg の間) 箇条書が、1525 年 3 月 3 日に成立。]

(5) その他の農民団の成立

さらに、1525 年 2 月中に、ヴルツァハ Wurzach (Memmingen 南西 15km) で、ウンターアルゴイ農民団 Unterallgäuer Haufen が成立し、それはまもなく七千名に膨れ上がった。また、2 月中に、ライプハイム Leipheim (Ulm 東北東 20km) に、その近郊の農民が結集して、ライプハイム農民団 Leipheimer Haufen が成立した。3 月初旬には、ウルム、アウクスブルク、ドナウヴェルト Donauwörth (Augsburg 北 40km) に囲まれる地域からの農民五千名が集合した⁽¹⁹⁾。

- [42. Kiblegg (Memmingen と Lindau の間) 箇条書が、1525 年 2 月 22 日に成立。]
- [45. Memmingen (Dörfer) 箇条書が、1525 年 2 月 24 日から 3 月 3 日の間に成立。]

(6) 「十二箇条」の成立

こうして、オーバーシュヴァーベン各地の農民が蜂起したころ、1525 年 2 月末から 3 月初旬の間に、メミンゲン Memmingen で、ゼバスティアン・ロツァー Sebastian Lotzer がバルトリンゲン農民団に属する農民たちの諸箇条書を収集して、それをもとに、クリストフ・シャペラー Christoph Schapeller の協力をえて、宗教改革の大義に基づく普遍的な箇条書である「十二ヶ条」を作成した⁽²⁰⁾。

- [00. Memmingen (「十二箇条」) 箇条書が、1525 年 2 月末から 3 月初旬の間に成立。]

また、3 月になると、各農民団相互間の同名が成立する。3 月初めに、アルゴイ農民団とボーデン湖畔農民団が互いに使者を送りあって同盟を結んだ。3 月 6 日に、S. ロツァーとバルトリンゲン農民団の U. シュミートが、メミンゲンに上述の二農民団の代表を招聘し、彼らの間で同盟規約が成立した。さらに、3 月 15 日には、同市で、その同盟会議が開かれた。3 月後半にはいると、「ドナウ川の南部、ユーバーリンゲンからレヒ川までの地域で、農民の同盟に加盟しない村は、ほとんどひとつもなかったであろう。大部分の小都市も、自発的あるいは強制されて同盟に入った⁽²¹⁾という状況になった⁽²²⁾。

[54. Langenerringen (Kaufbeuren と Augsburg の間) 簡条書が、1525 年 3 月 23 日に成立。]

(7) トゥルフゼスの進撃

しかし、1525 年 4 月になると、ゲオルク・トゥルフゼス Georg Truchseß von Waldburg を指揮官とする領主たちのシュヴァーベン同盟軍が本格的に反乱の軍事的鎮圧にのりだした。トゥルフゼス軍は、ヴェルテンベルクから、まずウルムにはいり、3 月 30 日から 4 月 2 日にかけて、ウルムの南西方向のラウプハイム Laupheim、リースティッセン Rißtissen (Ulm 南西 10km)、エップフィンゲン Äpfingen (Ulm 南西 20km) で、バルトリングン農民団と小競り合いを起こした。しかし、4 月 2 日、トゥルフゼス軍がライプハイム農民団の鎮圧に向かうために、そこから退去すると、バルトリングン農民団は散開してしまった⁽²³⁾。

4 月 9 日、トゥルフゼス軍は、ヴィープリングン Wieblingen (Ulm 南すぐ) に野営したあと、4 日、オッフェンハウゼン Offenhausen (Ulm 東北すぐ) を通って、ライプハイム Leipheim に向かった。一方、ライプハイム農民団は、ビュール Bühl (Ulm 東 10km) に陣をはった。そこでの戦闘の結果、農民側は千名が戦死、四千名が捕虜となり、ライプハイム農民団は壊滅的な打撃を受けた⁽²⁴⁾。

4 月 11 日、トゥルフゼス軍は、次に、ボーデン湖北岸地域を制圧するために、南に向かい、4 月 14 日、ヴルツァハ Wurzach (Memmingen 南西 20km) で、出撃してきたウンターアルゴイ農民団を撃破した⁽²⁵⁾。

トゥルフゼス軍は、そこから南西に進み、ボーデン湖畔農民団と邂逅した。4 月 15 日、両者は、ヴァインガルテン Weingarten (Ravensburg 北数 km) とガイスボイレン Geißbeuren の間に陣をはった。戦力は圧倒的に農民側に有利であったが、彼らは、戦闘を避けて、4 月 17 日、「ヴァインガルテン協定」を結んだ。その後、トゥルフゼス軍は、一旦、(おそらく、ネッカー川沿いに) ヴェルテンベルクに戻り、一方、ボーデン湖畔農民団も散開した⁽²⁶⁾。

(8) シュヴァルツヴァルト農民の再結集

1525 年初頭に、一度は平穏に向かったシュヴァルツヴァルト Schwarzwald 地域、ヘーガウ Hegau 地域、クレットガウ Klettgau 地域で、4 月になると、農民たちが、再びそして前回より大規模に結集しはじめた。4 月 6 日、ボンドルフ Bonndorf (Donaueschingen 南西 15km) に、ヘーガウ農民団 Hegauer Haufen とシュヴァルツヴァルト農民団 Schwarzwälder Haufen の合計四千名が、ハンス・ミュラー H. Müller を指導者として集合した⁽²⁷⁾。

[60. Löpfingen (Donaueschingen 南西方) 簡条書が、1525 年 4 月 6 日以前に成立。]

- [61. Röt(h)enbach (Donaueschingen 南西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [62. Riedböhringen (Donaueschingen 南方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [63. Döggingen (Donaueschingen 南西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [64. Unadingen (Donaueschingen 南西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [65. Waldau (Donaueschingen 西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [66. Neustadt (Donaueschingen 西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [67. Täler ([図1]の註を参照) (Donaueschingen 北西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [68. Vöhrenbach (Donaueschingen 北西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [69. Fürstenberg (Donaueschingen 南方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [70. Hausen vor Wald u. Bachheim (Donaueschingen 南西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]
- [71. Göschweiler (Donaueschingen 南西方) 簡条書が、1525年4月中に成立。]
- [57. Stühlingen (Schaffhausen 西方) 簡条書が、1525年4月6日以前に成立。]

4月12日、彼らはフィリンゲン Villingen に再集合して結束を固めた。その後、彼らはヴォルターディングェン Wolterdingen (Donaueschingen 北西数 km)、ノイフルステンベルク Neufürstenberg (Donaueschingen 北西 10km)、フェーレンバハ Vöhrenbach (Villingen 西 10km)、プロインリンゲン Bräunlingen (Donaueschingen 西 10km)、フルステンベルク Fürstenberg (Donaueschingen 南西数 km)、ヴァルテンベルク Wartenberg (Donaueschingen 南東数 km)、エンゲン Engen (Singen 北 10km)、そして、ラードルフツェル Radolfzell 近郊までを支配下におさめた。4月21日、彼らは、ヒューフィンゲン Hüfingen に陣を構えた⁽²⁸⁾。

その後、ヘーガウ農民団は散開したが、シュヴァルツヴァルトは、フライブルク Freiburg との同盟をめざして、西方に向かった。彼らは、5月11日ごろ、ブリーガハ Brigach 川沿いにトゥリーベルク Triberg (Villingen 北西 10km) からライン川水系に出て、キルヒツァルテン Kirchzarten (Freiburg 東 10km) に陣を構えた。まもなく、ブライスガウ Breisgau 地域の他の農民団とともにフライブルクを包囲し、強引に同盟に引き入れた⁽²⁹⁾。

フライブルクから帰郷したヘーガウ農民団は、6月にラードルフツェル Radolfzell 近郊に陣を構えた。しかし、シュヴァーベン同盟軍とオーストリア軍が接近すると、大部分は散開し、6月16日、残った一部分も、ヒルツィンゲン Hilzingen (Singen 西数 km) の戦闘で敗退した。こうして、ヘーガウ農民団も消滅した。なお、クレットガウ農民団は、なおも抵抗を続けたが、11月中に無力化した⁽³⁰⁾。

(9) アルゴイ農民団の抵抗

一方、アルゴイ農民団 Allgäuer Haufen は、1525年4月のヴァインガルテン協定の後も活動を続けた。6月初、彼らはメミンゲンを包囲したが、再度、鎮圧に乗りだしたシュヴァ

ーベン同盟軍の到来で、包囲を解いた。6月13日、シュラッテンバハ Schratzenbach (Memmingen 南 20km) で、両軍が遭遇したが、戦闘は起こらず、それぞれ、ロイバース Leubas に対峙して陣を構えた。しかし、数日後、農民団は不可解な退却行動をとり、分解してしまった。7月になって、農民たちはヨルク・シュミートの下に再結集した。しかし、シュヴァーベン同盟軍が周辺二百村を焼き討ちにすると、7月23日に降伏した。これで、アルゴイ農民団も消滅した⁽³¹⁾。

[49. Martinszell (Kempten 南方) 簡条書が、その後、数ヶ月して 1525 年 10 月 23 日に成立。]

こうして、オーヴァーシュヴァーベン地方の農民戦争は鎮圧された。また、1525 年 3 月後半以来、波及していたフランケン、エルザス、テューリングンの農民戦争も、5 月中に終息をみた。なお、オーストリア領のアルプス地方では、いま暫く、農民の蜂起が続いた⁽³¹⁾。

4. まとめ

農民戦争時に、オーヴァーシュヴァーベン地方で作成された簡条書の時間的、地理的分布の実際が、収集した簡条書（それは、今日、知られている簡条書のほとんどであるが）のそれと同傾向であったとすれば、さしあたり、以下のようなまとめが可能であろう。

(1) 農民戦争勃発の 1524 年 6 月から 12 月までの期間、簡条書作成の事実は確認されない。この時点で、農民たちにとって、簡条書作成は必ずしも反乱活動の構成要素ではなかったようである。しかし、12 月以降、アルゴイ農民団、ボーデン湖畔農民団の活動地域で、簡条書作成の動きが認められる。(2) 1525 年 2 月に、バルトリングン農民団が成立すると、簡条書作成が反乱活動の重要な構成要素となった。2 月から 3 月にかけて、バルトリングン農民団に属する農民たちが地域ごとに作成した簡条書は、確認できるものだけで 38 種にのぼる。(3) まもなく 1525 年 2 月末から 3 月初旬の時期に、(諸文献によれば、これらの諸簡条書をもとに)、メミンゲンで、S. ロツァーが普遍的 (= 超地域的) 簡条書である「十二簡条」を作成した。(4) それから一ヶ月足らずの後、シュヴァルツヴァルト、ヘーガウ、クレットガウ地域で、再び、農民たちが決起すると、今回は、彼らも各地で簡条書を作成した。これらの地域で、1525 年 4 月に作成された簡条書は 13 種を確認することができる。

註

(1) G. Franz (hrsg.), Quellen zur Geschichte des deutschen Bauernkrieges, 1963 ; G. Franz (hrsg.), Der

deutsche Bauernkrieg : Aktenband, Darmstadt 1972 ; F. L. Baumann (hrsg.), Akten zur Geschichte des deutschen Bauernkrieges aus Oberschwaben, Freiburg 1877 ; W. Vogt (hrsg.), Die Correspondenz des schwäebischen Bundeshauptmannes Ulrich Artzt von Augsburg aus den Jahren 1524-1527, Zeitschrift des Historischen Vereins für Schwaben und Neuburg 6-10, 1879-1883.

(2) 例えば、簡条書史料を収集する手がかりとして利用した P. Blickle, Die Revolution von 1525, München 1993, S.331ff.にも、作成時期推定の根拠は示されていない。

(3) 16世紀初頭の時点で、神聖ローマ帝国ドイツは、帝国クライス Reichskreis とよばれる10の法制・行政管区 (Franken, Bayern, Schwaben, Oberrhein, Niedersachsen, Westfalen, Kurrhein, Österreich, Burgund, Obersachsen) に区分されており、この地方はドナウ川以北も含めたシュヴァーベン・クライス Schwäbischer Kreis の一部をなしていた。シュヴァーベンのドナウ川以北では、ヴュルテンベルク公国という大領邦が政治的、軍事的に指導的役割を果たしていたが、ドナウ川以南のオーバーシュヴァーベンでは、それとは対照的に、中小支配権力が乱立して、政治的統一性を全くといってよいほど欠いていた。山本文彦『近世ドイツ国制史研究』北海道大学図書刊行会、47頁以降、渋谷聡『近世ドイツ帝国国制史研究』ミネルヴァ書房 2000年、15頁以降を参照。Vgl. A. Laufs, Der schwäbische Kreis, Aalen 1971, S.24ff

(4) Blickle, a. a. O., S.72ff ; E. L. Kuhn, (hrsg.), Der Bauernkrieg in Oberschwaben, Tübingen 2000, S17ff

(5) Vgl. E. E. Weber, Das nordwestliche Oberschwaben, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), H.-J. Schuster, Herrschaften an der oberen Donau, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), H. Oka, Südlicher Schwarzwald und Hochrhein, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), P. Kamber, die Nordostschweiz, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), A. Niederstätter, Vorarlberg, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), Blickle, a. a. O., S.37ff

(6) 例えば、[図1]を参照。

(7) Vgl. E. E. Weber, Das nordwestliche Oberschwaben, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), H.-J. Schuster, Herrschaften an der oberen Donau, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), H. Oka, Südlicher Schwarzwald und Hochrhein, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), P. Kamber, die Nordostschweiz, (in E. L. Kuhn, a. a. O.), A. Niederstätter, Vorarlberg, (in E. L. Kuhn, a. a. O.).

(8) この文節は、G. フランツ、寺尾聡 他訳『ドイツ農民戦争』未来社 1989年 (G. Franz, Der deutsche Bauernkrieg, 1933, 12. Aufl., Darmstadt 1984)、157頁以降、M. ベンジング、S. ホイヤー、瀬原義生 訳『ドイツ農民戦争 ―― 1524-1526年 ――』未来社 1977年 (M. Bensing u. S. Hoyer, Der deutsche Bauernkrieg 1524-1526, Leipzig 1965)、57頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563を参照。なお、ホイヤーは、このときの蜂起農民を1200名としている。

1524年6月、シュテューリンゲン伯夫人が、領内農民に対してカタツムリの穀を集めるよう命令したことが、農民戦争勃発の直接的な契機とされている。カタツムリの穀は、夫人の趣味であった機織りに用いる糸巻きの(かせ)にする。一方、農民は、小麦の収穫の真っ最中で多忙を極めていた。この事件は、当時のドイツ各地ではじめていた領主による農民収奪強化の事実を象徴している。シュテューリンゲン伯領の蜂起については、H. Oka, Der Bauernkrieg in der Landgrafschaft Stühlingen und seine Vorgeschichte seit der Mitte des 15. Jahrhunderts, Konstanz 1998に詳しい。

(9) この文節は、フランツ、前掲書、160頁以降、ホイヤー、前掲書、62頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563を参照。ヴァルツフートの農民戦争については、前間良爾「ヴァルツフートとその周辺における宗教改革との農民戦争」、『佐賀大学教養部研究紀要27』、1995年に詳しい。

(10) この文節は、フランツ、前掲書、171頁以降、ホイヤー、前掲書、64頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563

を参照。

(11) この文節は、フランツ、前掲書、174 頁以降、ホイヤー、前掲書、66 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563 を参照。

(12) この文節は、フランツ、前掲書、175 頁以降、ホイヤー、前掲書、69 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563 を参照。

(13) この文節は、フランツ、前掲書、179 頁以降、ホイヤー、前掲書、74 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563 を参照。ケンプトン市、ケンプトン修道院領、およびその周辺の農民戦争については、V. Dotterweich (hrsg.), *Geschichte der Stadt Kempten, Kempten 1989*, P. Blickle, a. a. O. を参照。

(14) この文節は、フランツ、前掲書、180 頁以降、ホイヤー、前掲書、75 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563f. を参照。アルゴイ農民団については、M. Haggemüller, *Der Allgäuer Haufen*, (in E. L. Kuhn, a. a. O.) を参照。

(15) この文節は、フランツ、前掲書、190 頁以降、ホイヤー、前掲書、77 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.564f. を参照。

(16) この文節は、フランツ、前掲書、181 頁以降および 204 頁以降、ホイヤー、前掲書、76 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563f. を参照。ボーデン湖畔農民団については、E. L. Kuhn, *Der Seehaufen*, (in derselbe, a. a. O.) を参照。

(17) この文節は、フランツ、前掲書、182 頁以降、ホイヤー、前掲書、77 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563f. を参照。バルトリンゲン農民団については、K. Diemer, *Der Baltringer Haufen*, (in E. L. Kuhn, a. a. O.) を参照。ウルリヒ・シュミートについては、P. Kissling, *Huldreich Schmid*, (in E. L. Kuhn, a. a. O.) を参照。

(18) この文節は、フランツ、前掲書、184 頁、ホイヤー、前掲書、78 頁、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563 を参照。

(19) この文節は、フランツ、前掲書、199 頁以降、ホイヤー、前掲書、78 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.563ff. を参照。

(20) この文節は、フランツ、前掲書、190 頁以降、ホイヤー、前掲書、81 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.564 を参照。メミンゲン市史およびその周辺の農民戦争については、P. Frieß, *Die Außenpolitik der Reichsstadt Memmingen in der Reformationszeit, Memmingen 1993*, J. Jahn (hrsg.), *Die Geschichte der Stadt Memmingen, Stuttgart 1997* を参照。

(21) フランツ、前掲書、199 頁。

(22) この文節は、フランツ、前掲書、197 頁以降、ホイヤー、前掲書、83 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.564ff. を参照。

(23) この文節は、フランツ、前掲書、200 頁以降、ホイヤー、前掲書、103 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.565f. を参照。トゥルフゼスおよびシュヴァーベン同盟についての文献は数多いが、最も簡潔には、H. Carl, *Der Schwäbische Bund*, (in E. L. Kuhn, a. a. O.) を参照。

(24) この文節は、フランツ、前掲書、201 頁以降、ホイヤー、前掲書、107 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.566f. を参照。

(25) この文節は、フランツ、前掲書、203 頁以降、ホイヤー、前掲書、108 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.566 を参照。

(26) この文節は、フランツ、前掲書、204 頁以降、ホイヤー、前掲書、106 頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.567 を参照。「ヴァインガルテン協定」については、H. U. Rudolf, *Ende und Ausgang --Der Weingartener Vertrag und die Folgen--*, (in E. L. Kuhn, a. a. O.) を参照。

(27) この文節は、フランツ、前掲書、207頁以降、ホイヤー、前掲書、116頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.566f. を参照。

(28) この文節は、フランツ、前掲書、210頁以降、ホイヤー、前掲書、115頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.567 を参照。

(29) この文節は、フランツ、前掲書、214頁以降、ホイヤー、前掲書、121頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.568f. を参照。フライブルクをめぐる農民戦争については、渡邊伸『宗教改革と社会』京都大学学術出版会、2001年、275頁以降に詳しい。

(30) この文節は、フランツ、前掲書、206頁以降、ホイヤー、前掲書、217頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.569ff. を参照。

(31) この文節は、フランツ、前掲書、207頁以降、ホイヤー、前掲書、220頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.569ff. を参照。

(32) この文節は、フランツ、前掲書、230頁以降、ホイヤー、前掲書、148頁以降、E. L. Kuhn, a. a. O., S.571f. を参照。ミュンツァーを主要な指導者とするテューリングゲンの農民戦争についての文献は枚挙に暇ないので省略する。オーストリア領アルプス地方の農民戦争については、さしあたり、J. Macek, Michael Gaismair, Wien 1988 を参照。

[表 1] オーバーシュヴァーベン地方農民簡条書の内容

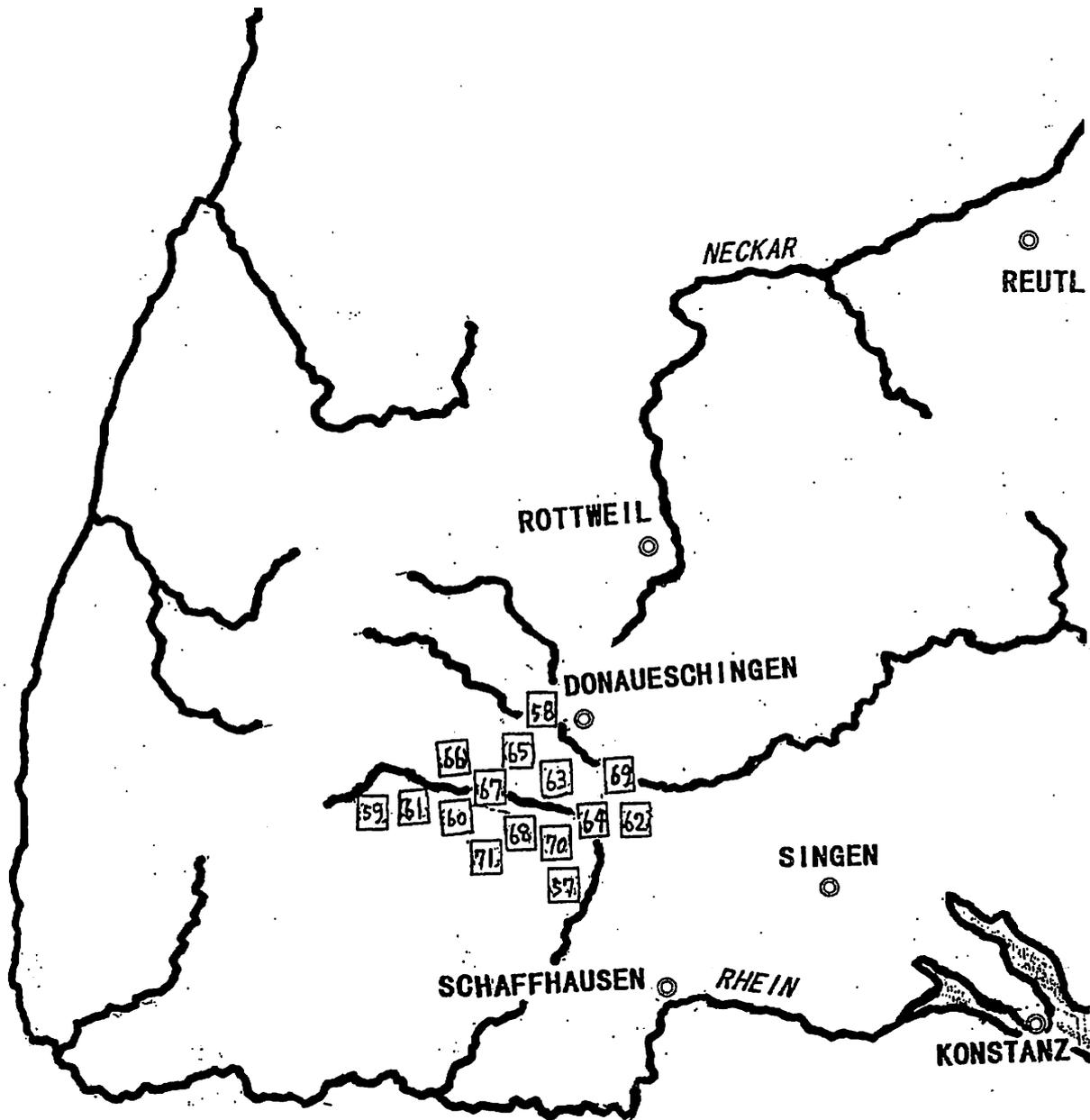
番号	地名	作成期日	作成単位 (所領)	叙述 形式	項目 数	信 仰 ・ 教 会	土 地 領 主 制	体 僕 領 主 制	地 域 支 配 権	共 有 地	そ の 他
1.	Achstetten	25.2.16	1	簡条	11	○	○	○	×	○	○
2.	Altbierlingen	25.2.16	1	簡条	4	×	×	○	○	○	○
3.	Erolzheim, Waltershofen, und Binnrot	25.2.16	数	簡条	22	○	○	○	○	○	○
4.	Pf=anders	25.2.16	1	叙述	3	×	○	○	×	○	×
5.	Unterroth	25.2.16	1	簡条	4	×	○	○	○	○	○
6.	=Opfingen und Griesingen	25.2.16	数	簡条	15	×	○	○	○	○	○
7.	Edelbeuren	25.2.?	1	簡条	12	○	○	○	○	○	○
8.	Bronnen	25.?.?	1	(簡条)	6	○	○	○	×	○	○
9.	Ellmannsweiler	25.3.2	1	簡条	9	○	○	○	○	○	○
10.	RiStissen	25.?.?	1	簡条	11	×	○	○	○	○	○
11.	Warthausen	25.?.?	1	簡条	15	○	○	○	○	○	○
12.	Bach	25.2.21	1	簡条	8	○	○	○	○	○	○
13.	Bu\$mannshausen	25.2.22	1	簡条	15	○	○	○	○	○	○
14.	Untersulmetingen	25.2.?	1	簡条	22	×	○	○	○	○	○
15.	Stadion	25.2.25	1	簡条	5	○	○	○	○	○	○
16.	Schemmerberg und Altheim	25.2-3.?	数	叙述	16	○	○	○	○	○	○
17.	Rot an der Rot	25.2.15	1	簡条	15	○	○	○	○	○	○
18.	Sulmingen und Maselheim	25.2.?	数	簡条	16	○	○	○	○	○	○
19.	Ochsenhausen I.	25.X.X	1	簡条	19	○	○	○	×	○	○

20.	Ochsenhausen II.	25.3.X	1	叙述		(未整理)					
21.	M=onchh=ofen	25.?.?	1 ?	叙述	5	×	○	○	×	○	○
22.	Alberweiler	25.?.?	1	叙述	7	○	×	○	○	○	○
23.	Rottenacker	25.2.16	1	箇条	13	×	○	○	○	○	○
24.	Attenweiler	25.2.16	1	叙述	3	×	×	○	×	×	×
25.	Oggelshausen und Tiefenhausen	25.2.16	数	箇条	12	×	○	○	○	○	○
26.	Unteroth	(5.と重複)									
27.	Oberholzheim	25.2.16	1	箇条	9	○	○	○	○	○	○
28.	Mietingen	25.2.16	1	箇条	19	○	○	○	○	○	○
29.	Guttenzell	25.2.16	1	叙述	1	×	×	×	×	×	×
30.	Mittelbiberach I.	25.2.16	数?	箇条	4	○	○	○	○	○	○
31.	Mittelbiberach II.	25.2.16	数?	箇条	9	○	○	○	○	○	○
32.	=Apfingen	25.2.16	1	箇条	21	○	○	○	○	○	○
33.	R=ohrwangen	25.2.?	1	箇条	6	○	○	○	○	×	×
34.	Langenschemmern	25.?.?	1	叙述	15	○	○	○	×	○	○
35.	Burgrieden, B=uhl und Stetten	25.3.?	数	叙述	8	○	○	○	○	○	○
36.	Baltringen I.	25.?.?	数	箇条	9	○	○	○	○	○	○
37.	Streitberg	25.2.16	1	叙述	1	×	○	×	×	×	×
38.	Baustetten	25.2.16	1	箇条	13	○	○	○	○	○	○
39.	Spital Biberach	25.2.16	数	叙述	1	○	×	×	×	×	×
40.	Baltringen II.	25.2.8	数	(文面を入手できず)							
41.	Schussenried	25.2.25	地域	箇条	12	○	○	○	○	○	○
42.	Ki\$legg	25.2.22	1	箇条	20	○	○	○	○	○	○
43.	Rappertsweiler	25.2-3.?	1	箇条	12	○	○	○	○	○	○
44.	Seehaufen (Lindau)	25.3.6	地域	箇条	3	○	×	×	×	×	×

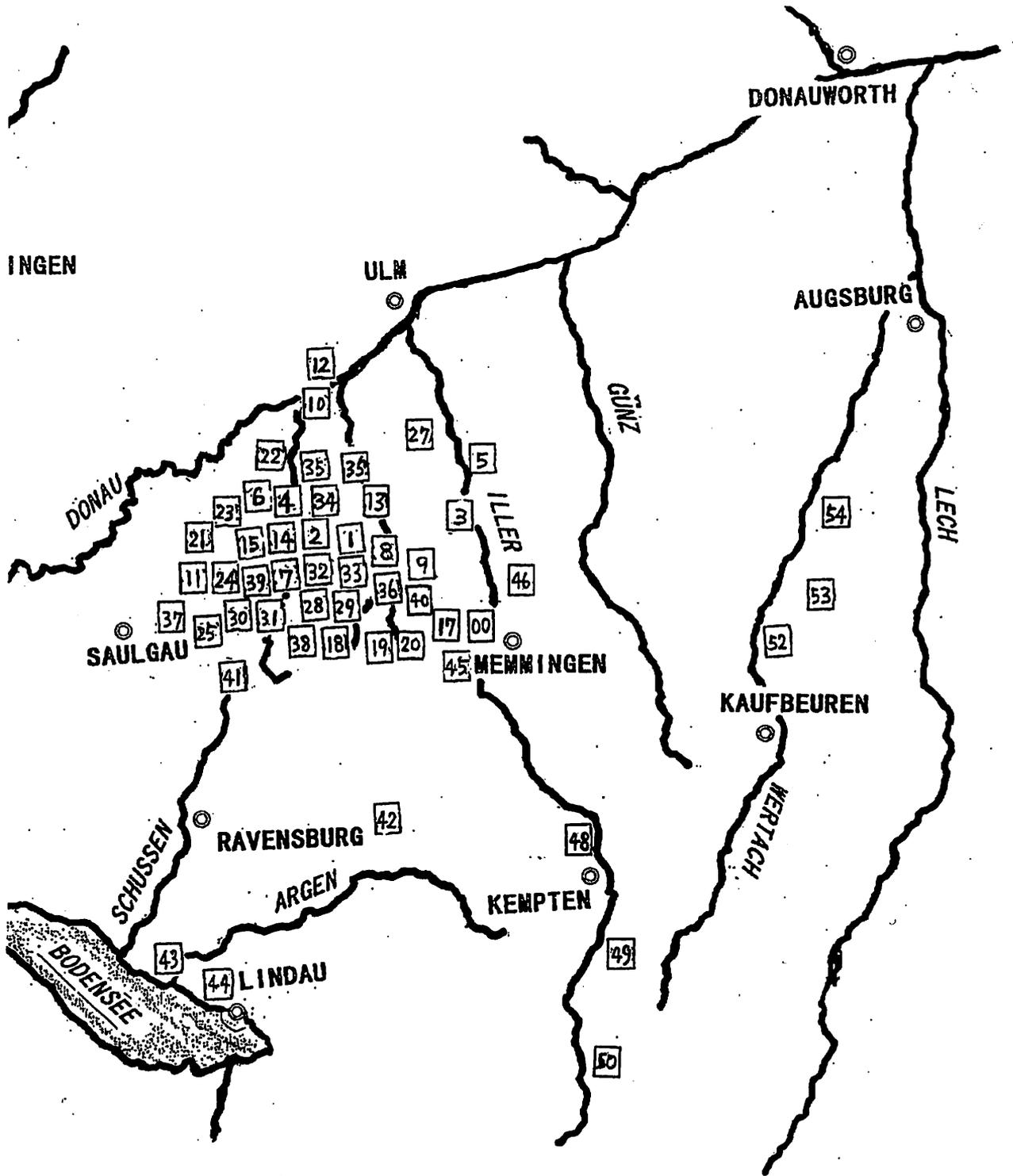
45.	Memmingen D=orfer	25.2.24-3.3	数	簡条	11	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
46.	Steinheim	25.2.15	1	叙述	2	○ × × × × ×
48.	Kempten	25.1.9-14	数	簡条	19	× ○ ○ ○ × ○
49.	Martinszell	25.10.23	1	簡条	12	○ ○ ○ ○ × ○
50.	Rettenburg (Tigen)	25.2.15	1	簡条	23	○ ○ ○ ○ ○ ○
51.	Marktoberdorf (Tigen)	25.2.24	1	(文面を入手できず)		
52.	Weicht	25.3.3	1	簡条	7	○ ○ ○ ○ ○ ×
53.	Wiedergeltingen	25.3.3	1	簡条	13	○ ○ ○ ○ ○ ○
54.	Langenerringen	25.3.23	1	簡条	16	○ ○ ○ ○ ○ ○
55.	Winzeln	2X.X.X	1	(文面を入手できず)		
56.	Hochm=ossingen.	2X.X.X	1	(文面を入手できず)		
57.	St=uhlingen	25.4.25	1 ?	簡条	62	× ○ ○ ○ ○ ○
58.	Brigtal	24.12.18	数 ?	簡条	16	× × ○ ○ ○ ○
59.	Lenzkirch.	2X.X.X	1	(文面を入手できず)		
60.	L=offingen	25.4.6 前	1	簡条	8	○ ○ ○ × ○ ○
61.	R=otenbach	25.4.6 前	1	叙述	1	× × × × × ○
62.	Riedb=ohringen	25.4.6 前	1	簡条	4	× ○ × ○ × ○
63.	D=oggingen	25.4.6 前	1	簡条	7	× × ○ ○ × ○
64.	Unadingen	25.4.6 前	1	簡条	3	× × ○ ○ × ○
65.	Waldau	25.4.6 前	1	叙述	1	× × × × × ○
66.	Neustadt	25.4.6 前	数 ?	叙述	1	× × ○ × × ×
67.	T=aler	25.4.6 前	数	簡条	5	× ○ ○ ○ × ○
68.	V=ohrenbach	25.4.6 前	1	簡条	4	× × ○ ○ × ○
69.	F=urstenberg	25.4.6 前	数 ?	簡条	35	× × ○ ○ ○ ○
70.	Hausen vor Wald und Bachheim	25.4.6 前	数	簡条	20	× ○ ○ ○ ○ ○

71.	G=oschweiler	25.4.?	1	箇条	6	×	×	○	○	×	○
00.	Zw=olf Artikel (Memmingen)	25.2-3.?	地域	箇条	12	○	○	○	○	○	○

* 67. T=aler は、Bregenbach, Hammereisenbach, Sch=onenbach, Langenbach, Linau, Urach, Schollach, Langen-Ordnach, Vierh=aler の各村。



[図1] オーバーシュヴァーベン



地方の簡条書の分布

史料と解題：オーバーシュヴァーベン地方の「農民要求箇条書」

堀口里志・池田利紀（編）

以下は、本研究で収集した「農民要求箇条書」のテキストである。

- 1) 通常、箇条書のタイトルはないので、作成された地名をもって、それにあてている。ここでも、その慣例に従った。
- 2) 年月日は、作成の（推定）時期である。
- 3) 作成場所の地名については、[図1]、および本報告書の「オーバーシュヴァーベン地方における「農民要求箇条書」成立と農民戦争波及過程の相関」を参照されたい。
- 4) 出典の略記は、次の通り。
 - ・ QGD = G. Franz (hrsg.), Quellen zur Geschichte des deutschen Bauernkrieges, Muenchen 1963.
 - ・ DBA = G. Franz (hrsg.), Der deutsche Bauernkrieg : Aktenband, Darmstadt 1972.
 - ・ AGD = F. L. Baumann (hrsg.), Akten zur Geschichte des deutschen Bauernkrieges aus Oberschwaben, Freiburg 1877.
 - ・ CSB = W. Vogt (hrsg.), Die Correspondenz des schwaebischen Bundeshauptmannes Ulrich Artzt von Augsburg aus den Jahren 1524-1527, Zeitschrift des Historischen Vereins fuer Schwaben und Neuburg 6-10, 1879-1883
- 5) 使用した文書ソフトのフォントの関係で、特殊文字については、次の通りに表記した。

\$: エスツェット

=a, etc : ウムラウト

%u, etc. : u等の上に小さいo

#u, etc. : u等の上にアクセント記号

&u : uの上に小さいe

: 

- 6) []内は、テキスト編集者による挿入である。また、[...]は、テキスト編集者による省略である。（原史料の汚損、判読不可能などの事情が推察される。）

7) X)等、条項順を示す半カッコの数字も、原則的に、テキスト編集者による挿入である。
しかし、59.―68.については、本報告者が挿入した(当該箇所の註を参照)。

1. Achstetten, 1525.2.16, DBA 26a

Item und unser anligent beschwernuß, die wyr von Achstetten gegen unseren heren haben myt nomen zu deim edlen und vesten junkher Adam von Fryberg und Getzen Mathey L%ube zu Ulm und zu der frawen von Guttenzel.

Item zu dem ersten so beger wyr, daß wyr versaret werde mit ene pfarer, der uns brege das luder klar gotzward.

2. so beger wir, daß wir ken lipheren sol han dan got alen.

3. beger wir, daß wyr selen deinst fry sen.

4. wan got sen straf =uber uns sent mit hagel, sol dem heren sen anzal dan an der gilt abgan.

5. so beger wyr, daß mir ken klenen zehend selen geben.

6. beger wyr, daß man uns das holz um en zimlich gelt geb wie var altherkumen.

7. so beger wir, daß man uns die mißbrych abdie, es sy durch geiderstagen oder nuebrych, darmit mir beschwert seind.

8. so beger wir, daß man uns la\$ bener z=umlichen gilt la\$ beliben.

[9] Me daß uns beschwert mit deim veßen, die eim bunt send.

[10] Wyder so haben mir en gmen, daß ist en gmen waßer, das mecheim man noch wißen ist, de\$ ist uns durch gewalt entwert warden, ist ouch die herschaft.

[11] Wytte beger mir, daß er mit uns halt hert, sch=afer, wodgelt wie die andern.

< Augsburg, Litt. Nachtr. achstetten, Ausf. Zettel, 44 cm hoch, 15,5 cm breit.>

2. Altbierlingen, 1525.2.25, DBA 26c

Die von Altbirlingen.

Item mir sind beschwer mit der liebaigenschaft, wieter mit den diensten und darum, mir myesen 3 fert ton ains jars anderhalb mil, und das ist vor nye gewen, und so mir uns des gewidert hand, hat man uns in den tur geleg, und darum wellen wir nit me dienen.

[2] Wan mir das ried bannig und uns solt h=ow wassen, das mir unser fiech mit solten uswintren, so schlecht er uns 30 oder 40 hopt in die wiesen, die mir miesen verzinzen, das wellen mir nit me han.

[3] Mit dem hewgen, die band er, und wan aim ain fiech drinn lofft ongefär, so pfend er aim, wie er wil, das wellen mir och nit han, sunder das er uns las by recht bliben.

[4] Item und was der gemain huf behalt, das wellen mir och behalten hon.

< Augsburg, Litt. Nachtrag I. Ausf. (liegt b. Epfingen, Lutz v. Freyberg). - Lutz v. Freyberg

zu Epfingen antwortet kurz, das die von Alt Bierlingen irs furgebens gar kain glimpf und fueg haben (ebd. Ausf.). Ebd. die ausf=uhrliche Antwort Freybergs auf Artzt 889.>

3. Erolzheim, Waltershofen, Binnrot, 1525.2.16, DBA 26b

Hie nachvolgend die punkten und artikel, darab ain gemaind von Eroltzhain, auch die von Waltenhoffen und die von Binrot ainheliclichen lange zeit mit beschwert sind gewesen von der herschaft von Eroltshain.

1. F=ur den allerersten artikel wel wir haben, das wir prediger selbs bestellen m=ugen, die uns das hailig g=otlich wort lauter und rain on allein mentzlichen zusatz verkunden, allein yr predig in der biblia und hailiger geschrift gegrindt seyen, dieselbige wel wir selbs vers=ochen mit aufenthaltung seiner leybsnarung.
2. Mir wellen f=urohin kain leibherren mer han, sonder der leybaygenschaft frey sein.
3. Mir wellen f=urohin kain herrendinst thon.
4. Wir wellen kain klain zehenden mer geben; doch wir wellen den gros zehenden mer geben, wa er hin gehert, wie man den hinder uns und for uns git und helt.
5. So welle mir holtz und wasser und den vogel in liften und das wildthierlin auch frey han und wie solichs hinder uns und for uns gemacht wiert, dabey wel mir beleyben.
6. Mir wellen auch trib und trat nach unser noturft han in medern, in =acker etc., darmit mir bisher gr=olich beschwert sind gewessen.
7. So wel mir f=urohin kain erschatz mer geben, doch das man uns in demselbigen halt, wie hinder und for uns gehalten wiert.
8. So wellen mir die pot, die ainer gmaind zugeherend, das die herschaft nitz da zu verbieten hab, sender wie es ain gmaind verbiut, dieselbige gepot s=ollen verfolgen ainer gmaind.
9. Wan ain herschaft ain oder mer gefanfen num und ain gmaind oder etlich aus ainer gmaind oder ain fraintschaft k=ame, das sollicher gefangner usser geben werd on al widerred uf recht.
10. Ain herschaft sol gehalten werden in dem hiertlon wie ain ander gmaindsman. Soll ferrer kain hiert kain pfeffergelt mer geben.
11. Auch habe mir ain pittel und ain bader, darab mir beschwert sind, wir w=ollen solliche =ampter selber verleych, so doch mir inen den lon miessen geben.
12. Wo ainer etwas fayls hette, wie das genenpt mecht werden, ohne guter, so wellen mir sollichs verkaufen, wa es uns taugt.
13. Mir wellen kain in unser flecken lassen ziehen on der gmaind wissen und wolgefallen.
14. Es sind etlich gutter darmit ain gmaind beschwert ist, gilt zu fieren, etwa trey meyl wegs auf yr aygen kosten und schaden, darab sind etlich beschwert und wend solliche gilt

antworten, wa sy von alterh=or hin hat gehert, solichs wen sy f=urohin nit mer ton, wie sy dan etlich jar han tan.

15. Es sind etliche g=utter, die sind vertaust worden und ist inen nit lieb gewessen und erbgutter gewessen, jetztunder hat man inen gemacht daraus schupflechen und handgelt darzu müssen geben, darmit sind sy beschwert. Jetzunder wellen si solliche g=utter haben zu erbg=utter wie for alterher, auch sind etliche g=utter, die sind gestaygt und beschwert worden mit zinsen und mit gilten.

16. Wa ainer etwas handlo wurd usserhalb der herschaft, es were frevel, ander sch=oden oder hendel, so sol in ain herschaft nit hinausstellen aim andern herren in sein gericht und in in seine gerichtten lausse beleyben.

17. Wa zwin oder mer ain handel mit ain andern hette, es wer frevel oder gepot, so sol man kain ansziehen, man st=ol im dan den widersechner zu recht.

18. Wo ain herschaft leut under im hat, die seyen durch zwingnus der gefenkhus die habend sy gegen im miessen verschreyben um ain grosse sum geltz oder gelipt, da hat sy nit wellen benugig sein, und hab uns selbig miessen verbirgen durch erber leut, da er wolhebig ist gewessen und kan kain andere ursach zu inen finden, wan das sy noch biderleut sind. Solliche brief wollen wir widerum von inen han, wan es ist ums kurz und one recht gewalt gesch=ochen.

19. welche herrschaft wil jagen, die jage dem armen man on schaden.

20. Disse obgeschribne artikel wel mir haben, wo aber mer artikel hinder uns und vor uns gemacht wurde, dieselbige wol mir auch han; darbey geren wir nuits dan das g=otlich recht und das haylig evangeli usweyst.

[22] So der hagel schleht, so sol dem armen man an seiner gielt nochgekassen werden, wie hinder is und for is.

< Augsburg, Litt. Nachtrag II. Ausf. - Letzter Absatz von anderer Hand, die auch bei den =ubrigen Artikeln die arabischen Ziffern in r=omische verbessert hat.>

4. Pf=anders, 1525.2.16, DBA 26m

Junger Sixt von Schinen. Da send seinen aigenlit, die mainen, sie selen kain heren hon den got und selen auch en weder fal und hoptrecht geben und selend auch kain denst ton, er bit den uns darum.

Die gueter, die bestaig, seln im dieselben staig um ain zimlich hantlon gen; und die unzimlich bot abton; und wie er u\$ hab wider drib a trat genommen.

< Augsburg, Litt. Nachtrag I. Ausf. Kleiner, abgerissener, im zweiten Absatz stark

verschmierter Zettel, 16 cm hoch, 10-13 cm breit. Lesart unsicher.>

5. Unterroth, 1525.2.16, DBA 26o

Item wyr etlich arm l=ut zu Underrot sye beschwert gegen unsern junkhern Ertingern von Rechperg etlicher stuck halb, nämlich der gulten, hewgelten, hu\$zins, dinsten, unzimlichen potten und was in gemainen huffen tragen wyr, nicht usgenommen und was der selb gemain huff und ret machen mit allen stucken, es sy libaigenschaft halb, holz, wasser fry, das begere wyr ouch zuzelausen; und der pfarrer zu Underrot hat J=orgen Yelin sein bestandnen widenhoff vertrent wider sei willen gewaltigklich und on recht, des denn der bischof z Augspurg geschafet hat, der widemhof by einander ze bliben.

< Augsburg, Litt. Nachtrag II. Bischof v. Augsburg. Ausf.>

6. =Opfingen-Griesingen, 1525.2.16, QGD 34f und CSB 889

Die Artikel und Beschwerden, so wier haben von =Opfingen und mitsampt wier von Griesingen gegen dem edlen und vesten Junkher Ludwigker von Freyberg.

1. Item anfeaklich wann es sich begibt, da\$ man raiset, so legt man s=ollich Raisgelt uf arm Leit, darumb wier vermainen, s=ollich Gelt nit schuldig sein us der Ursach, darumb das wier Zeins vnd Gilt gebent, darumb unser Junkher billich uns beschitzen und beschirmen soll.

2. Weiter so unser Junkher uns anlangt umb die Leibaigenschaft, darumb wier vermainen, nit schuldig sein leibaigen sein us der Ursach, so wier beschwert seien mit dem Britl=of und och mit dem Hoptrecht und mit dem Fal und das und anders, darmit wier beschwert seien von der Aigenschaft, dann so ain Arman ain Weib nimpt, die nit der Herren ist, so m%u\$ er mit dem Herren uskommen nach seinem Gefallen.

3. Weiter so unser Junker uns anlangt umb s=ollich gro\$, schwer, teglich Dienst, die wier miessen ton one Ma\$en, das wier kain Tag wissen am Morgen, wann wier ufstanden, das wier sicher seien vor seinen Diensten, darumb wier beschwert seien und das nimen erleiden kinde.

4. Weiter so etlich under uns armen Leit send, die umb das Drittail buwent, und so si dem Junkher das Drittail gebend, so gibt er innen weder Strow noch Schweines von demselben Drittail, darumb der Arman nit Vich mag hon nach seiner Notturft, und er unser Junkher mit s=ollichem so vil dess mer Vichs hat, darmit ain Gemaind beschwert und =uberladen ist; und umb s=ollichs so miesend die Gmainden ain Hirten dingen nach seinem Gefallen.

5. Weiter so es sich begibt, das ain Arman ain Wi\$ hat oder mer, davon er j=arlich ain

Zeins gibt, so hat unser Junkher ain Gestiet als vil er will, daruf si teglich gond uf s=ollichen Wißen, di verbannen sind, darmit ain Gemaind beschwert und =überladen ist, darmit wier vermainen, s=olliche Beschwertung =überh=opt und vertragen sein.

6. Weiter so ainer under seinen armen Leit ain Mistin hat, so v=ort er darhinder und niempt ims und gibt dem Arman nichts darumb, und umb s=ollichs vermainen si, [si] seien beschwert und =überladen.

7. Weiter so ain Arman, der weder Hus noch Hof hat und nichts hat, dann das er gewinnt mit seiner Arbeit, und so die Gewinn am allerb=osten sind dem Arman, so m%u\$ er seiner Herschaft etlich Tag umbsunst arbeiten, das dann innen ain großer Mangel und Beschwertung ist, und vermainen sich s=ollicher baidert Artigkel ab und vertragen sein.

8. Weiter so die Fierer in ain Dorf dem Amman gelopt hond, dem Dorf das B=ost nd das Vegerest zet%und, so s=ollen dieselben Fierer selbs Aingen und Verbot ufsetzen, und was si bieten der Gmaind und dasselbig Brot =übergangen wurd, so soll dasselbig Verbotgelt ainer Gemaind gefallen; uf s=ollichs so habend unsers Junkhers Angewelt s=ollichs Verbotgelt z%u ieren Handen genomen, darmit ain Gemaind beschwert und =überladen ist.

9. Weiter ob es sich begab, das Ungewitter kem oder anders, es wer durch Fe=uwr oder durch Wasser, dardurch der Arman umb seine Frichten keme, es wer uf dem Feld oder in dem Baren, vermaint der Arman, so s=ollichs gescheche, ee er die Gilten geb, so soll der Lehenher umb die Gilt kommen sein als wol als der Arman umb sein Frucht.

10. Weiter beclagt sich der Wiert von =Opfingen, wie das im sein Junkher die Tabern gelichen hab und im z%ugesagt, daß kain Wiert sein s=oll in seinem Zwing und Bennen des Wierz Leben lang. Nun aber jetz so hab der Junkher ain andern lassen schenken. Und =uber s=ollichs so ist der Wiert, der s=ollichs beclagt, z%u seinem Junkher gangen und in tre=uwlich gebeten, das er so wol tie und im vor s=ollichem sei. Das hat aber dem Wiert bisher nit m=ußen gon. Und mit s=ollichem vermaint er sich beschwert sein und =überladen, darumb vermaint der Wiert, f=ur die Wil ain anderer Wiert sei, danner so s=oll er seinem Junkher kainen Zeins schuldig sein.

11. Weiter so hat unser Junkher ain M=ulin, da zwingt und dringt er uns darein, das wier darin miessen malen, damit beclagt sich der gemain Man, das er damit beschwert und =überladen sei.

12. Weiter ist jetz bisher gewesen, so ain Arman gestorben ist, so haben die Herren die Gieter gestaigt mit den Handt=onen und mit den G=ulten und etlich Stuck darus genomen, =Acker vnd Wißen, darmit der Arman beschwert und =berladen ist.

13. Weiter m%u\$ ain Gemaind z%u Griesingen alle Jar dem Amman feinfimddreissig \$ geben, und fier Hopt Vichs miessen mier in uf unser Waid vergebens lassen gon, mit s=ollichem vermaint ain Gemaind beschwert und =überladen sein.

14. Weiter habe etlich arm Leit z%u Griesingen Gieter von dem Abt zu Ochsenhusen, dieselbigen Gieter bei Menschengedechnus nie on ansprechlichen haimgefallen sei, aber jetz

und an understat sich der Abt von Ochsenhusen, im, als oft ainer absterb, uf s=olich Gieter, das es im ledig haimfall on Verhindernus all seiner Erben. Nun send vor etlicher Zeit si umb ier Hab komen mit Fe=uwer, davor mit Ungewitter und mit Hagel, dardurch die armen Leit dieselben Gilt nit haben geben kinden. Nun aber vermaint der Abt von Ochsenhusen, das die armen Leit dieselbigen Gilten jetz und an nachher s=ollen geben, das dann der Arman damit beschwert und =uberladen ist.

15. Weiter so wier armen Leit unser Notturft uf gietlicher Mainung anzaigt habe von Erbetterung wegen und von der Versamlung wegen, die dann jetz ist under dem Folk, umb s=ollichs hat uns unser Junkher uns missgehandlet und tret und gesagt, welle uns das nimmer me vergessen, und ob er absturb, so werend doch ander Her nachkommen, das er der Hofnung sein, sie schicken sich och also darein. Uf s=ollichs vermaintet si, beschwert sein von sellicher Veintschaft von ieren Junkher.

Zettel:

Man kan es noch nit also lon beliben, man m%u\$ witt[er] darvon schriben etlich Art=ukel, die noch nit gen=ugsam angezaigt noch herv=ur kr=ummen sind, darmit dann der gemain aren Man so gar hart beschw=art und =uberladen gewen und noch ist, und das so in mengen Weg, das man gen=ugsam davon nit wol reden kan. Item es sind =otlich Lit von dem Iieren gedrunge worden, das ier Aigen ist und recht und redlich und tir erkofft haben, und das s=u das nit kinden noch t=uren nießen noch bruchen nach ierem Nutz und Noturft, und sind um das Jer t=urnt un plekt worden, das Got erbarm, und haben die Warha[i]t nit t=uren reden und des Rechten nit geren, damit und dardurch mier arm Lit worden sind. Und ist also die Mainung, dem Armen och recht sol gon und die Oberkait kain Gewalt bruchen. Item es ist aber gewen und noch ist, wann ain arm Man Recht begert hat, so hat der =Odelman den armen bim goller genommen und gesackt: ich w=ul dier Recht ton und hat in in ain Turn geleckt, das hat der Arm miessen liden, so =um tr=uf=altig Unrecht geschach.

< Augsburg, Stadtarchiv. Großes Blatt, 32 x 45 cm. groß. Nachtrag auf besonderem Blatt von gleicher Hand. Artzt Nr. 889 Auszug.>

7. Edelbeuren, 152X,2.25, CSB 883

F=ur den ersten artickel wellen mir f=urohin kain leibherren mer han, sonder der leybaygenschaft frey sein.

F=ur den andern wellen mir f=urohin kain herrendinst thon.

F=ur den triten wellen wir kain klain zehenden mer geben; doch wir wellen den gros zehenden geben, wa er hin gehert, wie man den hinder uns und for uns git und helt.

F=ur den 4. so welle mir holtz und wasser und den vogel in liften und das wildthierlin auch frey han und wie solichs hinder uns und for uns gemacht wiert, dabey wel mir beleyben.

F=ur das 5., so wel mir f=urohin kain erschatz mer geben, doch das man uns in demselbigen halt, wie hinder und for uns gehalten wiert.

F=ur den 6., so wellen mir die pot, die ainer gmaind zugeherend, das die herschaft nitz da zu verbieten hab, sender wie es ain gmaind verbiut, dieselbige gepot s=ollen verfolgen ainer gmaind.

F=ur den 7., wan ain herschaft ain oder mer gefangen num und ain gmaind oder etlich aus ainer gmaind oder ain frantschaft k=ame, das sollicher gefangner usser geben werd on al widerred uf recht.

F=ur den 8. sol ain herschaft gehalten werden in dem hiertlon wie ain ander gmaindsman.

F=ur den 9., wo ainer etwas fayls hette, wie das genenpt mecht werden, ohne guter, so wellen mir sollichs verkaufen, wa es uns taugt.

F=ur den 10., mir wellen kain in unser flecken lassen ziehen on der gmaind wissen und wolgefallen.

F=ur den 11., wa ainer etwas handlo wurd usserhalb der herschaft, es were frevel, ander sch=oden oder hendel, so sol in ain herschaft nit hinausstellen ain andern herren in sein gericht und in in seine gerichtten lausse beleyben.

F=ur den 12., wa zwin oder mer ain handel mit ain andern hette, es wer frevel oder gepot, so sol man kain anziehen, man st=ol im dan den widersechner zu recht.

Dise obgeschribne artickel und punctken wel mir haben. wo aber mer artickel hinder uns und for uns gemacht wurde, dieselbige wel mir auch han und darbey gerend mir nuitz, dan das g=ottlich recht und das haillig evangeli usweist.

8. Bronnen, 152X.X.X, CSB 885

Der erste Artikel lautet: "Zum ersten da\$ ain pfarrer ain prediger zu Brunnen da\$ luter und clar wort gots verkunden und sagen s=alle, da\$ doch bi\$her verhalten und verboten ist." Der 2. Artikel lautet: "zum anderen der libaigenschaft vermainen sy ledig zu sein, ursach halb, da\$ es nendert in g=ottlicher geschrift erfunden wirt, so ainer ainen sun oder dochter ir ain frumen schaffen ain friacz halb usser seiner gietter, dieweil sie doch uf den seinen seinen giettern nit miegend farsechen worden, dann inen von gott beschwert ist und zugelaussen ist, dormit dann inen glick und hail von gott underwegen blept, alain von de\$ gelcz wegen." Es sind im Ganzen neun Beschwerden =uber zu starke G=ulten, =uber den Holzbezug, =uber Handl=ohne, =uber Hundehalten, =uber den "gilten, wenn der hagel schlecht, da\$ er soll dem heren al\$ wol schlach als den andern".

9. Ellmannsweiler, 1525.3.X, CSB 887

Sitzen hinter Thoman Brudersschwester und Junker Hans von Essendorf. Sie können die Zinsen und G=ulden nicht mehr "verschwingen", begehren der Dienste frei zu sein, bitten um Befreiung von der Leibeigenschaft, "kuin herren zu hen, dan alain gott, der hat uns thuir erkoft mit seinem leiden und sterben." Sie sind beschwert "mit den potten und verbotten, wa man uns vor an ain pfund potten hat, da buit man uns iecz an zway." Holz und fließendes Wasser soll frei sein. "Auch wend mir kuin handtton mer geben anderst, wie dan von alter her," die "keu" soll man ihnen nicht mehr l=anger bannen, als bis zum vierten Laub, Wallb=aume und den kleinen Zehnten wollen sie nicht mehr geben.

10. RiStissen, 1525.X.X, CSB 893

1. Seit dem Ableben des Junkers Sigmund von Stotzingen gebe es im Dorf gar kein Gericht mehr. Erst j=ungst ist einer Nachts in seinem Bett ermordet worden, ohne dass sich eine Hand ger=uhrt h=atte. Es fehlt an Schutz und Schirm. Rent und Gilten werden mit Drohungen gefordert, und mit Spiessen eingetrieben. "sollich =uberl=offung und tr=owung ausserhalb des rechten will ain gantze gemain f=urohin nit meer leydn kainswegs." Die ausstehenden Renten und Gilten wollen sie nicht mehr geben.

2. "das sy kain leybhern w=oln haben als allain gott."

3. Verlangen sie ziemliches Brenn- und Zimmerholz.

4. "das des fließend wasser on strafrichtn und armen zu brauchn erlopt sey zymlichn."

5. "dz sy u\$ g=ottlichm rechtn vermainent kain dienst nit schuldig sein, damit ain gaantze gemain gr=o\$lich beschwert ist gewest und sy lies beleiben, wie es von alter her gehalten ist wordn.

6. Ihre G=uter sind so hoch beschwert mit G=ulden und Heugeld, dass sie eine Minderung erwarten. "wan es ist vor der alt brauch gewest, das die erbgietlin, so ainer abgestorben ist, so ist abfart und uffart nit mer al\$ zechn schilling h. gewestn, jetz ist des noch als vil."

7. Stirbt ein Mayer oder Baumann, so hat die Herrschaft der Wittfrau und ihren Kindern "den dritten tayl der frucht abgeschnitten und hinweggef=urt frucht, strow und schwines," nichts destoweniger aber haben sie die ganze G=ult zahlen m=ussen. Das sei wider das g=ottliche Recht.

8. "Ain herrschaft kain gewalt lau\$en mit der gemaynd anderst ain tayl inen lau\$en widerfaren, wie ainem andern gemainer."

9. "Weder hennen, hyener, ayer, =ol, weysent schilling aus keinem. g=ottlichn rechtn schuldig sein."

10. Hat ein Bauersmann einen Hof erstanden und darauf einen Handlohn gegeben, starb aber innerhalb Jahresfrist, so hat seine Frau, wenn sie den Hof haben wollte, auch wieder den Handlohn geben müssen. Eine ganze Gemeinde ist dagegen.

11. "Alle beschw=arnus, die wider gott und sein g=ottlich recht ist, s=oll g=antzlich ausgereist und nit gehalten noch zugelaßn werdn. darbey begern wir armlent und ain gantze gemain lautter um gotzwilln beystand, rat und hylf zu dem g=ottlichn rechtn, das des war liecht in uns erschein und geb uns alln gnad, schein und wegferung zu der ewigen warhait: dz ist gott vatter, gott sun und gott hayliger gayst amen."

11. Warthausen, 152X.X.X, CSB 903

Hienach volgent etliche stuck, die beschweren send ain gemaind der herschaft Warthausen.

Der I artikel der herrschaftlit ist der, ir gebit und beger um gottes willen, sy nit beschweren mit denen krichtshendeln alle jar ain nuyerung ze machen, darmit doch ain kricht gar beschwert ist, und uns die gobot ringere und uns beliben la\$ by unserm alten herkumen.

Der II artikel ist: das ir uns nit also beschweren mit den hantlern, sunder la\$en uns beliben in ain zimlichen.

Der III artikel ist: das ir uns nit also beschweren mit den k=oen, das sys nit so lang bannen bis uf das VII oder VIII loub, sunder bis ufs drit oder firt lob ongefär.

Das IV ist: wa sy holz us weren gen, des der herschaft zugeherte, daz sy uns einl=oten in ain gemain lo\$ und uns nit weren ussinderen und uns daz gen um ain zimlich gelt. auch syen mir bitten um gotteswillen, wa mir zimerholz weren bedirfen, das sy uns das wellen geben gnug und nach notturft wie von alter her.

Zu V sind gemain herrschaftlit retig worden, gar kain dienst mer schuldig sein zu thun, dan was sy thund us gutem willen, und git weder gelt noch dinst.

Zu VI sind mir herrschaftlit retig worden, daz mir weder hoptrecht noch kain fall wellen gen und nit das der herr wel kumen, das best ro\$ oder rind nemen, wa ainer oder aine sturb, und die beste klaiden darzu und weib und kind usschlefen, und daz uns daz nachgelassen werd allen vogtyschen von hus vom =Osterrich, des sich den heren von Bibrach nit beladen wend nachzulassen.

Zu VII sind mir bittig und retig, da\$ man uns beliben la\$ wie von alter her, sel uns nit stuyren, dan mir syen das nit schuldig, aber mir erbieten uns zu raisen, wa man unser bedarf wie von alter her.

Zu VIII bitten mir, was ainer us der herschaft zu handlen hab gaistlich oder weltlich, daz man in beliben la\$ in denen gerichtten, da er in sitzt.

Zu IX bitten mir, das die gemaind zwayer sy wellen und nit die herren wie von alter.

Zu X sind mir bittig, das sy is die herrschaftecker lihit, auch dienen, die herrschaftlit sind,

und 1 jachart lihit wie von alter her um 1 scheffel roggen oder haber, was daruf stat und on ain hantlon.

Zu XI begeren mir, daz man uns den klein zehenden iberheben wel, dan mir nit willen syen kain me zu geben.

Und zu XII syen mir iberladen mit trib und trapt und begeren, das ain jetlicher blib uf dem seinen und uns auch la\$ triben, da mir recht haben von alter her.

XIII. Auch ist unser beger, das man uns fliesende wasser fryla\$, ursach sy fliesen uns durch unsere gieter, so verderpt uns der fischer unsere gieter und tar unser kainer kain fischlin rege in dem seinen.

XIV. Auch syen mir ybel beschwert mit den gilten und begeren, uns dieselbige uns ringero.

XV. Auch, wa unseren nachpuren etwas am gro\$ zehenden nach w=urd gela\$en, das uns das selb auch nach wurd gela\$en, dan mir sind' auch ybel beschwert darmit.

12. Bach, 1525.2.21, CSB 47

Zum ersten, das mir beschwert seyten der leyb eigenschaft, seyten mir vermainen, das kain mensch eigen sol sein.

Zum andern, daran mir beschwert seyten an t=aglichen diensten, das mir vermainen nit schuldig seyten.

Zum driten, das mir kain klainen zehenden nit schuldig seyten.

Zum fierten, daran mir beschwert seyten mit der hiertschaft, das er am maiste fischs hat und mir den hierten vers=olden myessen, vermainen, er sy auch ain lon schuldig.

Zum f=unften mir beschwert seyten, das er uns geb um ain zymlich gelt holtz zu kafen.

Zum sechsten, das man uns bl=uben lau\$ bey gleichen billichen dingen und ains gerichtts erkennen.

Zum 7 das er uns von schulden wegen an ain guldin geboten hat, mir begeren, das er uns pfantbar halt.

Zum 8 wan der hagel schlecht, das man uns bei billichen dingen und erkanntnus erber leyt abtrag.

13. Bu\$mannshausen, 1525.2.22, CSB 55

Der beschweren und anligen der von Buomenhusen und der ganczen herschaft und ainer gemaind.

1) Zum ersten, da\$ ain pfarer oder brediger zu Bumenhusen da\$ gocz wort luter und clar verkunden und sagen s=olle, da\$ doch by\$her verboten und verhalten ist.

2) Zum anderen der libaigenschaft vermainen sy ledig zu sein, ursach halben da\$ es nendert in g=ottlicher geschrift erfunden wirt, so ainer ainen sun oder tochter mechten ir ain frumen schafen ain\$ friacz halb usserhalben der seiner gietter, diewil sy doch uf den seinen nit migen versechen werden, so wil syr doch libaigen litt so merklich beschweren und halten, da\$ sy nit mugend fersechen werden, dann inen von gott beschwert ist und zugelaussen ist, damit dann inen gluick und hail von gott under wegen plept, alain von da\$ gelcz wegen.

3) Witter me ain gemaind gr=osslich beschwert ist der denst halben, da\$ un\$ er darzu halt mit seinen gebott, da\$ mir im miessend thon alle\$ da\$ er zeschaffen hat klain\$ und gro\$. ob e\$ sy in stet oder in merktend, al\$ wit a\$ sy, al\$ witt a\$ syben mil, weg\$ gott geb wa\$ der arm man ze schaffen hat, es si in wi\$ oder in =acker und da\$ e\$ im undergonn mecht, so mi\$ mir im dennen, und da\$ man h=or, da\$ er un\$ unucz =uberhept, so mie\$ mir im das holcz hinuf tragen by\$ in kuchin und och darzu da\$ sprachhu\$ rumen, und sy och in seinen bruch, da\$ er seech ob dem 22 fiertel lein, e\$ sy minder oder mer, da\$ mie\$ im der arm man alles fararbaitten, beraitten by\$ in sack, und mit g=ottlichem, da ist ain gemaind gr=osslich beschwert.

4) Witter ist ain gemaind gr=osslich beschwert mit den erbgietter, wie sy sind gestanden by kurzen jaren, wen sy sind verkert worden, so habend si geben v schillig uf und ab, e\$ sy durch farkofen oder durch sterben. by semlichem herkomen so lat er nit beliben durch seinen aignen gewalt, da machetz er nach seinen gewalt und lacz by dem nit bliben und schlecht doruf ain halben guldin uf und ab etlichen ain ganczen guldin och uf und ab und mit semlichem da staigt er un\$ unsere erbgietter darob ain gancze gemaind gr=osslich beschwert ist, die doch mir farerbe von enlin und von anne und och von vatter und von mutter und wa die were, da ire vetter enpfielle oder iere man ob sy jung oder alt were, da\$ sie nit kinde wiben oder manen, so wil er die nymen me husen lassen hinder im, sy geben dann im gelt, so latt er\$ den aber husen nach seinem gefallen, gott geb, sy haben man oder wib.

5) Witter ist ein gemaind groesslich beschwert oder der bur\$man mit den lechengietter, da\$ er die gietter minderet und nit meret, sunder vertrennt und zin\$ und gilten meret, e\$ sy mit wa\$ zinsen a\$ sy, und och mit schweren hantlenem da\$ der bur\$man nit mer farmag, die wil er lept; und wenn der pur\$man farlept die viertag und darnoch sturb, so soel man die erben buen lassen wider by zu den vier tagen und die erben die frucht niessen lassen. da\$ hat er\$ bi\$ hieher nit thon. wie lang sie gebuchen haben in\$ jar inhe, wen sie nit haben zugesett und der pur\$man tod sy, so hob man die erben dorvon gestossen, hab\$ nimmten me lassen buchen mit semlichen. so sy der arm bur\$man gr=osslich beschwert da\$ er\$ nimen me liden mag.

6) Witter ist ain gemaind beschwert mit dem me\$ mit ain scharpfen me\$, damit er\$ hinein mest rent und gilt, da\$ er de\$ firtel felt und umher trett und den widerfelt und darnach abstricht mit s=ollichem me\$. do ist ain gemaind gr=osslich beschwert, da maint ain gemaind, wie er user me\$, also s=ol er hinein messen.

7) Witter ist ain gemaind beschwert, de\$ fichs halb, da\$ er\$ bi\$ hieher hat undergeschlagen

ainer gemaind under ieren hirten, da\$ sie ro\$ oder rinder oder schmalfich on alain gro\$ k=olber dar von geb er lon wie den der bruch in der gemaind ist; aber mit andren vich, darvon so geb er kain lon a\$ nachthirten oder taghirten, er gitt inn kainen lon. mit s=ottlichem do sy ain gemaind gro\$lich beschwert. da\$ kind man wol farston, wen der gemaind hirt, wen er inher trib da\$ sy tag oder nacht, so mue\$ er im sein rinderfech in stal binden, och wen er wider u\$tribt, ablesen. und mit s=ottlichem ding, do ist ain gemaind gro\$lich beschwert und kinden =ubel ain hirte =uberkumen, und wenn si denn zu rechter zit kain hirten honnd, so lat er ainer gemaind bieten, da\$ sy ding ain hirten. s=ollich missend sy hart argelten, wenn da\$ ain hirt farstat, da\$ er dem flecken ain s=ollich bott thon hat, so miessend sy im me geben wenn billich ist oder aber wil die schweren burdin nit uf in laden.

8) Witter sind ain ganczen gemaind beschwert von wegen sein, wen un\$ gott der allmechtig ain =acker zuschib, so nem er ainer gemaind iere hirten. de\$ thut er durch sein aignen gewalt und mu\$ im seinen lon fardennen. do maint ein gancze gemeind, er s=oll ainer gemaind yren hirten lassen, wen sy sind sunst beschwert genuog an hewach\$ und an wunn und an waid und haben de\$ =acker\$ schaden und kain nucz. da\$ kind mir wol farston, er bann seine woeld, bonn er fil belder weder man hinder un\$ und for un\$ tut, und mit s=ottlichen ist ain gemaind gr=oslich beschwert.

9) Witter ist ain gemaind gr=oslich beschwert mit etlichen gemainden die hab er ainer gemaind erzogen durch seinen aignen gewalt, da ist ain gemaind gr=osslich beschwert von wegen de\$ holcz und och der waid, da\$ kind mir zu gutter ma\$ wol farston, wenn er hott da\$ holcz ab und bann den da die koe da hab ain gemaind ain grossen beschwert und wenn ain gemaind da\$ holcz faren, so ist ainer gemaind ain grosser beschwert an der waid, wenn er bannt die k=o so lang nach seinem gefallen.

10) Witter ist ain gemaind beschwert mit yren juncker von wegen seiner h=olczer, die latt er ab hohen die da stonnd uf ainer gemaind trib und tratt, da\$ sy ainer gemaind zu gutts an wonn und an waid, da bann er die koe so lang und so fil VI siben jar lenger und kirczer, by\$ da\$ e\$ in gnug dunch, da mie\$ ain gemaind der gemaind berobat sein. darmit sy ain gemaind gr=oslich beschwert, da\$ sy ir fich =ubel arneren kinden.

11) Witter so sol er kain armen man mer strafen, dan allain mit recht, und sy bi\$ hieher nit geschechen.

12) Witter ist ain ganze gemaind beschwert mit denn, die da siczen hinder unseren juncker, die da erbgietter honnd, denselbigen geb er hund - gott geb sy hab un\$ geren oder ungeren, und wenn er h=ort, da\$ sy nit geren haben wend, da tritt er im ain lib straf und in die kechen zu legen und mit s=ollichem, so zwingt er den armen man und farschreckten, da\$ er dem hund zu essen gitt so er best kann und mag; und sollter mangel haben an sainen klainen kinden, so mu\$ er da\$ thon. und wa der hund nit faist genug ist, so hassat er da\$selbig folck a\$ sy frowen oder man und kind, wa er zu in kumpt; so der arm man nun ain juchart oder zwai hat, und weger wer da\$ ainer ayn syle ztog da\$ ain iettlicher biderman zu essend hett

mit seinen klainen kinden so mue\$ er da\$ ain hund geben.

13) Witter ist ain gemaind beschwert die den erbgietter haben, die sind beschwert von wegen holtz, do geb er seinen luitten kain holtz weder zu zimmeret noch zu verbrennen, er guntin\$ dann und da\$ holcz mie\$ mir so thuir koffen, da\$ mir nimmten me verlieden kinden. da maint ain gemaind, er s=ollte einer iettlichen fuirstat holtcz geben nach aller notturft.

Und wie mir nun do beschwert sind in allen artickeln, da bitten mir ucher veste al\$ arm lit, da\$ er un\$ da\$ well abstellen wie ziemlich sy und nach aller billikait.

14) Witter ist ain gemaind beschwert, da\$ ain gemaind ainhellig kain denst zu thon noch weder rennt noch gelt geben, bi\$ da\$ die sach u\$tragen wurd.

15) Witter sind mir beschwert, da\$ uier veste sol helfen zu ainer merer\$ der gemaind.

14. Untersulmetingen, 1525.2.X, CSB 59

1) Jtem alle die zu Undersymentingen sind, die hynder der herschaft zu Undersymentingen sytzen und lehn von im haben, w=olle die herschaft zu ainer oberhand und schyrmhern haben, und die andere nit, die hinder im nit sytzen.

2) Zum ersten bitte und begere wyr, was m=oers der gemaind zu Undersymentingen mit der gemaind nutz ainer f=urnympt und handlent, das denn ain herschaft der ruwig und miesig stande, wie dann von alter her gewesen ist, und ain gantze gemaind darmit lange zyt beschwert und daruf geschlagen und hinwiderumb miessen koufen und III sh. zu einem unzimlichen pottgelt von uns genomen hat, und die andern die nit hinder der herschaft sytzen, niesen ouch die gemainden und w=olle nichtz geben und habe nichtz geben, es mache dann ain m=oers der gemaind.

3) Zum dritten bitte und begere wyr an unser herschaft der hyrtschaft halb, das er von ain yeden hyrten nympt ain pfund ymber und zwaintzig besen und vergebens hietten und darzu sein vych u\$ und einthun, und sye gantzlich darmit beschwert. wann wyr hyrten dinge w=ollen, und k=unde zu zyten kain nit ankomen und die hyrtschaften hin lichen in offnem wirtzhuss wie von alter her gewesen ist.

4) Zum 4 bitte und begere wyr des schmids halb und des mesmers halb nicht bestellen noch hinlichen an ainer gantze gemaind gunst willen und wissen, dann sy m=oder von ainer gemaind hand.

Zum 5 bitte und begere wyr das ain herschaft sych der libaigenschaft halb entschlach und die ledig zel und hantl=oner, hoptrechter, vell, fastnachthennen, h=uner, ayer, und wisatschilling u\$ bit nachzelausen.

Zum 6 bitte und begere wyr der g=ulden halb und hu\$zins und heugelter halb uns den halbtail nachzelausen und kaufmans gut von uns anzenemen.

Zum 7 bitte und begere wir uns by zimlichen diensten lausen beliben, wie von alter her

gewesen ist und darzu essen und trinken geben, wie uns gezimpt und wa unser ainer
=ubernacht miest u\$ sein zerung geben.

Zum 8 bitte und begere wyr, das ain herschaft uns dehaine hund ufbinde und uns nit
beschwer.

Zum 9 bitte und begere wyr ainer yeden hofstat nach zimlicher notturft vergebens holtz
ouch die fliesende wasser.

Zum 10 bitte und begere wyr, das ain herschaft ain yeden biderman lauss mit eren n=oren,
es sy mit koufen als verkaufen und kaine der herschaft nichtz darvon gebn.

Zum 11 s=olle die gemaind pflieger gepieten zu ainer gantze gemaind, was ainer gemaind
anlit.

Zum 12 bitte und begere wyr an ain hersschaft, das sy ainer gantze gemaind helf und
gestatten ain gemainen undergang.

Zum 13 bitte und begere wyr uns zu zelausen und nit hindern ain yeden gemainer,
w=olcher ain hofstat hat die geme\$ ist h=user darauf buwen oder aber die herschaft die seine
abthun, die dann nit von alter gewesen ist.

14) Item der siben g=uter halb etlich unter inen verpfendt gewaltiglich widers recht und
alle pillichhait in seine pfandh=off, darein sy nit h=oren, des begere sy von im erlitten costen
und sch=aden abzethun, bed=achte die stend des punts recht.

15) Item alle die pott =uberf=ure in ainer gemaind will ain gemaind straufen und dieselben
pot selbs habn.

16) Zum ledsten (sic!) alle die mayer zu Undersymentinggen habe miesen holtz hew garben
und zeacker gan und uns nichtz darzu zu essen und trincken geben und schneder gehept denn
die hund und w=ollends numen thun, ouch die s=oldner nit mer dienen. das hat uns zu allen
artickeln geursacht

17) Item wyter w=olle wyr habn und dye herschaft ouch ain gemainer lausen sin mit ain
tayl wye ander, doch das er ouch helf stegen und wegen wie ain ander oder aber das er der
gemainden miessig stand.

18) Jtem witter begere wyr, das ain herschaft sant Othmars erweltn pflieger mit des hailgen
gelt und brief lau\$ des hailigen nutz schaffen und alle jar die pflieger ernuwern und wie von
alter her und ain herschaft die cappeln abrumen.

19) Jtem witter begere wir den fryen gepyrs wie dan von alter gewesen ist.

20) Jtem witter begere wyr all bestand und urfech brieff von der herschaft heru\$ und ain
yeder biderman by ainer glipt lausen bliben und uns weder turmen noch blecken, sonder das
recht mit ain yeden pfliegen.

21) Item wyter send dy gemaind st=ock, die hat ain herschaft u\$ gestocket und dieselben
acker verlichen und die gulten darvon genomen. begert ain gemaind, das ein herschaft der
ruwig stand und ain gemaind darmit lau\$ gefaren nachder gemaind nutz.

Item witter was die hern kayser, reich als puntsstend etwas witer furnume, dann hyrinne

vergriffen ist w=ollend wyr und hyerinne vorbehalten habn.

15. Stadion, 1525.2.25, CSB 67c

Zum ersten so beclagen sy die gemainden under der gantze herschaft zu Stadion Hundersingen Mongoltingen und Mulhusen und Aygendorf und zaygen an wie das sy am allermesten mit der gaistlichen oberkayten beschwert, angesehen sy haben allen zechenden gro\$ und klain die fierin sy sy in, darbey so haben sy so vil ro\$ und rinder, darmit ain gantze gemaindt greslich beschwert sey, angeschehen sy understanden sy und schlahen das strew an wie es inen gefelig ist und anderst dan hinder und for uns. och so niessen sy mit ros und rindern wun und wayd das gantzs far dardurch abermals der gemain man so hart gedrengt wurt, das gantzs onleidenlich ist. och darbey clagen sunder die von Stadion ierr pfarer hab in kain strew wellen geben, das fretzs er und ander mit ierem vich den winter, darmit si den armen man den sumer gantzs und gar uberschlagen, und sunder haben die caplen vich, des wellen sy gantzs nit leiden, angesehen sy haben zehenden anderschwa, darumb nit bollich sey das sy fich haben sollen und vermainen och sy sollen kain kleinen zehenden zu geben schuldig sein und wellen och nit mer geben.

Zum andern so seygen si gantzs und gar beschwert mit der leybaygenschaft, die halten man mit voll und hpuptrechten so schwer, und furnemlich wan ain leibaigen man stirpt, so ist die herschaft dau und nim das best ro\$, desgeleichen wau ain aigne frou stirpt sei die herschaften dau und nim die besten kue und die besten klayder, dardurch zu mengem mal grossen mangel an ieren verlausen kinden erfunden. begern also man solle sy der laibaygenschaft ledig und frey zelen.

Zum dritten so begeren sy, wan sy brenholtz zu haben notturftig wurden das man dan inen dasselbig dermausen nit anderst zu kaufen gebe solle dan umb ain z=umlichen pfenning, und wau man der erndt heu macht sollen dieselbigen mit dem ban nit anderst halten dan nach dem landsbruch das ist bi\$ in des vierdt loub, und wau also ro\$ oder rinder in den gepanen heuwen ergriffen wurden, das man die mit der rugung oder straufgelt nit anderst halten sollen dan ob es in ain korn oder haberacker gepfendt wurde.

Zum vierden so seigen sy mit taglichen diensten und dienstgelt so hart beschwert das inen gantzs schwer sei. begern also man solle inen dieselbigen miltere und ringern, dan oft und dick ainer das sein mu\$ ligen lausen und grosen schaden durch solichs empfachen.

Zum funften so begern sy was under dem gantzen hufen gemacht werd es sy minder oder mer, das solle inen och verfolgt werden.

Hieruf so ist unser arm undertenig bit, ier als die adlen und vesten gunstigen junckhern ier welle uns nit in argem ufnemen ob ainer oder mer zum hufen zuge das darumb ainer sein triu und ayd veracht hette, sunder das darumb beschehe das dye herschaft och ain jeder des der

ba\$ bey dem seinen beleiben mochte.

Und och so seigen sy mit schweren boten ubeladen. begern also man solle inen dieselbigen ringern, darmit sy nit gefarlich ubereilt und getrungen wurden.

Och so begern und beclagen sy sich ob wierten und megkzern: sy schencken und geben ier wein und flaischs und brot wi sy wellen sy haben kain straf von jemen sy haben weder schetzer noch schouer, och so schencken sy mit der Echinger mau\$ und haben sunst allerlay me\$ ellen und gewicht von Biberach. begern also es solle mit inen gehalten werden wie hinder und for uns, deshalb sy begern es solle gewicht und me\$ recht und redlich gehalten werden und inen von ainem ort und nit von zwayen gehalten werden.

16. Schemmerberg-Altheim, 1525.2-3,X, CSB 898a

Gn=adign herrn! wir die armen hinders=assen des abts Salmesweiler zu Schemerberg und Althain algemainlich sind beschw=art in den artickeln, wie hernach volgt. ---

Nach au\$weysung der hailigen geschrift sol ain cristenmensch kain andern herrn haben, dan got den almachtigen. darumb begeren wir von sollicher zwangknus erlost zu werden und weyter weder mit v=all, gl=a\$, ungn=o\$in, noch hauptrecht beschwert zu werden. auch lat unser oberkait alle jar lesen ain unformlichen ungeschicktn artigel-brief, der wider alle billichait ist. darauf mu\$ man schw=orn, darab ain gantze gmaind seer beschw=art ist, und begeren desselbigen entladen ze werden. und so der apt von Salmesweiler unser schirmher ist, so beger wir, dz er uns in seinen gerichtten bey recht la\$ bleyben und furohin kainen wider recht nit straf und uns in seinen gerichtten by recht behalt und hanthabe, damit wir vom lantvogt nit mer beschw=art werden, wie bi\$her beschehen ist. und begerend, das furohin die fliessende wasser und holtz frey sei nach g=otlicher f=ursehung und wie zimlich und billich sy. wir sind auch ab den g=ulten berlich beschw=art und begerend ainer ringerung, dan die jaucharten sind ungleych und sind etlich dem me\$ nach kain halb jauchart und da\$ man f=urohin von ainer me\$ jauchart zu g=ult nem aucht fiertal ve\$en und vier fiertal ve\$en und uns f=urohin bey der g=ult lassen bleyben und nit weyter beschw=arn weder mit h=uner, hennen noch ayer und kain dritail mer von uns nemen, auch uns mit dem fiertal =ol unbeschwart lassen, dan unser kainer baut =ol. wir begerend auch des dienstgelts und der dienst abzesein, dan was ainer mit gutem willen t=atte. wir sind auch ab dem heugelt =ubel beschwart, da begeren wir auch ainer milterung. wir sind auch ab den hantlonern parlich beschwart und begerend, das man ain yeden by seim v=aterlichen inhaben la\$ bleyben ane hantlon und weder wisen noch =acker au\$ den g=utern neme, wie bi\$her bschehen ist. und so got der her uns die fi=uchten nimbt durch reiffen oder hagel, das es dem herren als wol geschech, als dem armen man und an der g=ult abgang nach ansehung des schadens, wie uns laider h=ur =ubel gangen ist. wir haben etlich gmainden, da begeren wir dieselben gmainden

zu niessen nach ainer gantzen gmaind nutz und das uns kain herrschaft daran weder eng noch irre. wir sind auch seer beschw=art mit st=ur und rai\$gelt, dero begeren wir furohin abzesein. wen aber ain landnot angat, w=ol wir mit leib und gut helfen r=otten. der arm hiert mu\$ dem herrn ain fiertal ayr geben, des begeren wir auch abzesein. die armen s=oldner sind mit zeins auch ser =uberladen, ist unser bit, das der herr f=urohin von aim s=oldner, der n=utz hat dan ain lers hau\$, nit mer dan ain pfund haller zeins nem. wir begerend auch auch des klain zechends abzesein, aber den grossen zechend well mir nach g=otlicher ordnung geben.

Wir bitten, euer gnad w=olle uns die obangezaigten artickel nit in argem ermessen und nit dz wir in disen sachen wider unsere gegebne brief und sigel fechten, besonder die gro\$not eraischt, das dan w=olher ain gut bi\$ hieher hat w=ollen bstan, sind im die brief und artigkel vorgelesen worden mit den worten: w=oll er es nit also annemen, so w=ol\$ ain anderer anemen und w=oll vil mer tun dan er. w=olher dann bey seim v=aterlichen inhaben hat w=ollen bleiben, der hat sich des als verschriben, und so es im zu halten gleich unnm=uglich gewesen.

Auch so ist begeer und demiettig byt ainer gemaing, das man lass bleybn die hinder den capl=onen sitzen mit handlener, zeinsen und gylten in aller ma\$ und gestalt, wie der prelat von Salmi\$schweiler seine hindersessen wirdt lon bleyben.

17. Rot an der Rot, 1525.2.14, CSB 34

14. Februar. Aftermontags sant Valentinstag ao 25 haben die gesandten von gemeiner paurschaft meines gn. h. von Rotz untertanen und gotzhu\$leuten seinen gnaden disen f=urtrag than.

Die jetzt entstandenen Emp=orungen r=uhrten nicht von ihnen her, sondern von den geistlichen und hochgelehrten Herren. Die predigten allenthalben, Gott der Herr habe die Gesetze g macht und seine Gesetze seien die rechten. Kein Mensch d=urfte darnach =uber dem andern sein. Sie seien arme Leute, die sich fr=uh und sp=at plagen m=ussten. Desswegen m=ochten sie auch in einigen Artikeln ihre Beschwerden, wie ihnen befohlen sei, sr. Gnaden vortragen mit der Bitte um Abhilfe "und ist daz aller maynung hinder dem gnatzen gotzhu\$ sitzend und dazu geh=orendt."

"Item erstlich so wollend sy nit aigen, und frey sein. dann got der almechtig hab selbs geredt, dz kain mensch soll =uber den andern sein. dabei wollend sy auch begert haben, dz all gerechtigkeit der paurschaft hierin begriffen und s=ollen.

Item zum andern so sollen alle gotzhu\$ guter widerumb zu erbg=uttern gemacht und gest=olt werden.

Item zum dritten des grossen zehend halben lassen sy es jetzo beleiben; und wem er verordnet werde oder wa man in furohin geben solle, wollen sy auch thun.

Item zum vierdten des klainen zehend halben, den wollen sy gar abthun.

Item zum fünften, so wollend mainen und achten wir kainen dienst weder klain noch gross mer zu thun.

Item zum sechsten zins und gultn halbn, ob etlich hern den irn als beswert nachlassen wurden, begern wir, dz die unseren auch nachgelassen und geringert werden. de\$gleichen ob ettliche g=uter dann von alterher beswert und mit zinsen gestaigt weren worden, das dieselben gestaigten zins auch abthun werden.

Item zum sibenden begern und wollen wir, dz alle fliessende wasser frei sollen sein.

Item zum achten, so wollen wir mit e. g. holtzhalben vertrag machen, dz man den gotzhu\$leuten, so gotzhu\$ g=uter haben, holtz geb zu ir notturft und nachmals, dz es nit verkouft wurd, damit nit mangl an holtz werd.

Item zum neunten des rai\$geltz halben vermainen wir, wann wir zin\$ und gelt geben haben, dz wir nit weiter m=ussen raisen.

Item zum zehenden begern wir, dz e. g. unsern kainen in kain frembd gericht zu rechten st=olle, sonder dz ain jeder in seinen gerichtn darein er gehorig bei recht beliben und gehandhapt werd.

Item zum ailften so begern wir dz kain wirt hinfuro kain ungelt bedurfe geben, sy mu\$ten sonst es selbs geben. dann der wirt schlieg in allain uff den wein und m=ussen sy in dester deurrer drincken.

Item zum zwelften, so vermainen sy von keinem gut kain eeschatz zugeben.

Item zum dreizehnden, so ist unser beger, dz man kainen mer fahen und in thurn lege, sonder mit recht strafen wolle.

Item zum vierzehend so begern die richter, wann sy rechten, dz man in ain vortail thue oder ain klain zu essen gebe.

Item zum funfzehenden, wo sy hiemit etlich artikel vergessen, dann sy nit sonderlich bedacht seien, und so es zu t=adingen komen wurd, w=ollten sy inen die hiemit vorbehalten haben, dann sy nit die, sonder ain andere maynung vor inen gehapt haben.

18. Sulmingen-Maselhein, 1525.2.X, CSB 900

So bit mir um gnad und hilf, das uns die beschwernis abgewent wert.

Da bit mir um gottes willen des landvogt halb. mir biten um gotzwillen der leibaigenschaft, das uns das nachgelasen werd.

So sind mir beschwert ab dem t=urn (?), der vor alter nit gewesen ist.

So sind mir beschwert mit den bauholz. das bit mir um gotz willen: lond uns das mit auch niessen wie gut arm leyt, und das fliesset wasser mit vych auch lastit niessen zu zimlicher notturft hus und hof.

Mir sind beschwert von dem gotzhaus von Sulmingen mit dem fiertail des mir miisset geben auf dem feld. mir biten um gotzwillen, das uns das nachgelassen werd. mir erbyettet uns dray fiertal von ainem juchart, es sey lechegieter oder stockacker rock oder haber. das begerit die von Sulmingen.

So sind mir beschwert mit dem h=ogelt und mit dem huszins. wir biten um gotzwillen, das uns das nachgelassen werd der halb tail.

Mir sind beschwert mit hoptrecht auf den lechen oder aygen. da bit mir um gotzwillen, das uns das nachgelassen werd.

Item wenn ainer abstirbt, so begerit mir, das kainer beschwer werd mit den handl=oner, dieweil das geschlech(t) ferhanden ist. da bit mir um gotzwillen, das den erben gelichen werd.

Mir biten unser gnedig frou, das sy uns unser wun und waid la\$ niessen on all gezw=angni\$ wie fon alter, say und ire nachkumen.

So sind mir besschwert mit iren eckerschwinen in wismedern oder in holzmeder. so got ecker git, so bit mir von Sulmingen von Maselhay und von Stayn, das sy uns la\$ mit ir niessen, dye schwein vergeben lassen lefen.

Auch so begerit mir der dienst frey, das bit mir um gotz willen.

Mir sind bisher beschwert gewesen mit stairraisen, nit weiter welit fon morgen bis zu nacht raise. da bit mir um gotz willen, das say darvon staend, und ob sey weiter welt, so wel mir auf iren kosten raisen.

Auch bis hieher sind mir beschwer(t) mit dem zechen, da sind mir mit beschwert, sunder mit dem clain zechenden. da bit mir um gotz willen: stelet ab.

Mir begerit al mit ainander gnad mit den keen. die von Maselhay begerit, das ir acker gemessen werd, so wend mir dray fiertel rocken und haber geben.

Myr biten, das mir nit beschwert mit hofstat von unser wisen, und haissen uns von Maselhay und Sulmingen.

Was ainer mit nutz und mit er mag handeln, da sol man ie niemat niutz schuldig sein witer, dan was er for geben soll.

Der gros zechen sol an die kierche verornet werden. da bit mir um gotzwillen.

19. Ochsenhausen I., 1525.X.X, CSB 891

Alle gemeinschaften gemain beschwerdnussen volgent hernach.

1. "so soll in allen pfarren, so weit sich des gotzhaus Ochsenhusen gr=und und boden streckt, das hailig g=otlich wort des evangelis mit dem neuen testament verk=undt und au\$gelegt werden."

2. Alle die bisher Leibeigne des Gotteshauses waren, sollen der Leibeigenschaft ledig

gezahlt werden, "und nit wie die kye und kolber verkouft werden (sollen), dieweil wir alle nur ain herren, das ist got den herrn im hymel, haben."

3. Stirbt Einer, so wollen sie weder Hauptrecht noch andere F=alle von des Verstorbenen Hab und G=uter geben, noch den Ehrenschatz, "so bisher der zehend pfening erfordert ist worden," "auch die auf- und abfart, wie bissher mit anderhalbn erschatz gewest, noch auch den erbfall, als von hundert pfundn f=unfe zu geben." Wir "achten darf=ur, wir seyens von g=ottlichem recht zu geben nit schuldig."

4. Sind sie beschwert mit Spann- und Handdienst, sie wollen desselben frei sein.

5. Wollen sie kein Seelger=ath, noch kleinen Zehnten, desgleichen Leibhennen, keine Fastnachthennen, keine Herbsth=uhner, "weder g=ult noch hyrtenayer mer geben, dann wir verhoffen solichs alles von gotlichem rechten nit schuldig zu sein; wa wir aber des von g=ottlichen rechten beschayden ze thund schuldig, w=ollen wir uns weysen lassen."

6. Nch g=ottlichem Recht ist jeder frei. Deshalb geb=uhrt sich, dass diejenigen "personen, so bissher auf dem gotzhau\$ boden f=ur ungenossen gehalten worden sind, hinf=uro sich aller freyhaitn, gerechtigkeitn und geniesen wie ander gotzhau\$leut getr=osten, fr=owen und geprauchen sollen."

7. Aecker und Wiesen soll Jeder nach seinem Belieben oder nach seiner Noth versetzen oder verkaufen d=urfen, doch so, dass das verkaufte St=uck "in des herren rent und g=ult" bleiben soll.

8. Wenn ein Gotteshausmensch auf Zeit und Ziel Zins und G=ulten nicht reicht, so soll demselben deshalb "wie hievor ab seinem gut nit geboten werden noch auch deshalb nit in fencknus eingelegt," sondern mit dem Recht gehaldelt werden

9. Der alte Vertrag, welcher zwischen weiland Abt Hieronymus und den Gotteshausleuten aufgerichtet wurde, woll aufgehoben werden, weil er ihnen unleidlich und nachtheilig ist und zu verderblichem Schaden gereicht. Nach dem g=ottlichen Recht seien sie nicht schuldig dem Vertrag zu leben, "ziehen uns des ort zum g=ottlichn rechtu und aller billichait."

10. Die Richter sollen nach ihrem besten Verstand und vollf=uhrten Eid Urtheil sprechen.

11. In allen Flecken soll das unziemlich Verbot, "so ainer ain acker abgeschnitten hat und dieweil der zehend darauf ligt, yemants mit seinem vich oder rossen darauf treiben s=olle, abgethan" werden.

12. Sie sind mit dem Gotteshausschreiber beschwert, demselben soll "ain tax und ma\$, wie zu Memingen, Bibrach oder Ulm in cantzleyen gegeben ist, hier auch gegeben werde." Oder dass man ihnen gestatte, ihre Briefe ausfertigen zu lassen, wo sie wollen.

13. Sie sind erbietig bis zum k=unftigen Concil noch den grossen Zehnten zu geben, aber dass davon die Pfarrer und Messner bezahlt w=urden. W=urde aber der grosse Zehent abgethan, "das wir alsdann des auch entl=odigt und gemainer landsordnung an dem ort uns getr=osten und geprauchen m=ogen."

14. Soll kein Gotteshausmann "umb ainicherley mi\$handlung erstlich fenglich

angenommen werden, sondern soll ime zuvor das g=otlich kayserlich recht gedeyhen" und was derselbige auf Grund des Rechts verwirkt hat, peinlich oder b=urgerlich geahndet werden.

15. "w=ollen wir in allen flecken das k=o\$, desgleichen den waydgang mit tryb und tratt gemein und yedem freyhavn s=umer und winterszeitn."

16. Das Holz soll einem Jeden, auch den Handwerkern, ebenso die fliessenden Wasser "nach vermeg gemaine Kayserlicher recht frey und gemain" sein.

17. Ein Jeder soll "mit seinem hab und gut ain freyen gewerb, warmit er sein nutz vermaint ze schaffen," treiben d=urfen.

18. "Wollen wir hinf=uro dhain steur oder ray\$gelt mer geben, besonder s=oll der grundther umb die j=arich zins und g=ult, so er von seinen armen leuten einniempt, sy sch=utzen und beschirmen nach aller billichait."

19. Sie sind erbietig, "zimlich rent und g=ult, korn und gelt j=arlich zu geben," doch so dass zuerst die M=angel abgestellt werden besonders "mit machung der weyer und waydfech, auch in vil ander wai\$ und weg."

"Und so uns das, wie vorsteet gevolgt, so seyen wir als die gehorsamen underthonen in allen zimlichen sachen, wes g=otlich, nat=urlich und billich ist, gerichtspar, botmessig und gehorsam zu geleben nachzekomen und als unsern gnedigen herrn und oberkait in aller billichait zu erkennen, zu dem wir leib und gut bey tag und n=achtlicher weil getruilich setzen w=ollen. das soll sich ir gnad und gotzhau\$ tr=ostlich versehen."

Hienach volgent die besonderen beschwerden, so die flecken haben.

20. Ochsenhausen II., 1525.3.X, CSB 891

Der Abt soll an keinem Ort "die brach=acker uns zu abbruch und nachtail verbannen," noch sein Schmalvieh "auf unser gep=urend wayd" treiben lassen.

Stainhau\$, ringschnait und Rottum

beschweren sich, dass sie keinen eigenen Seelsorger haben. Sie wollen den grossen Zehnten f=ur "ainen st=aten pfarrer" geben. Ringschait insbesondere beschwert sich, dass man ihnen vier Esch und dazu f=unfzig Juchart Acker entzogen habe und doch sollen sie wie bisher Rent und G=ulten zahlen. Ferner lasse der Abt auf ihren Grund und Boden hunderte von Schafen treiben, das sei ihnen unleidlich. Weiter treibe der Abt Rinder und Schmalvieh auf ihren Waidgang und sie m=ussen dann noch den Hirtenlohn bezahlen; das Gleiche sei der Fall mit seinen Ochsen auf den "auchtwayden."

Die F=urhinmoser sind beschwert mit einem Zins zwei Malter Habers und mit dem Weiher, der ihnen an Aeckern und Wissmadern grossen Schaden thue.

Winterrieden ist beschwert mit "amad m=odem," der Abt m=oge es bei dem fr=uheren

Stand bleiben lassen.

Die von Erlimoss beschwerten sich, dass man ihnen aus ihren Leheng=utern Mader und Aecker genommen habe "und inen ain vermainte widerlegung mit denjhenigen gethon, das vormals ir trib und tratt gewest." Sie bitten um Abstellung. Die gleiche Beschwerde haben die von Oberstetten.

Ergach und Bechtorot beschwerten sich =uber Bannholz und Tannenwald, die der Abt zu ihrem Schaden gemacht.

Die von Goppershofen sagen, "inen sey ain auchtwayd mit gewalt enzogen worden und ainem andern in sein gut gelegt."

Bimlanden klagt, die Amtleute liessen ihnen ihr eignes Holz abhauen, "so in ire h=of geh=ort."

Rainstetten klagt, der Abt "hab inen ir almaind trib und tratt eingenommen und andern eingelegt."

Erosperger und Rotum sagen, ihnen seien auch Aecker aus ihrem Trieb und Tratt hinweggenommen worden.

Thannheim beschwert sich, dass ihnen durch den Hofstaat Trieb und Tratt ohne Wissen und Willen genommen sei, ferner beschwerten sie sich mit dem Weidvieh. Man gibt ihnen nicht das k=o\$ wie von Altersher. Obwohl ihnen die Iller Aecker und Wiesen weggerissen hat, m=ussen sie doch G=ulten und Zins davon zahlen. Sie bitten nach der Billigkeit um Nachlass. "Landerholtz" soll man ihnen wie von Altersher geben. Fr=uher hat man eine Gemeinde "Reittinen" machen lassen, das geht ihnen jetzt ab. Mit dem Umgeld m=oge man es halten wie von Altersher. Man soll einem Gotteshausmann auf seinem erkaufte Grund und Boden, Mad und Acker, "wo geh=ultz darauf steht" "romen und abhowen" lassen nach seinem Gefallen von der Obrigkeit unverbodert.

21. M=onchh=ofen, 1525.X.X, CSB 890

Bisher haben sie ihrer Herrschaft um den dritten Theil gebaut, nun begehren sie "umb ain zimliche landsl=ofige, wie hinder und vor uns, g=ult ze bauen." - Zwar wollen sie ihre "lehenfrowen zu Guttenzell zu ainer oberhand haben," aber begehren "der aygenschaft ze hentlaiden und ledig sein." Mit Raisen und Steuern sind sie merklich beschwert, ihre Lehensfrau m=oge sie halten wie ihre andern armen Leute. Sie begehren wie ihre Vorfahren Brenn- und Zimmerholz. - Auch mit Eier und Hennen wollen sie so gehalten sein, wie ihre Vorfahren und die =ubrigen armen Leute ihrer Lehensfrau.

22. Alberweiler, 152X.X.X, CSB 880

Sie beschweren sich =über den Pfaffen Zehnten, =über den Frondienst, =über Entziehung des Wassers, der Wonne und Weide. "Die libaigenschaft fermainend kain here zu hond, alain den got, der uns erschaffen hat und den menschen im selb gemacht hat." Sie verlangen Brenn- und Zimmerholz um einen ziemlichen Pfennig. Der Landvogt f=uhre manchen Biedermann bei Nacht und Nebel hinweg und wird "on gewarneter sach" mit unleidlichem Gef=angniss gedrungen "um sin lib, er und gut." Ferner sei ihnen einer Pf=andung halben das verlangte Recht verweigert worden. Das m=oge alles abgestellt werden.

23. Rottenacker, 1525.2.16, QGD 34h und CSB 896a

Item der erst Artikel ist von de\$ Me\$ wegen. Von alterher hat ain G%out geben, das ain ganze Hub haist, die hat geben 5 Scheffel Vesen und ain Viertal, und wan ainer hat geben 5 1/2 Scheffel Ehinger Me\$, so hat er die 5 Scheffel und das Fiertal woll migen weren. Nun hat man uns ain Me\$ gemacht, wann ainer jedz schon 6 Scheffel hat, so mag er die 5 Scheffel und das Virtal nit mit bezalen, das ist aim Dorf ain großer Schad und Beschwer, und darum wellen wir, da\$ man uns das n=ui Me\$ abdie und uns la\$ bliben, wie von alter gewesen ist. Item mit dem Haber ist es och also.

Item z%u dem andern, so hat ain H%ub geben 4 lb. Zins oder Heugeld, jetz so hat man uns 30 Schiling druf geschlagen und uns darbi zugesag, mir dieffen weder raisen und dienen, mir m%ussen aber jetz die 30 Schilig geben und darz%u raisen und dienen und mit sollichen sigen mir och fast iberladen und ist och ganz unser Mainung, sollich Beschwer sell uns genz abton sein und uns halten, wie von alter an uns kumen ist.

Item zu dem 3., so hat es sich begeben in Jars Frist, da\$ uns unser Herr der Apt von Blaubyren hat z enbotten, mir sellen zwen bestellen, die sellen warten uf den Krieg. Mir habent tan als die Korsamen und zwen bestell und itwedern geben ain Guldin, wie ain Zittlang der Bruch ist gewesen, doch nit lang. Nun bald darnach ist unser [Herr] ains anderen z%u Rat worden, ee dan in Achtagen, und uns sein Schriber zugeschick, er wel die Lut nit, sunder si sellent im schicken 3 guldin. Do das ist kumen vir ain Gemain, hat es si unbillich gedunkt und ierem Herren zugeschickt und in fruntlich lasen bitten, er sell darvon stan und sel annemen die zwen, die si im bestellt haben, wan sie haben innen geben zwen Guldin und miesti si im jetz dri geben, so werent die zwen verloren, die si den zwai bestellten hetti geben. Darz%u so wer ain Gmaind arm und het jetz z%umal nit Geld; es wer och vor sollich in ierm Dorf nie erh=ort worden. Aber da was kain Gnad, er wolt haben dri Guldin. Und do mir uns also hand gewert der dri Guldin, ward er iber uns erziernt und darnach wolt er nit minder nemen dan 5 Guldin. Und wollten mir mit Frid mit im sein, haben mir im miesen 5 Guldin geben, das doch von nieme erhert ist. Und do mir im die 5 Guldin

geben, hat er uns darz%ou drilo\$ Lit gescholten, darab ain Dorf nit ain klaine Beschwer hat, wan mir hand alweg ton als die Korsamen und weltens noch gern tuen, wen man uns lies bliiben bi zimlichen Dingen. Und selich Schmach und Schaden wellen mir nit me liden, sunder was recht und billich und brichlich ist.

[4] Item von alter hat ain Her von Blaubiren nit me Macht gehept, dan 3 oder 4 Hopt Viech z%ou uns in die Waid z%ou schlahent, jetz so schlech er 20 oder 30 z%ou uns, dardurch ain dorf oft in Mangel kumen ist an Waid, und das wellen mir och nit me han, sunder wie von alter an uns kumen ist.

[5] Item er jetz mit uns angefangen ain niigen Brauch und uns verboten, das kainer sol kain Halbfielh han. Und hat uns sein Amptman verkind vor der Kierchen, es selle jedermann das Halbfielh von im ton umd mit seim Gmainder tailen und, welcher nit Geld hab, das er das Fielh zu im kindi lesen, der selle z%ou im kumen, so wel er im Geld geben, das er das Fielh les und wels sein Her mit im gemain haan. Der gemain Man ist dem Bott gehorsam gesein und hat mit dem Gemainere tailt; und welcher nit Geld hat gehept, das er das Fielh les, der ist kumen zu dem Herren und gemaint, er sell im helfen, wie dan der Amptman verkindt het. Aber der Amptman und der Herr koment dem Verkenden nit nach, sunder dem ainen ward geholfen unddem andern nit; und des ist manger Armer in grossen Schaden gefellen und darum den nigen Bruch mir nit han wend, sunder wie von alter.

[6] Item wan ainer vor im verclagt wirt, es si mit der Worhait oder Unwarhait, so lad er den Verclagten nit z%ou ainer Antwort kumen; er sagt im och nit, wer in verclagt hab, sunder der Verclagt m%ou\$ in Durm und wil er wider ru\$, so m%ous er Brief geben, die Sach nit zu effrend weder mit noch on Recht. Das welen mir och nit me han, sunder so ainer verclagt wird, das er im den anzaig, der in also verclagt hab, und dem Verclagten las Recht gan und nit anlain dem, der verclagt wirt, sunder aim jeden, der Recht begert, sol mans lassen gan.

[7] Item es sind etlich in unserem Dorf, die man hat brucht in Gricht und Rad und waist niemant nicht von inen, dan das si frum und redlich an in selb sigen und von Vatter und M%outer, die sind gefangen worden und hand Rechtz begert. Es hat si nit migen helfen, si hand in den Turen miesen, und hand si wider daru\$ wellen, haben si miesen Brief iber sich selb geben, dardurch si jetz veracht werden. Dieselben Brief wellen mir wider ru\$ han und wellen, das man demselben nachkum. Mir wellen och, das sellich in unseren Flecken nit me beschech, sunder aim jetlichen, der Rechts beger, das mans im las gan und dem Armen als dem Reichen.

[8] Item mit dem Val und Hoptrecht hat man uns bisher hert gehalten. Mit demselben wellen mir uns halten wie unsere Mitbrieder. Item der Liebaigenschaft halb wellen mir uns och halten wie unsere Brieder.

[9] Item der Frevel halb hat man och ain nigen Bruch mit uns angefangen, das da kain Man nie hat erehert. Und ist das, so ainer mit dem andern frevelet, so miessen baid Pardiien mit dem Heren uskumen und mit im vertragen, und wil nit warten, bis die ain Pardi uf die

anderen mit Recht trib. Das wellen mir och nicht han, sunder wie des lang Bruch ist.

[10] Item von alter haben mir von Rottenacker duren anglen und krepsen. Das hat man uns och verbotten, das wellen mir och nit me halten, sunder wellen anglen und krepsen, wie von alter.

[11] Item der Gietter halb, so begriffen sind in unserem Dorf und nenn sich die Valgietter, ist unser Mainung, so die ledig werden, das man die nit sell staigern, och die liechen on Handlon. Und wo sie jetz und bischwert werit mit Zins oder Gilt, das sich der Arm nit druf mecht ernerer und nemlich, so ... sein nit unn=utzlich on werden, ist unser Mainung also, das man sel demselben sein Zins und Gild mindren nach frumer Luten Erkantnus, damit der Arm sein Her kund bezalen und sich und seine Kinder mit seiner Arbeit mug Eren ernerer, es sigen Waser- oder andre G=utter.

[12] Item die Artikel und andre n=ug Bruich, so bi menschlicher Dechn=us angefangen weren und schelich weren dem gemainen Man, ist unser Mainug und Beger, si sellent abton werden, desder williger wellent mir unseren Herren geben Rent, Zins und Gilt und im korsam sein in allen zimlichen Botten und Verbotten.

[13] Item der Defry halb, die ist och ganz beschwert und des der gmain Man engelten m%. Ist unser Mainug, das der Her nem zimlich Zins nach biderber Luten Erkantnus, damit der Wir[t] mug pliben und sich ernerer und der Arm den Wein och mug drinken, wie man hinder uns und vor uns drink.

< Augsburg, Stadtarchiv. Artzt Nr. 896.897.>

24. Attenweiler, 1525.2.16, QGD 34b und CSB 881

Die seint beschwert mit der L=ubaigenschaft, wann sie wellent kain andern Her haben, dann anlain Gott den Allmechtigen, wann der hat uns erschaffen. Wann mir vermainden auch, das die gotlich Geschrift, das nit auswiße, das kain Hern kain Aigenmensch haben soll, wann Gott ist der recht Her.

Aber mir seint berlich beschwert mit der Va\$nachthenne, auch mit dem Vall- und Hauptrecht, auch wider wann ainer stierb, so kumt dann erund taitt mit der Frou oder mit Man. Wann mir mainden, es sie w=uder die gotlich Gerechtigkait, das er unsere Kinder erben soll. Das erbarm Gott in deinem ewigen Reich und darum liebe Brieder, das seint unsere Beschwert.

< Augsburg, Stadtarchiv. Artzt Nr. 881.>

[1] [...] so hat es die gestalt, das die stifter an disen und vil orten ire aygne gutter frey von der hand aus genaden den armen [auf] deren erfordern geben und verseechen mit disem vorbehalt, das dise gutter furterhin gar niemants kann noch mag innhaben, nutzen und brauchen dann gotzhauslutt, doch zu underhalt unsern forfarden und uns zimlich und klain zeins daruff geschlachen, also, so etwa ain gutt 1000 pfunt wert ist, ain pfund haller minder mere, wa ain klaine frucht als ain viertail kernen oder vier firtail habern und sunst ganz in kain weg beschwert. Wir haben auch nit macht, kain dergeleichen gutt zu staigen noch zu bekumben oder zu unsern handen ziechen, sy durfen auch kain dinst tun weder raisen noch sturen, anderst dan die klaine zinsle zu geben, die unser amptman gar in schweren costen einbringen mu\$. Wir haben auch, wie menigklich wissen ist, kain gewisse nach gesetzte gult, mochten auch furter unser stand und narung nit mer haben und halten, wie woll wir etlich zechenden haben, müssen aber u.g.h. von Costentz die quarten und schwere vogtrecht geben, darneben erwarten abgang, weyter nott und mi\$gewechst und uns darmit underhalten.

[2] Item was sich dann fur spenn und irtungen zwischen innen begeben und zutragen, so müssen sy ain andern vor unsern gerichtsstab uff unser pfalz furnemen, die gutter mugen an kainem ort und gericht gerechtfertiget werden dann vor unserm stab; derselben gericht wir jarlichen innen zu gut drew in schweren costen halten müssen (ist von der zeit und anfang der stiftung allwegen brucht worden, wie sy sel\$ wol wissen).

[3] Item als sy anzaigen, wie sy beschwert sein mit den hauptrechten, hat es die gestalt, so ain Corneliermensch mit tod abgatt und verlatt ain gutt, was dann uff dem gutt statt, rosse oder fuch, do doch sollten nicks namlichs erfunden wurdet, dasselbig geh=ort alsdann uns, doch so die erben begerren, das zu erlossen, so ist dem amptman befolchen, das umb ainen zimlichen pfenning anzuschlachen und zu nemen nach ains yeden verm=ogen und namlich, wo klaine unverzogne kinder und erben sind, den dritteil daran nachzulassen, wiewoll es der gestalt selten kompt, dann, wann der fatter oder mutter abgatt und kinder hinder innen lassen, dieselben st=ollen ainen gemainen lehentrager gewonlichen den allerjungsten under innen, deshalb es vil zeit in 20 und 30 jarren etc. erst der fall gibt. Das ist der erschatz, sonst durfen sy gar kain erschatz geben und allwegen one irtung also gehalten worden. Item wo aber ain gotzhawsmann mit tod abgatt und kain corneliergutt verlatt, ist kain hauptrecht schuldig, sonder den leibfall als klayder und jarlichen und gottspfennig zu geben, darfur geben wir ainem jarlich ain brot.

[4] Item als sy sych klagen, müssen die klaiden geben, so ain cornelier stirbt, hat es die gestalt und allwegen ruwig brucht worden, so ain gottshausmensch, frowen oder mann, mit tod abgand, so gehorend die klaiden dem hayligen, doch ob die erben die begerten zu lossen, wirt innen zugelassen und umb ain zimlich gelt geben; dasselbig gelt gehort dann dem hayligen und wurdet brucht an den baw und gottszirden.

[5] Item als sy vermainen furter mer kainen herren zu haben dann gott den almechtigen, lassen wir sein, aber die stiftung und loblichen freyhaiten weyssen u\$, das ain yeder corneliernensch, frowen und man, in freyen zug in st=otten des reychs oder der herren oder in merkt zu ziechen und haben m=ogen, wie dann innen uff dem pfalzgericht j=arlichen druw mall verlessen wurdet, unverhindert von uns, wir mugen sy an dennen orten nit abfordern, doch sollen sy uns herwider f=all, gele\$, hauptrecht und ungenossam verfolgen lassen, also ist es allwegen gehalten worden und nie darwider gewessen.

[6] Item wie [sy] sich dann beschweren mit dem ungenosseinen, ist die sach also gelegen, so ainer ain weyb nempt, so gibt er gewonlichen sein weib an das gottshaws, damit sein weib und kinder der freyhait des gottshaws tailhaftig werden mogen und erben, alsdann wurdert derselben personn ain zimliche straff uffgelegt, darzu ain pfund wachs dem hailigen. Sonst viellen die gutter an ander erben oder gar frembd ort, alsdann ain yeder gotzhawsmann ain corneliert gutt mag anfallen, der ains in ainer andern hand, so nit cornelier ist, findet, den müssen wir es dann leychen lutt der freyhait.

[7] Item wie sy dann begerren uns des farens am Federsee zu enziechen und furter nit me zu verleychen, ist wissenlich, das ain abtissin uff den Federsee gefurst ist und die F=ahre seit alters innehat und sie mit Leuten versehen l=a\$st, die die Fremden um zimlichen lonn, die botten und armen leut umbsunst on verzug furen, dann es ist sonst am ganzen see kain rechte landsstrass. Sie haben k=urzlich Leute =ubergef=uhrt und uns unserer Gerechtigkeit entsetzt.

[8] Item als sy vermainen, wir sollen innen zugeben, die Corneliertgutter ze beschwern und zu verkumben, ist kainswegs nie erhört worden oder brawcht, were auch wider die stiftung und freyhait, denn die gutter konden und mugen one unser verwilligung nit verkumbert werden, doch so mag ain vatter seine kind darum woll sondersessen und ussturen, darwider wir nie gewessen. So innen das gestattet, wurde es gar wider sye werden, das sy nit erkennen wellen, und die gutter mit gar kurzer zeit in frembd hend komen, versetzt und beschwert, de\$shalben sye uns furter unsere zinsle, f=all und hauptrecht nit mer geben m=ochten, es wurde ouch darmit das pfallitzgericht abgann.

[9] Als sy dann anzaigen, wie die gutter schwerlich an sy komen und erkouft haben, geben wir zu, noch dann ruxen sy vom stift her und gehort die lechensgerechtigkeit nicht desterminder uns zu.

[10] Item als die von Tffenbach in sonder begerren, das wir uns der wald und buholzer ouch enziechen und furter zu iren corneliertgutter gehoren, befrembt uns nit klain, unseres aigentumbs zu entsetzen, dann es ist vor augen, das sy vil weld und h=olzer neben andern welden haben, so zu im guttern h=orend, wir gestanden innen gar kainer gerechtigkeit anderst, so es zu der hornung kompt, so hat ain gotshausmannen, der ain gutt hat, die recht, das er ain hornungbuchen mag howen, darwider niemand nie gewessen ist, wir haben auch gewalt, so ainer in denselben welden sch=adlich t=att howen, zu straufen, das zu vil zeiten geschechen ist unverhindert von menigklich.

[11] Wir seyn auch grundfrow innerhalb und usserhalb der ettern, haben auch sunder vil gerechtigkeit an demselben ort.

[12] Falls sie darauf beharren, embietten wir uns ains u\$traglichen rechtens vor ewch, dem richter, hauptman und gemeinen stenden des loblichen punkts als unser pundsweranten und zu mer uberflu\$ und zu gutt der sach mugen wir leiden guttigkeit furnemen, doch uff hinder sich bringen an die verwanten des gottshaws.

Wollen darum innen von baiden dorfern und andern gotshawsleuten zu der weil und hiemit geantwurt und darum abgelaint, ob weiter dergleichen clagen fur ewch kumen wurden, haben.

< Stuttgart, Weingartner Missivb=ucher V, fol. 360-70, Kopie.>

26. Unterroth

[* 5.と重複。]

27. Oberholzheim, 1525.2.16, DBA 261

Item die ersamen und weyssen burgermayster und ratt der statt Bibrach und wirdige =aptyssin und convent des gotshus Gutzzenzell seind oberer des dorfs Holtzen, gegen w=olchen die von Holtzen ir beschwernis und dyse nachfolgende artikel abzelaßen begert haben.

1. haben sy uns ufs h=ochst verboten, das wir uns nit sollen zum huffen ziechen, welches uns unlitlich ist gewest, angesehen die n=ache und nachpurschaft.

2. die beschwernis der leibaigenschaft halb.

3. das sy beschwert seyen, im klainzehenden zu geben.

4. [...] das man das schweynis und stro im dorf la\$ beleyben und umb ain zimlich gelt anschlache, das dan vom grossen zehenden ist.

5. das man ain jetlichen ain notturft zymerholz gebe und brenholz um ain zymlich gelt.

6. dieweil die Rott iren flu\$ hat durch ir waid und trat, vermainen sy billich sein, due usfly\$, wie von alter her gewest ist, aber gemain sein.

7. haben sy beschwernis von der gietter wegen an zins, gylten und handloner, auch wegl=oSene, auch etliche g=utter zu gmain und tail, welches das gar untreglich ist.

8. wan schaur und hagel schlecht, so w=ollen sy dennoch ire gulten haben, das uns auch gar schwer und unleidlich ist, dieweil wir unsere kost und arbeit verlieren mie\$en.

9. sein sy beschwert in etlichen artikel inen als den richter uffgelet, nemlich das inen

verbotten ist von der oberkait nyemant kain stollen stellen und umb frevel niemant kain zug zu geben, weyter von frevel wegen kaim kain zeuge zu h=oren, de\$ doch alles von alter her nit gewesen ist.

< Augsburg, Litt. Nachtrag. Ausf.>

28. Mietingen, 1525.2.16, DBA 26k

Des flecken Mutingen beschwere.

Item des send unser nachgestimpte stuck, wie hernach volgt, dem ist also und des ersten w=olle wyr ain aptissin z%u Heg[bach] z%u ainer oberhand und schirmherrn haben und sie uns bey irs gotshus frihaiten behalt und beliben lau\$ wie das von altersher gewesen ist.

2. bitten und begeren wyr der gulten halb von ainer yede juchart ackers allain und besonder von uns anzuenemen jarlichs, was daruff erpuwet wirt 3 fiertal, dann mengklichen wyssen ist, das uns die fruchten etwe vil jar durch hagel, risen underzogen sind worden, darmit wir den gutern nit mer vorstan kunden und uns und unsere kind nit mer ern=oren k=unden und dehain biderman dem andern nit mer halten kan, wes er gehaist, und die hu\$zins und hewgelter halb ze geben.

[3] Bitten und begere wir, der trib und trat, wunn und waid und der gehow halb, denn sie hyrin triben uns sher ab bis an unsere garten, des denn von alter her nit gewesen ist.

Zum 4. Bitte und begere wir, der holzm=ode halb ist uns von der herschaft verbotn und sye darvon gedrungen worden, das uns kainer mer in kaim holzmad, es sye lehen, erbg=uter oder sunst lehen, kainer nichts darin howen, weder ligends noch stends, klains noch gro\$, und die nit raumen nach unserm nutz und wye von alterher nit gewesen ist

Zum 5. bite und begere wyr in unsern gemainden alle pott und verpot durch unsere geschworenen viertel tun und die ain gemaind haben, wie von alterher gewesen ist.

[6] Wyr bite und begern ainer yede hoffstat, so vil ain yeden gez[imt] nach zimler notturft vergebens holz wie dann [ain] herschaft iren andern hinders=assen gibt und inen selbs hat, auch hinder und vor uns ist; ouch die flie\$ende wasser, ouch alles acker gemain.

[7] Wyr pitten und begere an unser oberhand und schyrmhern, das sie uns der libaygenschaft halb entlassen und ledig zel.

[8] Wite bite und begere wir, das ain herschaft von h=urten, es sy eschhay, nachthyrten ald taghyrten, kain gelt mer von inen nemen, dann ain yeder bidersman das hat entgelten m=ussen, und wyr sye bestelle oder dinge.

[9] Wye sich ain yeder biderman n=oren k=und mit eren, es sy mit koufen ald verkoufen, des nachzelau\$en und kainer herschaft nichts darvon geben.

[10] Bite und begere wyr, das ain herschaft ayn yeden biderman zimlich straufe und nit

t=urmen, sondern wie von alterher.

[11] Bite und begere, das ain herschaft aller unser gemaind r=uwug staund und kain gelt darus nyme und l=o\$e.

12. Wa die hern oder die ammenner des punts etwas mer ader minder furnume, w=olle wir uns das vorbehalten haben.

[13] Die wyse ligend iner gemaind namlich die zwen obern wyes und der Hutrechner wyes, die w=olt ain gemaind gem haben, oder aber widerlegung anzaygen, dan an allen orten unden und oben gemaind ist.

[14] Bite und begere wir ain herschaft, das kain schmid hie im flecken nichts news helfen kenne, dann allain wie von alter her und wie er angedingt ist.

[15] Item uf alle nachgstimpfte stuck, wa wyr ze fil oder ze wenig getan hetten als vilicht unpillicher wi\$, w=olle wyr uns lausen wisen und entschaiden, wie sich gep=urt und wie wyr erlich k=unden.

[16] Item witer pitte und begere wyr, das ain herschaft uns beliben lau\$ des raisens halb von morgens bys ze nacht, wie von alterher gewesen ist.

[17] Zum ledsten bitte wyr gn=adigklich und frainlich als arm l=ut an unser oberhand ald wahin die obgestimpte artikel und beschwernusen geantwurt werden, die umb gotz willen wol ermessen und betrachten, das wyr furohin durch unser grosse arm%out, angst und nott der herschaft brief und sygel, weder glipt, er und ayd nit mer halten kunden und miesen von gutern vertriben werden.

[18] Zum 1. biten und begere wyr an u. g. fr. als ain oberhand, das uns der libaigenschaft halb entlas und ledig zele und sye zu ainer oberhand haben, wie zimlich ist und sich gepurt, und die hantlonen, hoptrechten, vell, fastnachthennen, h=uner und ayer us gnaden und pit nachzelausen und zimlich dinst von uns anzenemen.

[19] Witer arme eelut und witwe, die nit lehen noch aigens haben, dinstfry sitzen lausen, wie von alterher gewesen ist; und niemantz in flecken hinein ziehen lausen an ainer gemaind gunst, willen und wissen, dann mit inen beschwert syen.

< Augsburg, Nachtrag Mutingen. Ausf. stark verbessert. Urspr=unglich Art. 1-12 von Hand A., Art. 1, 2, 5, 7 und 12 von Hand B. v=ollig neugeschrieben, in den meisten anderen von Hand B und C Verbesserungen. Von Art. 13 ab von Hand C nachgetragen mit Verbesserungen von Hand D. Da das St=uck au\$erdem stockfleckig und durchl=ochert ist, ist es stellenweise nur schwer entzifferbar. Geringf=ugige Ab=anderungen einzelner Worte wurden in den Anmerkungen nicht ber=ucksichtigt. Statt "Wir wollen" oder "wir sein beschwert", ist in dem Eingang der Art. 1-14 stets von Hand B verbessert "Wir bitte und begere".>

29. Gutztenzell, 1525.2.26, DBA 26i

Wir haben keinen Grund, uns =uber u. g. fraw von Gutztenzell zu beklagen, da sie gegen uns keine Neuerung vorgenommen hat, wir sind nur durch unsere Nachbarn zum Mitziehen gezwungen worden. Wir bitten um Rat, wie wir uns vor Schaden bewahren k=onnen.

< Augsburg, Litt. Nachtrag Gutztenzell. Ausf., von Kanzleiband, stark verblaßt.>

30. Mittelbiberach I., 1525.2.16, DBA 26e

Ain gmaind der vogty Mittelbibrach ist bschw=art ob den nachgemelten artikeln.

[1] Item als die g=otlich gschrift clar anzeigt, das ain cristenmensch kain andern herren hab dan got den altm=achtigen, so hat sich die =aptissin von Bucho by kurzen jaren understanden und die korn=olgerleut geaignet und die beschw=art mit f=allen, gl=a\$, ungn=ossin und hauptrecht wie aigenleut, das die g=otlich gschrift nit ausweyst, und stat clarlich in iren freyhaitbrieffen, das ain yeder korn=olgermensch sey als frey als der vogel auf dem zwey und mug ziehen und sich setzen in st=ot, markt und d=orfer unverhindert aller herren. Von der freyhait hat sy uns gwaltiglich trungen und uns gr=o\$lich beschw=art mit f=all, gl=a\$, ungn=ossin und hoptrecht wider das g=otlich gsatz und alle billichait, auch wider ier aigne freyhaitbrieff, und ist unser beger von sollicher unbillichen beschw=arung entlediget ze werden.

[2] Item weyter haben wir freye korn=olgerg=uter, die von ainer =aptissin von Bucho frey lehen sind, die wir ererbt und erkauf haben, die beschw=art sy uns auch gwaltiglich, das ain arm man mit seim aigen gut sein nutz nit schaffen kan und darauf weder entlehen noch versetzen darf, und mu\$ menger by seim aigen gut hungers sterben. Sy hat uns auch der vermelten g=uter beschwart mit dem jauchrogen, und waist niemand, warumb man ier den schuldig sein sol, darab wir auch barlich beschwart sind.

[3] Item wen ain korn=olgermensch sich verheirat in andern herschaften, so hat sy sych by kurzen jaren understanden und strafft ains um ain ungn=ossin nach irm gfallen wider ire aigne freyhaitbrief und wider das gotlich gsatz, darab sind wir auch gr=osslich bschw=art.

[4] Item ab dem klainzechend sin wir auch b=arlich bschw=art und begeren, des entladen ze werden, aber den gro\$zechend la\$ wir nach gotlich ordnung stan, doch das des stro darvon wider in unsere guter k=am.

< Stuttgart, Weingartner Missivbuch V, fol. 409-10.>

31. Mittelbiberach II., 1525.2.16, DBA 26e

Die bschwerung gegen dem vogt zu Mittelbibrach.

[1] Item wir sind bschwart mit den diensten und va\$nachthemen, w=olhe kaine leheng=uter von im hand, und begerend, des entladen ze werden.

[2] Item wir w=ollen unsern vogt lieber zu aim schirm und vogt haben, dan kain andern, wir sind aber bschwert ab dem lantvogt, das er also einfelt in die vogty, und ist unser beger, w=oll er unser vogt sein, das er uns furohin in seinen gerichtten bey recht hanthabe und uns mit dem lantvogt unbesch=art la\$, auch aim yeden aus der vogty in seinen gerichtten und all sachen bey recht la\$ bleyben und kainen anders straff dan mit recht.

[3] Item der vogt hat auch he=user lassen bawen in der vogty, da vor kain hofstat ist gewesen, darab ist ain gemaind auch beschwart, dan es von alterher kain brauch ist.

[4] Item ain gmaind der vogty hat alweg macht gehabt, mit dem vogt bot und verbot ze machen in holz und in veld, bey dem lat uns der vogt nit bleyben und macht bot fur sich selbs, darab wir ser bschw=art sind.

[5] Item wir sind auch ainstails vast bschwert an den eerschätzen, und weist das die hailig gschrift nit aus, und begeren des entladen ze werden.

[6] Item die flie\$enden wasser in der vogty, begeren wir, das die furohin gmain seyen nach gotlicher fursehung.

[7] Item auch hat er sich understanden und hat das waser am Robach verboten einr gmaind, das ist ain freies waser all mensch in der vogtei.

[8] Item die korn=olgerleut und iere guter von Stafflangen, von Aycha, von Hoffen, von Eligkofen hand auch die bschw=art von der aptissin von Buchaw in aller ma\$ wie die von Mittelbibrach mit der eigenschaft, f=all, gla4, ungn=ossin und hauptrecht, auch der dienst gegen irn v=ogten und ab dem klainzehenden, begerend der entladen ze werden.

[9] Item die bschwernus gegen dem w=usen burgenmaister Jacob Velber zu Bibrach, die seine eigenl=ut hand mit namen Ulrich Braunen hausfrow und ire kinde, die wellent kain ander hern haben dann annlain got denn allmechtigen, der ist ain hern aller menschen.

< Stuttgart, Weingartner Missivbuch V, fol. 409-10. Ausf. Die Art. 7-9 sind sp=ater nachgetragen, Art. 7 und 9 von anderer Hand. Auf der R=uckseite von gleichseitiger Hand: "Buchaw fraw, Herr Hanns Schad, Hanns von Rott, unbundisch, Bibrach". Es sind anscheinend die Herrschaften, gegen die sich die Beschwerden richteten.>

32. =Apfingen, 1525.2.16, DBA 26b

[1] Wir von Epfingen sind beschwart mit ainem artichelbrief, die sind for ziten nit

gewessen, und mir biten um gottes willen, E. G. well so wol ten und das g=ottlich recht ansehen und weil uns das verlassen.

[2] Und weiter synd mir beschwert mit zins und gilt, die mir nit migen erschwingen. Es ist uns zu schwer. Mir bitten um gotz willen, ir wellit so demietig sind und werd uns halten wie gutt arm lait, so werd mir aych ton, wie ainen heren zugeh=ort.

[3] Und so findt man nit in der hailge schrift, das ain her ain aygen mensch sol haben, mir sind ains heren, das ist Christus, der hat uns erschafen und mit seinem leiden erkoft, des wal mir sein. Der her spricht, gib got, das got zugeh=ort und dem kaiser, das dem kaiser zugeh=ort, das wel mir ton und nit witter.

[4] Und das biten wir um gotz willen ob sach wer, das gott uber uns verhengt, das uns die fr=ucht missriet, es wer mit hagel oder wie gott will, es sol und wiert dem heren auch schechen sin.

[5] Und weiter sind mir beschwert mit der landvogtey. Des bit mir um gotzwillen, ir welit in uns ab dem hals richten und uns bey recht lassen beliben, und ir welit uns auch bey recht lassen beleiben den armen als den reichen.

[6] Item so findt man nit in der hailge schrift, das ainer sol ain handlon geben von ainem gutt, des sine eltern wol erarnet hond.

[7] Item mir sind beschwert mit hennen, hier und a=uer, da bit mir um gotz willen, stand darvon.

[8] Item was got der her hat frey gemacht, das welit mir auch frey hon: holz, wasser zu notturft etc., wie ander leit hinder und for uns mit zimlichait.

[9] Wun und weid uns nit forhalten mit kee bis in das fiert laub, wie for auch ist gesin im flecken.

[10] Und clain zechenden welit mir ouch nit geben, dan mir hoffit, mir sind in nit schuldig, und das erfindt mit der hailge geschrift, so welit mir aber ton, was uns zukart.

[11] Weiter sind mir beschwert mit der waid, da ist man uns nit hilflich noch rechlich gesin, mir dirfet zu niemat treiben und iedermann treibt zu uns, so d=uncht uns recht, wer zu uns treibt, da solt mir auch zu treiben, und ist for alter auch gewesen. Da hat man uns nit zu geholfen.

[12] Der flech ist verhofft worden fom abt von sant Blesy und holz mit der waid, das solt niemat niessen und der flech mit gebessert werden, wo aber iederman auf dem sinen belib, so wellet mir auch auf dem unser beleiben.

[13] Und das ist for alter auch nit gewesen, das der arm biert mu\$ 1/4 ayer geben, das duncht uns weder recht noch billich und key dienstgelt noch ton, es sey den unser freyer will.

[14] Mit dem seldheisser, die hend for im ze geben, die wol mir aber geben [!].

[15] Fon ainer juchert, wie sy leit, zway fiertel rochen.

[16] So ist der wiert beschwert mit dem zins so holftmir, man lass uns sampt in beliben wie fon alter her. So find man fil, die erdenket, das der, ders erbauet hat, hab nit mer dan

acht pfund geben.

[17] Und witter sind mir beschwert, ir hend uns ein weier gemacht auf den hals, mir hond haywasser, den das durch den weier herustringt, das miessen mir engelten tag und nacht mit wun und waid wider got, er und recht und ainer ganzen gemainde.

[18] Kain zechenden wellit mir nit geben wie for, mir wend in geben, wie uns got gehaissen hat.

[19] Wir sind beschwert mit der stair, die wellit myr nit geben, es hat menger miessen mer verstairen, dan er gehept hat; wa aber das land beschwert wurd, es war mit chrieg oder was wer, das welin mir helfen sch=uzen und schiermen.

[20] Was mit got ist, das welit mir hon, was aber nit mit got ist, das welit mir ni han.

[21] Wer main, mit dem artikel seinen mier beschw=art, das ain geschwistlich das ander nit deyff l=ang denn ain nacht uffenhalten, denn ain nacht, das dunkt uns unbilch.

< Augsburg. Litt. Nachtrag Epfingen, Ausf. Letzter Absatz von anderer Hand.>

33. R=ohrwangen, 1525.2.X, CSB 892

Zum ersten begerid mir um gotswillen, das ob sach wer, dz sich ainer verwirckti, dz man in wel lassen bliben in nechsten krichten oder zu Bibrach, denen mir stuyren und zinsen und der landvogt gar nutz uber uns ze bieten het.

Zum andern begert mir fry ledig zu sin und kain halsherren zu haben, als dan ander flecken auch.

Zum dritten begere mir, daz man uns wel dz str=ow vom gro\$ zehen lassen beliben in unserm dorf und uns dzselbig geben um ain zimlich pfenning wie von alter her; auch wa ainer X garben ist geben, dz man uns 2 la\$ ston uf den acker, dz mir davon widern kinden steen, daz mir nit missen von den verzehneten kornwidern zehenden gen.

Zum 4. sind mir nit willen gar kain klain zehenden mer zu gebn, so doch mier herend, dz mir in nit schuldig sind.

Zum 5. sind mir beschwert mit rent und gilt, dieselbige begeren mir uns zu ringeren, als dan unsern nachburn.

Zum 6. bitten mir, ir wellend uns, wa sach wer, dz ain gut ledig wurd, dz ir uns nit welent beschweren mit dem hantlon sunder la\$en beliben by aim zimlichen, auch nit mer wellen beschweren mit ayer und fasnachthenen.

34. Langenschemmern, 152X.X.X, CSB 888

gegen den Rath von Biberach.

"Wier sind beschwerd zum ersten mit den pfaffen, do begeren mir, das sy das lauter wort gottes bredigen on menschen ler, zusatz, on fercht menschliche. - die betelm=unch und botschaften wellen wier nimen. - den gro\$ zehenden wellen mier gen, doch mit dem beschayd, das unser seelsorger oder brediger das gottswort genugsamlich domit versehen w=urden. - den clain zehend well mir nit gen, noch kein seelgret, opfer und andre unedige st=uck, als besincknus, banschatz, leibpfennig, forstpffening, kelberpfennig und derglychen." - Sie sind mit der Leibeigenschaft beschwert. - Sie bitten kein Fall- und Hauptrecht mehr geben zu "wollen". - "So welle wier frei sein zu een, wo es uns gefelt und der ungenossen ledig und ab sein." - Sie bitten, "das das gelt von wegen der dienst oder fronen geraicht abthon w=urd." - Wenn Feuer, Hagel oder Wasser einem Schaden bringt, "so sol es dem lehenherrn als wol geschehen sein, als uns." - Sie sind beschwert mit der Weide, den G=ulten, mit den Eiden im Gerichtshandel, mit dem Hauszins und Heugeld, mit Hennen und Eiern, mit dem Brennholz. "Item mier wellend umb kain drittel buen, sunder umb ain zimlich gilt, dz sie der arm man by sein gut kind und mig ernerren."

35. Burgrieden, B=uhl, und (Hoch) Stetten, 1525.3.X, CSB 886

Beschwerde der Gemeinden Burckrieden, B=uhel und Hohenstetten, enth=alt 8 Artikel an den Rath von Biberach, in dessen Spital diese Gemeinden geh=orten. Bemerkenswerth ist die Entscheidung des Rathes auf ihr erstlich Anzeigen, da\$ "sie w=ollen kain heren haben, dann allain gott." "Darinnen will ain raut gegen inen als sein selbs aigen armen leuten die miltrung suchen und pflegen und inen das in dem stuckh zu- und nachlaussen, das sich ain yedes derselben lybaigen menschen, es seyen mann als frawen wol gegen andern personen, wer und wa sy seyen, eelich wol verhyraten megen, doch das dieselben aigenleut nichtz destweniger f=ur und f=ur dem hailigen gaist zu Bibrach jarlichs mit richtung der lyphennen plyben, und war also, so sy ersterben, das dann ire verlaussnen erben f=ur fall nd hauptrecht dem spital nit mer ze geben schuldig sein sollen, dann ain saltzscheiben, und so sich auch dieselben aigen leut vor irem tod vom spital w=ollten erkeufen, so soll inen dasselb gestatt und von ainer frawen nit mer dann vier gulden und von ainer mansperson nit mer dann zwen gulden, aber woll darunder genomen werden." Der 2. und 3. Artikel langt an Holz und Wasser, der 4. den kleinen Zehnten. Letzteren betreffend "g=onnt in ain raut wol, was sy deshalb by den gaistlichen erlangen megen, wil in auch gern darinnen, sovil im meglichst, hilflich, f=urderlich und r=atlich sein. Im 5. die Handl=ohne. Im 6. "das mans la\$ plyben by irem alten pruch ain gericht und ain gemaind." Hierauf bemerkt der Rath, dass er aus sich selbst die Abschaffung alten Brauches nicht dulde, wenn derselbe gut und nicht wider das Recht sei. Die vorgenommenen Neuerungen "vergleichen sich der

erberkeit, der vernunft und dem rechten und send mer mit den armen leuten, dann wider sy." Im 7. A. verlangen sie "das wilbret fry ze sein," im achten allerlei unbestimmte Beschwerden, deren genaue Angabe der Rath verlangt.

36. Baltringen I., 1525.X.X, CSB 882

Item zum ersten der eigenschaft halb seyen wir also gemainlich daran, das s=ollichs f=urohin werd abgestellt der eigenschaft halb alles, das wir bi\$her von der eigenschaft wegen pflichtig und schuldig worden sind.

Item zum andern, so seyen wir beschwert mit zins und g=ulten und ist unser bit und begerung, s=ollich swer zins und g=ulten uns zu ringern, damit wir armen leut uns ernerer megen. auch vindt man etliche guter, die yetz ains als vil geben, als vor zway.

Item zum dritten, so seyen wir beswert mit dem erschatz oder handtton und ist yetz unser pit, f=urohin s=ollich ersch=atz oder handtton abgestellt werden, sonder uns by zimlichen zinsesn, renten und g=ulten zu belyben laussen.

Item zum vierten, so seyen wir der hoffnung, das wir f=urohin nit beswert sollen werden mit dhainen diensten, allein uns pleyben laussen by zimlichen zinsen, renten und g=ulten und by der gerechtigkeit gott des allm=achtigen.

Item zum f=unften, so seyen wir der hoffnung, got der allm=chtig hab das holtz lausen wachsen und s=oll dienen dem armen als dem reichen und ist uns bi\$her dem armen schwarlich vorgehalten worden, das da wider die g=ottlich gerechtigkeit ist.

Item zum sechsten, so seyen wir der hoffnung, das wir f=urohin dhain klain zehenden geben s=ollen; wann das wort gottes, das weist s=ollichs nits u\$, das wir dhain klain zehenden weder litzel noch vil schuldig seyen.

Item zum sibenden, so seyen wir der hoffnung, der gro\$ zehenden in yecklicher pfarr s=oll derselbig pfarer davon erwert werden, das er meg ain zimlich narung darvon hon und das wort gottes und die g=ottlich gerechtigkeit zu verkunden.

Item zum achten, so seyen wir beschwert mit boten und verboten. darumb so ist yetz unser pit und beger, wollicher das recht begert und anrieft, das s=oll im nit abgeschlagen werden und nit =ubereyllt.

Item zum neunten, so haben wir ain grosse beswert des pfarers halb, wie die pfarr gestift ist. dabei ist er nit blyben, und als das im bisher ingangen ist klain zehend, gro\$zehend, den er nach s=ollicher stiftung von dreuen h=ofen ingenomen hat, hoffen nun s=ollichs im f=urohin nymermer geben werden, acker und anders, das er =uber die stiftung ingenomen hat

[* 「本史料は、元々、以下、未完結であろう。」という編者 W. Vogt の註あり。]

37. Streitberg, 1525.2.16, DBA 26m

Die von Streitberg die sitzend hinder Nisy Velbern, burger zu Bibrach. Item Hans Lamp und aber Hanns Lamp, baid von Streitberg sind beschwert, das man uns baid hat gestaigt, das iedlicher noch ainest als vil geyt zins und g=ult als unsere vater hand geben und mit schw=aren hantl=onern und grossen diensten n=amlich weyer hawen, visch fiern, holz fiern und begern ain milterung nach g=otlichem willen, und yetlicher zwen walpam, das unser v=ater kains hand getan.

< Augsburg, Litt. Nachtrag Schwenden. Ausf. Zettel.>

38. Baustetten, 1525.2.16, DBA 26g

Item diewyl kain byderman sin [kin]der verh=uraten bedarf, er erkoffe dan sy vormal von dem hern, und hoptrecht und fal haben, die armen waisen syent erzogen oder nit und solten sy nach der alm%usen gon, vermainent mir, nit me lypaygen zu sin.

[2] das jar nit me dan fier dienst zu ton by tagzyt und futter und mal.

[3] kain raysgelt oder st=ur geben, es sy dan ain landskrieg oder landsst=ur.

[4] das kain achtwayd me gepannet werd an den orten, da wir ain zutrieb habent.

[5] kainem pfarrer nicht mer schuldig sin, den alain den gros zechenden w=ollent mir geben, daran =uberflyssig und genug hat.

[6] gilt zimlich von j=order juchart fier fiertel Biberessch mes rogen und habern und, ob sach wer, so der hagel schl=og, das dem hern och geschlagen sy.

[7] beschw=art mit huszin, h=ogelt und =olgelt, den halbtayl nachzlassen und das =ol gar und weder henf noch h=uner noch ayer.

[8] das man zimlich handlon nemmen wie von den =oltfordern geworden ist.

[9] kainen armen man z%ou straffen, dan mit recht und, ob sach wer, das der landvogt straffen w=olt oder ander hern, das dan ain krichther sine armen l=ut behalt in synnen gerichtten z%ou recht halt oder st=ol.

[10] die hern iren armen l=utten zimerholz und buholz geben zu iren guttern, dyewyl sy doch handlon geben.

[11] die wasser begeren mir nyt fry, sondern, ob ainer krank werd oder schwanger frowen, ongefär ain essen fisch oder kr=aps. Und darby, wa man wolt w=assern, sol das nyt gesp=ort noch gehindert w=orden.

[12] die h=olzer hernk=o jar gespannen halten und holz, so man notturftig ist, es sy zimmerholz oder prenholz, um ain zimlich gelt ain klafter um 3 \$ h.

[13] ob sach wer, das mir anzaygtend, das nyt recht noch byllich w=ar, so woltent wyr die

darum sprechen lassen, so darzu verornet werden und ges=oczt.

< Augsburg, Litt. Nachtrag Mutingen, Baustetten. Ausf.>

39. Spital Biberach, 1526.2.16, DBA 26d

Item wie mir hie in Christo bruder versamlet send, begeren erstlich yetz und furterhyn fur uns zu nemen das lebedig ewig unvertruckt wort, das hailig evangelium, so doch yetz in diser zeyt unser vatter sich uber uns arm sonder erbormet hat, und uns mit seinem sun Christo Christo Jesu, der dan uns, wie Paulus spricht, worden ist die weyShait, gerechtiggkait und erl=osung durch sein unschuldigen tod, den er uns zu guttem ton hat, und sein ewigs wort uns yetz zu letze gelassen hat, mit w=olchem und durch w=olches mir leben sollen und regieren, auch im nachvalgen, darumb erscheinen mir allhie, liebe bruder in Christo, und ist unser ernstlich begeren und bit, das man uns verkundt das wort gottes und was das evangelium au\$wist, w=ollen wir allweg euch und all unser woren selsorger ton. Darumb w=olt ir uns lasen belieben beim wort gottes und was das ausweyst,so gebent uns brief und sigel heut in diesem tag; wins abr ir nit ton, so landt uns ain antwort wissen etc.; dan wir wollen der gerechtiggkayt gottes pflegen und ziechen auf montag nechstkommenden [20. Febr.] zum haufen.

< Augsburg, Litt. 1525 Nachtrag 1. Ausf. ohne Unterschrift. Dorsal: Spitalspawren anbringen.
>

40. Baltringen II., 1525.2.8, DBA 24

[*史料文面を入手できず。]

41. Schussenried, 1525.2.22, QGD 36

Erwirdigen und firsichn, wissen, loblichen Stend des loblichen Bunz in Schwaben dien wir armen Lit von Schussenriet zu erkennen, darmit mier merklich beschwert sind.

Und dem ist z%um 1. also: Mer wend kain Heren han dan alain Got den Allmechtigen, der uns erschafen hat.

Z%um 2. mit den Erschetzen.

Z%um 3. von der Frondienst wegen, so sind mier so gar beschwert, wan ainer sinen Kinden

M%us und Brot solt gvinen, so m%us er sinem Heren wirken.

Z%um 4. so siend mier arme Lit so gar [beschwert] mit Brot und Verbotnun, mit Grasen uf unser Drib und Trat und och mit Besenris schniden und mit Fegel schiesen; und dero unbilicher Brot ist so fil, daz miers nit alle schriben kinden. Und wan ainer ain Straf ferschuld, so ist man hie und wil in in Durn legen. Mier begeren, man sol daz Recht mit dem arma Man brucha. Wa aber ain arm Man oder mer weren, die sich ferschriben heten, die Ferschreibungen wend mier husen han.

[5] Witer so hand mier Beschwerden, daz mier unserm Heren sinen Knechten miesen Garben geben. Dero ist fil, darmit mier beschwert sind.

[6] Und witer so wend mier die fliesende Waser fri han.

[7] Und witer so hat unser Her arm Lit, die hand kain Hofholz, und ist unser Beger, er sol inen Holz gegen z%u der Notdurft.

[8] Und wan uns Got ain Ecker git, nuist es unser Her nach sinem Volgefalen, dero Drib und Drat ist; und so es ain End hat, so schickt er nach uns und miesend im gein, was er wil.

[9] Und witer ist unser Beger, wan der Hagel schlecht, so sol er dem Gotzhus glich as wol geschlagen han as dem Maier.

[10] Und mier wend den klain Zechd nit gen.

[11] Und mier Maier sind z%u unsem Heren gangen, van er uns wel lasen bliiben, wie der von Ochsenhusen sine arm Lit las bliiben, so welen mier dahaimand bliiben.

[12] Und mier wend kain Raisgelt gein, dan mier mainen, mier siend beschwert.

< G. Blarer, Briefe und Akten, hg. H. G=unther (1914) Nr.60, S.36f.>

42. Ki\$legg, 1525.2.25, AGD 104

Nota, wie, wamit vnd in w=ollicherlay gestalt wir, die gemain baurchaft in der herschaft Kyslegk geseßen, von vnsern hern vnd junckhern von Schellenberg groslich beschwert vnd vberladen seind.

N=amlich in vil vnd menigerlay m=orgklichen diensten, so wir vber die, so in die gueter inhalt briefen vnd gultbuechern als m=amlich (sic) schnitter, mader vnd arten gehorend, gethon, so der herschaft zu th%und verfolgen s=ollen, wie hernachuoigt, mit gwalt vnd gepott wider billichait zu th%un vergwaltigt worden, vermaynend, billich sein, so ina schniden, mogen vnd arten beschechen, in der bezalung vnd rechnung der jarlichen gult nit gerechnet, besonder abgezogen werden, ouch hinfuro, es sey fraw oder man, jung oder alt, mit tribut, schatzung, dienst, gelt oder weyter zu dienen nit turbiert, vffgelegt, noch schuldig sein sollen.

Es fugte oder begeben sich dann, das man von gemains landsfriden raysen vnd v\$ziehen muest, solle sollichs ainem jeden, syen wer die wollen, so in der herschaft sitzen, nach gepur

vnd anzal der verm=ogenlichait vnd gestalt der sachen angelegt werden, ouch geben sollen.

Item zum ersten nit wenig inhaltung der munch, sonder hoch beschwert, dan ouch nit alain dienen, so die gueter vmb ein erschatz entpfangen vnd erst nach dem entpfachen on angedingt, wol ouch den, so aigne guter, die zu halten vnd zu ir, der herschaft, gepruch ze gewarten an suma gelt gepotten, die vnzimlich gebrucht vnd ettwan die scherben wider geben, ouch zuuil zeiten die munch ze beschawen beschickt vnd, so die nit gleich nach iren gefallen, aber mit gewalt vnd nitt mit recht gestraft werden.

Item zum andern in hundziehen, die ettlich mit gro\$em costen fiern vnd halten, darzu so ainer ain hund verloren, in gro\$er straf vnd f=arlichait gestanden, den mit gro\$em costen, mie vnd arbeit suchen oder anders darumb zu dulden sorg tragen mie\$en.

Item zum dritten in jagen, des wir ein vnd al tag zu dhainer zeit on sorg ze gewarten gewest, vnd so ainer glich ain gantzen tag gejagt, gehaget oder anders zu jagen geh=oren on gessen vnd on truncken oft ainer kum gan [sic] dannoch laufen mue\$en, sein danck vnd belonung in schelten, fluchen vnd aneschwern gewest, oder glich wol als bald darzu vmd den kopf geprugelt vnd geschlagen worden, darzu ouch vnser frucht im velt mit baitzen verh=ort vnd vertriben, das doch billich zu beschechen nit sein s=olle.

Item zum vierden beschwerung der besandten, genden vnd reytenden potten vnd ouch wagenlewten, so etwa one belonung vnd etwa mit halber belonung das ir verzert vnd versompt haben.

Item zum fimften war vnd offenbar, das wir ouch mit gro\$er beschwert vnd versomung den hern alles, das sy in gro\$en vnd klainen bawen zu schaffen gehapt, es sey mist, hew, strow, korn, holtz, visch vnd alles anders on alle belonung zu vil mer zeiten vnd weylen vnge\$en vnd vntruncken wurcken vnd farn haben mie\$en, darzu auch hanf vnd werck liechen, in wa\$er vnd daru\$, hin vnd wider fuern, praiten, vffheben, brechen, schwingen, hechlen vnd spannen, wuschen vnd weschen. Sollichs auch die herschaft nit ben%ugt, darz%u menchem biderman sein kind, so er selbs bederft het, wibvnd manpersonen, inen zu dienen mit gwalt genomen, streng, hort vnd forchsam gehalten, darum sy zu zeiten von inen geloffen, nach dem ire v=atter gefangen, thurent oder plockt, die kind widerumb weit vnd nach mit gro\$em costen, mue vnd arbeit zu suchen bezwingen, vermainend, billich vnd recht, knechten, m=ogten, potten vnd wagenleuten vnd andern irn lidlon, souil man in schuldig ze bezaln, vnd hinfuro niemant zu dienen, loufen, rayten, farn vmb sunst, noch vmb gelt zwingen, noch n=oten sollen.

Item zum sechsten die, so von burgerlicher handlung wegen v\$ der herschaft vertreiben darumb das recht erlaiden vnd nit fliechen w=ollen, s=ollen vnuergwaltigt ain sichern zugang haben, vnd das hinfuro vmb kain burgerliche handlung niemend mit gwalt, besonder mit recht gestraft werde.

Item zum subenden, das ouch allen den, so burgerlich gehandelt, mit gwalt vnd nit mit recht gestraft worden sint vnd daruber vnzimlich verschribung vnd burgerschaften gethon, die

s=ollen in widerumb heru\$ geben vnd von ina ein alt, zimliche vrfech genomen werden; doch wa ainer oder mer, der dem rechten vnd der oberkait widerw=artig vnd in zimlichen, billichen sachen nit gehorsam sein w=olten, mit erpietung, die zu verhelfen gehorsam zu machen.

Item zum achenden hoch vnd gro\$ beschwerden, das ettlichen, so ir sachen mit recht erobert, von der herschaft mit gwalt widerumb daruon enttrungen vnd entsetzt worden vnd etlichen, so ir recht ain furgang, vnd die oberkait dhain fug darinn zu haben vermaint, im das recht wider billichait verzogen worden. Als n=amlich ainem beschechen, so ains bidermans tochter zu der ee genomen, die ainen zins, so ir vatter mit vergunst der herschaft v\$ ainem lechengut erkouft, als ain recht, elich vnd ainig verla\$en kind ererpt, das die herschaft ir einzunemen vnd ainem andern ge geben verpotten, ir man von irn wegen im rechten gesteckt vnd nit weyter seins rechten bekommen m=ogen, das doch nit sein solle, insonder jedem gegen der herschaft vnd allen andern vmb ir vordrung vnd spruch gegen ainander furderlich recht gedeihen vnd verfolgen, vnd ouch die herschaft vnd wir, die gemain, so in der herschaft sitzen, vmb vnser vordrung vnd spruch ainandern vff dhain frembt gericht laden, insonder in den gerichtten, darinn wir sitzen, bi recht beleiben la\$en s=ollen.

Item zum neunten, das gro\$ klag vnd besschwerd vil der vrtailn vorm stab zu Kyslegt [sic] au\$gangen vnd au\$ beschwerd fur die von Schellenberg geapeliert vnd zogen worden vnd bi zehen jarn hinder in als der oberkait vnerwyttert gelegen, die s=ollen jetzo und hinfuro alwegen in dreyen monaten, darmit der arm man nit rechtlo\$ stand, v\$gefurt werden.

Item zum zehenden gro\$ vnd hoch beschwert aigner gueter, man- vnd handlechen halb, denselbgen, nach dem vnd sy lechenpflicht vnd alles, das sy von lechens wegen zu thon schuldig, gethon vnd empfangen, inen sollich aigen gut zu gebruchen vnd zu iren nutz vnd notdurft das gut, zins, holtz oder anders daru\$ zu versetzen vnd zu verkoufen verpotten vnd nit vergunen wollen, vermainend, der lechenher inen die gueter zu verkoufen, zins daru\$ zu versetzen vergunen vnd jedem zu seinen rechten zu leichen schuldig sein s=olle. De\$glichen auch ander, so lechengueter vnd von der herschaft empfangen vnd vererschazt haben, zins vnd gelt geben, die vnder ainandern hew, strow, holtz vnd anders one wuestung vnd verendrung der gelegen gut zu verkouffen vnd koufen macht haben.

Item zum aylften ettlicher beschwert, so aigen und von irn eltern ererpt gueter vnder ander, so von hern lechengueter, vnd gemain holtz haben, howen in die hern zu irn nutz vnd gepruch v\$ gemelter gemaind vnd verpiet in ouch darzu vber das, in raytina zu machen, not vermainende, die herschaft irs howens v\$ der gemain abzustellen, oder die h=oltzer mit in zu tailn vnd sy hinfuro nach irer notdurft raytina machen la\$en; sind auch etlich, habend aigne h=oltzer nit in ainer gemain, darinn die herschaft nichts zu schaffen, noch dannoch gepiet in die herschaft, inan daru\$ tannen zu howen ohne bezalung, in die och hin vnd wider on alle belonung zu britten oder andern zu furn.

Item zum zw=olften vermainent etlich, inen sient in kurtzen jarn schnitter vnd mader in ir

aigne gueter, so man jetzund meiner schnitter vnd er mader, [sic] komen vnd vor nit gewest, zu geben nit schuldig sein sollen, ouch hinfuro nit geben w=ollen. Desglich ire zwen sich ouch beschwert vnd beklagt, wie das sy au\$ irn aigen gueter der faist lender kain zechen, insonder yeder zechen imi haber darfur schuldig vnd dhain mer ligen laßen w=ollen.

Item zum dreyzehenden hat sich ainer beklagt vnd beschwert, wie sein =altuordern ainen drittail an ainem gut, daru\$ die herschaft 1 malter haber vnd 1 pfund pfening zins gehabt vnd noch hab, fur den selbig drittail gutz sein vordern 15 \$ pf. zins v\$ ainem andern gut, so lechen, als fur ein schenckin gegeben, vom gut getrungen worden, jetzund nun sollichen zins fur lechenfellig halten vnd nit verfertigen w=ollen, sollicher schenckin nichtz aber recht darumb begert.

Item zum vierzehenden gro\$ beschwert der todfeal halb, wyßend vnd war, das von kaiserlichen rechten enclin vnd geschwistergiten kind, darmit sy nit lib vnd gut verliern, vff ainen tag verliern, zu erben zugelaßen sind, aber so gestorben ainem biderman sein weib oder ainer frowen ir man, die herschaft vom man genomen das best hopt, darzu besten einschlouf, gwer, axen, gegeßen, howen vnd anders etc., von der frawen irn besten einschlouf, darzu ir bet vnd bestatt, das haist vnd ist ein fall, dan er gefelt manchen waysen in gro\$ verderbung vnd armut, das man doch zu geben nit schuldig sein s=olle.

Item zum funfzehenden so ist ouch beklagt, das ettlich waysen, so beu=ogt, ir erb vnd gut, wa oder wieuil das sey, begeren von v=ogten rechnungen vnd zaigung vnd das anzulegen, de\$glichen, die vogteyen gehapt, ain zimlich belonung hinfur irer versomung, vnd umb sunst nit mer darzu getrungen werden, vnd was die vogt von wegen irer vogteyen handeln, solle die herschaft furgon, oder der aid der vogteyen entlaßen werden.

Item zum sechzehenden so begern vnd w=ollen der ain tail der herschaft, das die kayserlich fryhait, so vor jam verlangt vnd sy, die armen leut, bezalt haben, das die selbig bi inen vnd irn hern, so jetzo oder hinfuro sein wirt, in der herschaft bleiben s=olle.

Item zum subenzehenden gro\$ beschwerung des sacrement der ee halb, dann so ains oder mer v\$erhalb der herschaft zur ee greifen, strafgelt, so genant vngenosami, geben, oder ettwan gar von seins vatter erb mueßen, darzu ouch etlichen vatter vnd muter inen hainstuir, wie andern kinden, zu geben verpotten, das solle angesehen der großen geschlecht hinfure zu beschechen vermiten vnd niemant sein hainstuir, v=atterlich, noch mutterlich erb vorhalten, insonder verfolgen vnd vngestraft laßen.

Item zum achtzehenden wyßend vnd war, wie das vnser pfarr mit j=arlicher großer abtend beschwert, vnser ernstlich maynung, das hinfuro kain priester, der die pfarr besitzt, von den nutzungen vnd eingengen, zu der pfarr gehorend, abstent, dauon nit geben, besonder die im vnd andern dienern der kurchen bleiben, folgen vnd zuston.

Sollicher erzelt vnd angezeigt beschwerden ernstlich bittende wollen vnd maynen, das die billich hingelegt, abgestelt vnd vnderlaßen bleiben s=ollen, mit erbietung, dann die gerechtigkeit iedem gibt, das vnd souil im zugeh=ort, zins vnd gelt v\$ den guetern, wie von

alther, mit sampt ainer zimlichen stuir, damit wir ain schirm vnd obern haben, zugeben.

Doch hiemit die beschwert der schwein, noch hern gult, das die nit, als beschechen, 6 oder 7 ## haller, besonder souil geltz, als in briefen, gultbuechern oder wie von alther wert sein s=ollen.

Item zum lesten so wollen wir vns der zechenden gro\$ vnd klain, wie man den zugeben schuldig, vnd ob der mensch nit libaigen, die visch in fließenden waßern, die v=ogel in luften, die tier in welden ouch nit verpannen, besonder frey sein solten, das w=ollen wir, wie es ob vns, vnder vns vnd vor vnd hinder uns gesetzt vnd gemacht wirt, zu genus erwarten vnd des nit entsetzt sein, besonder dem ouch zugeleben vorbehalten haben.

43. Rappertsweiler, 1525.2-3.X, CSB 895

Die nachvolgendt artickel der christenlichen versamlung zu Rappenschw=ul begeren sind.

Item zum ersten begeren wir uns dz haylig evangelium und wort gottes lauter und clar, unvertunckelt und unvermischt menschlicher leer und gutbed=uncken mit seinen fruchten und christenlichem verstand allain zu unser seel hayl durch gelert und erfahren der hailigen geschrift, so dartzu taugenlich und gut seind, die prediger auch den rechten weg des waren christenlichen glaubens angetzaigt und gewisen werden sollen, auch mit allen christenlichen ceremonien und notturften umbsunst und nit umbs gelt mittailen und versehen, darzu der unzimlichen und uncristenlichen gepott und verpott von den bischoffen und andern gaistlichen beschehen entledigt und ab sein sollen.

Item zum andern, dz wir dieselbigen predicanten, priester und underwiser des wort gots und waren christenlichen glaubens allain mit unsern cristenlich(en) gemaind(en) erwellen, setzen und entsetzen, dieselbigen auch mit gepurlicher und erlicher narung und besoldung aus unser gemaindzehenden und andern zu versehen mach(t) haben sollen.

Zum dritten unser beger, hinf=uro nit mer leybaygen wie bisher beschehen ze sein, auch aller beschwert und frondienst, wie die imer genempt und bisher f=urgenomen und geprauchet worden seind, darzu man uns der leybaygenschaft halben und sunst wider alle billichait und g=ottlichen rechten, als wirs achten, getrungen und gewaltiget haben, ganz frey, ledig und absein sollen. dartzu so yemandt sich verendern und in ander gericht, dann darin er vor gesessen wer, ziehen wellt, das ain yetlich man- oder frowenbild sein freyen zug haben mug von menigcklichem unverhindert, doch alle sein schuld, so er zu thun (schuldig) ist, zuvor guetlich oder rechtlich an demselben ort abstellen und bezalen sollen. doch in welche gericht ain yeder sitzt, es sey under herren oder stetten, edel oder unedel, demselbigen oder denselbigen in allen zimlichen und gepurlichen dingen mit zins oder schirmgelt, wie sich dann das dem g=ottlichen rechten nach zimpt und gepurt, gehorsam sein.

Zum vierdten, nachdem bisher etlich satzungen gewesen, auf welche wir, so richter, erwellt

haben muessen und anders nit richten und ortal sprechen muessen zu vermuten vil gewisse beschwert und etlichen dardurch zu kurtz geschehen sein, begeren hinf=uro solhen satzungen nit mer ze geleben schuldig sein, sondern ain yeder richter auf sein gewisse und besten verstandt recht sprechen mug unverhindert.

Zum funften wiewol wir wissen, das gott alle thier im luft, in wassern und auf erden zu aufenthalt des menschen verordnet und erschaffen hat, begeren wir den fisch in fliessenden wassern, den fegel im luft, fux und hasen etc. frei haben und unser oberkait zu eren dem hochgewild nit nachraysen, noch beschedigen; doch dabey freyhait haben, dasselbig, so es auf unsern guetern schedlich erfunden, das zu fellen und schiessen macht haben. ob aber yemandt dem gewilt sonst in ander weg nachraysen, dz felte oder schusse, derselbig sol alsdann nit von den oberkaiten, sonder nach erkanntnus des gerichtts und nach gestalt seiner handlung angesehen und gestrafft werden.

Zum sechsten, als dann die herren bisher gerichttsamptman irs gefallens gesetzt und solang inen fugklich alda gehalten haben, begeren wir hinfuro nit mer der gestalt gesetzt, sonder derselbig soll mit wissen und willen ainer gemaind des gerichtts gesetzt und entsetzt werden, auch =uber drew j=ar ain andern bey solhem ampt nit beleiben.

Zum sibenden ob sich ainer oder mer =ubersehe und handelte, darumb er f=anglich angenommen werden mecht, derselbig oder dieselbigen, sover sy das recht anrueffen und dzselbig habend zu vertr=osten, dieselbigen dabey gehandthabt und in kain gefengknus gefurt werden und was zu recht von ainem ersamen gerichtt erkent wird, dabey soll es beleiben.

Zu achten wo unzimliche straff-gepott oder verpott yemandt entgegeniengen, dardurch vermaint beschwert zu sein, dabey rechts begert, der soll dabey gehandthabt werden, und was also rechtlich erkennt wirt, dabey soll es beleyben.

Zum neunnden, das hinf=uro kain zins mer gegeben werden soll anderst dann von zwaintzigen ain, auch darmit abl=osen (?) dartzu der, so den zins erfordert, mit brief und sigel oder erber leut, das zu recht genug sey, antzaig solhe zins ze geben schuldig sein, und was wein, korn, haber, mist (?) oder dergleichen zins weren, sollen mit gelt nach dem hauptgut von zwaintzgen ain gegeben nnd verzinnt werden, doch hierinn bodenzins ausgeschlossen.

Zum zehenden ob sich begeb, das ainer oder mer auf verbundung oder sunst fenglich angenommen vermainen aus notturft peinlich zu fragen, ist unser beger, dieselben peinlich nit zu fragen, sy seyen dann zuvor vor dem gerichtt, darin er angenommen, mit recht beclagt und so sich mit recht erfindt, dieselbigen peinlich gefragt werden sollen, das alsdann vier erber menner desselbigen gerichtts zu der peinlichen frag dieselbigen zu verh=oren beysein, auf ir erkanntnus der pein genug oder nit genug zu sein sten soll.

Zum eylften, nachdem bisher an etlichen orten in hochzeit haben, erbfall taylen, sunst frid machen, marcken setzen und andern dergleichen misbreuch der gestalt gewesen sind, das s=olhes alles kain furgang noch kraft hat haben m=uogen, es seyen dann die amptleut daruf

mercklich uncost als essen, trincken und besoldung gangen ist etc., begeren wir abgestellt und hinf=uro dermassen nit mer beschwert werden soll.

Zum letsten, was weitter dann vorangetzaigt beschwerden bey yemandt erfunden derselbigen und aller angetzaigten beschwerden halben, wie sich uns gutlich rechtens zu bekumen er bieten haben wellen.

44. Seehaufen, Vor 1525.3.6, AGD 133

Die artickel vnsers furnemens.

Zum ersten begern vnd wellen wir, das vns das hailig ewangelium vnd wort gottes clar vnd luter, vnuertunckelt vnd vnueremischt menschlicher ler vnd gutbeduncken mit seinen fruchten vnd cristenlichem verstand vnd anhang durch gelert der hailigen geschrift, so darzu tugentlich vnd g%ut sind, allain zu vnser sel hail geprediget, angezaigt vnd vnderwisen werden, auch dieselbigen vns mit allen cristenlichen ceremonien vnd nodturften vmbsonst vnd nit vmb gelt, wie bi\$her beschehen ist, mittailen vnd fursehen wollen.

Item zum andern, das wir dieselbigen alle mit zwifacher narung, wie vns der hailig Polus anzaigt, sy vnd die iren gnugsam versehen w=ollen.

Item zum dritten, das wir alle, so also vnser pfarer vnd vnderweiser des wort gotts, denen wir, wie obstat, belonung thund, selbs mit vnser gemaind bestellen, setzen vnd entsetzen maht haben sollen.

45. Memmingen D=orfer, 1525.2.24-3.3, QGD 40

Hiernach sind bestimbt die Artichel, so die erbern Underton der Boursleut und Hinders=a\$ der Stat Memingen, hie nachst Freitag [24. Febr.] verschinen vor Rat gewesen, furhalten etc.

Der allmechtig, ewig, gutig Got verleiche uns sein g=ottliche Gnad und Gonst, das wir zu rechter, warhafter Erkantnus seins gotlichen Willens komen mugen, auch uns im Zeit der Guden also gegen ainander halten, das wir zulest die Kron der Seligkaite erlangen. Amen.

Fursichtig, ersam und weis, gonstig, lieb Herren! Nachdem ain ersamerr Rat gut Wi\$en tregt, wie wir nachst Freitag an des hailigen Zwolfboten Sant Mathias Tag [24. Febr.] vor E. e. W. erschienen sind und da begert nach Laut und Inhalt des gotlichen Worts ainen Entschaid etlicher Artichel halben, so uns beduncken, demselben gotlichen Wort nit gme\$ sein etc., demnach hat uns ain ersamer Rat ain freuntlichen, tugentsamen und cristenlichen Beschaidgeben auf die Mainung: Wir mugen unser Artikel und Beschwertnus dantan, alsdann so welle ain ersamer Rat nach Laut des gotlichen Worts ain gnedig Einsehen darinn haben. Also hab wir hie etlich Artichel vergriffen, wie hernachvolgt.

Furs 1. ist unser diemutigist, hochst Bit und Beger, das wir nun hinfuro selb ainen Pfarrer erkiesen und erwollen, der uns das gotlich, allmechtig, lebendig Wort und hailig Ewangelion, welches ist ain Spei\$ unserer Sell, rain, lauter und clar nach rechtem Verstand verkind und predige on allem Menschenzusatz, Ler und Gepott. Denselben Pfarrer wol wir auch mit zimlicher Aufenthaltung seiner Leibsnarung versechen. Wa sich aber ain sollicher Pfarrer ungeb=urlich wurde halten, das wir alsdann im wider Urlaub geben mugen und ainen andern an sein Stat wollen, das alweg mit Wi\$en ainer ganzen Gemaind, dann wir je unverkinden des gotlichen Worts nit selig werden mugen, wie der hailig Paulus uns anzeigt etc.

Zum 2. nachdem und wir bisher trungenlich gehalten worden seien, den Zehenden zu geben, haben wir darfur, wir sollen hinfur dhain Zehenden mer zu geben schuldig sein, dieweil uns das hailig Neu Testament nit darzu verbindt. Auch wollen wir dem Pfarrer mit leiblicher Notturft versehen.

Furs 3. so ist bisher im Brauch gehalten worden, das wir fur euer aigen, arm Leut gehalten worden seien, welches zu erbarmen ist, angesehen, da\$ uns Cristus all mit seinem teuren Blut erloset und erkaufft hat, den Hirten gleich sowol als den Kaiser. Das wir aber darumb dhain Oberkait haben wollen, ist unser Mainung nit, sonder wir wollen aller Oberkait, von Got geordnet, in allen zimlichen und geb=urlichen Sachen gem gehorsam sein, seien auch unzweifel, ir werden uns der Aigenschaft als cristenlich Herren gern entla\$en etc.

Zum 4. ist unsher im Brauch gewesen, das ain armer Mann nit Macht gehabt hat, das Gewild zu fachen oder schie\$en, desselben gleichen mit den Fischen in flie\$end Wa\$ern ist uns auch nit zugela\$en worden, welches uns ganz unbillich bedunkt, und dem Wort Gotes nit geme\$ sein, wann als Got der Her den Menschen erschaffen, hat er im Gewalt geben =uber den Fisch im Wa\$er, dem Fogel im Luft und uber alle Tier auf Erden etc. Hie ist unser Begern nit, wa ainer ain Wa\$er hete, so erkaufft were, und das unwi\$en, da m=ueste man ain cristenlich Einsehen haben von wegen briederlicher Liebe etc.

Zum 5. ist unser diemuetic Bit und Beger, nachdem und wir unsher lang hoch beschwert worden seien der Dienst halbn, welhe von Tag zu Tag sich gemert und zugenommen haben, begeren, das ain gnedig Einsehen hierinn gebraucht werde, wie die Eltern gedienet haben, allein nach Laut des Wort Gotes etc.

Zum 6. begern wir, das wir hinfuro nit mer mit Erschatz also beschwert werden, sonder wie ainem ain Gut gelichen werd umb ain zimlichen Gult, das er aldann mitsambt seinen Nachkomen sollich Gut weiter unbeschwert brauchen mugen etc.

Zum 7. sind etliche Dorfer beschwert des gro\$en Fraffels halben, begern, das man si bleiben la\$e bei altem Herkomen etc.

Zum 8. ist unser diemutig Bit und Beger, nachdem und etliche Dorfer ain Zeit her beschwert worden sind an Holz, Acker, Modern und ander Gerechtigkaiten; so ainer Gemaind vor Zeiten zugehorig gewesen, das uns dieselbe wider einhendig gemacht werden etc.

Zum 9. ist unser vlei\$ig Bit, wann wir ainen Lehenherren sein Gult richten, das wir alsdann

mit unserer Hab mügen unsern Frumen schaffen und dieselben verkaufen, wa es uns nutz und gelegen ist, unverbindert des Lehenherren etc. Wa Sach ware, das Got, der allmechtig, über uns erhengte, das ain Mißgewechs keme, oder der Hagel schliege, das als dann der Lechenher ain Nachlaß der Gult die nach Gestalt der Sach etc.

Zum 10. ist unser undertanigist Bit und Beger, nachdem und unser etlicher Gieter so hoch beschwert sind, das wir ain Tail nit wol dabei bleiben mügen, begern auf diemutigist, das ain Ringerung hierinn gebraucht und furgenomen werden etc.

Zum Besluß ist unser entliche Mainung und Wil, wa wir ainen oder mer Artichel alhie gestelt hetten, so dem Wort Gottes nit gmeß weren, als wir dann nit vermainen, dieselben Artichel solten uns nicht gelten. Dergleichen wa uns schon Artichel zugelaßen werde, und sich nachmals durch das Wort Gots clar befunde, Unrecht sein, wolten wir das gar nit haben. Herwider, wa wir ain oder mer Artichel nachmals befunden, so dem Wort Gottes entgegen und zuwider weren, ist unser Beger, dieselbigen alzeit ainem ersamen Rat furzuhalten und anzuzaiigen, dann diese Handlung ist gleich so wol fur euch, unsere gunstigen Lechenheren, als fur uns, dan je Cristus sagt: "Wer nun ains von disen klainsten Gebotten auf=oset und leret die Le=ut also, der wirt der clainest im Himmelreich etc." Wir seien aber ungezweifelter Hoffnung zu euch als unsern cristenlichen Obern, E. e. W. werde uns mer und cristenlicher hierin bedenken, dann wir furhalten und erzelen mügen. Hiemit wol wir uns euch in Gnaden befohlen haben, erbieten uns aller Undertenigkait gegen E. e. W. zu erzaigen etc.

< Baumann, Akten Nr.108, S.120-126, Cornelius S.180-183.>

46. Steinheim, 1525.2.15, AGD 58

Die von Stainhaim haben begert, mit irem pfarrer zu verschaffen, inen das wort gotz wie hinnen zu predigen, vnd das er in das sacrament in baiderlai gestalt raichen wel, weiter das man mit dem hofmaister verschaff, das er in ain pletzen holtz eynged, wie von alter herkomen ist. Zum beschluß so seien etlich bawrn zu in komen vnd inen gesagt, wa sy nit zu in fallen vnd inen helfen ir furnemen volstrecken, so wellen sy der tag ains komen vnd mit inen zu morgen essen.

Ist erraten, man welle den von Stainhaim ir begern abschlagen des holtz halb vnd inen dagegen sagen, die pfleger wellen in irem costen das holtz allenthalben im wald, das nit nutz sei, durch ain gemaind scheuten lassen vnd inen dan das vmb ain zimlichs zu kaufen geben, dan solt man in ain platz eyngeden, so mecht man ain fischwaid darauß machen, dardurch das holtz gemindert wurd vnd nit mer wachsen mecht. Des ander halb, das wort gotz betreffend vnd sacrament in baiderlai gestalt zu geben, sol inen gesagt werden, man kint den pfaffen auf dem land nit, wie in der stat beschitzen, man stand aber yetz in handlung, der sachen ain

außerung zu geben, alßdan wel man ine das auch nit verhalten. Zum dritten, dieweil die von Stainhaim nit anzaigen künden, wer die seien, so gesagt haben, sy wellen mit inen zu morgen essen, alle weeil sy dan thuen, was sy schuldig seien, so wel ain rat als ir her zu inen setzen.

47. Pleß, 1525.XX, AGD 58

Die gesandten von Pleß haben begert jagen, vischen frei haben, item den elichen stant, das sich ain yeder verhewraten mug, wie er wel; erschatz solle hinfür nit mer genomen werden, ain yeder sein pfennig gwinen, husen vnd hofen, wie er wel; dergleichen wan ainer sterb, das man das gut nit heher staig mit den erben; leibhenne geben mießen begert der schmid rechts; 10 ## die herschaft wider herauß geben, vnd das die Besserer, wan man ain vndergang halt, im costen selbs zalen; vnd dem hawfen der bawrn wellen sy nit zulaufen, doch das inen geholfen werd in iren beschwerungen, wie obstat; dergleichen was die gemainen bawrn erobern, daran wellen sy auch tayl haben; item die badstuben wil die gemaind verleichen; alle gepot und verpot sollen nach dem kayserlichen rechten gehalten werden

Wilhelm Bessrer hat anzaigt vf der bawrn beger von Ples: Die guter vnd oberkait seien lehen von herzog Wilhelm. Die bawrn haben im aber geschworn, was sy für spruch vnd vordrung zu ime vnd seiner mutter haben, darumb sollen sy ine vor seiner oberkait, das ist vor ain rat furnemen, das erpuet er sich, vnd was ain rat mit recht erken, darbei wel er pleiben, dan hinder seim hern, herzog Wilhelm, darf er die lehen nit mindern. Zum andern, was er in schuldig sei, schurm zu halten, das wel er thun, souil er schuldig sei vnd im muglich sei.

Das haben die von Ples angenommen, das den iren fürzuhalten. Und soll man den schmid bei recht pleiben laßen.

Die von Eggelsee haben anbracht, Jeck, Wannenmacher vnd Huit, die hinder meinem hern von Ochsenhawsen sitz[en], hab[en] begert, in ziehen zu laßen zun bawrn; wie sie sich mit in, vnd ob man sy vberzieche, halten sollen.

Ist erraten, man well sy, die 3 bawrn, nichtz haißen, noch wern, aber den andern bawrn zu Egelsee, sollen dahaim pleiben, so wil ain rat zu in setzen, vnd das sy das hereyn wißen laßen.

Meins herren von Rotz vnderthonen haben anpracht, von der gantzen bawrschaft wegen meins hern von Rotz anpracht: Als die bawrn bei ainander gewest, sei ir abschid worden, das ain yeder vnderthanen seiner oberkait sein beschwerung anzaigen, vnd welcher mangel hab, der sol das den gemainen bawrn anzaigen. Als sy nw das an mein hern von Rot gepracht, sei er wegfertig gewest gen Vlm vnd inen gesagt, wan er von Vlm kum, so wel er inen ain tag ansetzen vnd ire beschwerung heren vnd inen beholfen sein etc. Demnach ist ir beger, inen rat mitzutaylen, dan sy haben zusammen geschworn, wider zun bawrn zu ziehen, wie sy sich

halten sollen, vnd das man inen zu recht helfen wel, wa man sy vergweltigen mecht. Darauf hat in ain rat die antwort geben, das ains ratz gutdunken war, das sy sich gegen nyemantz verpunden, sonder vorhin heren, was ir her mit in furnemen, vnd wie er sich iren beschwerden halten wel, was dan ain rat zur guthait darunder handeln mug, erpeut er sich zu thun willig. Was auch ain rat inen inhalt der bundsainung zum rechten schuldig sei vnd thun kind, das wel er auch gern thun.

48. Kempten, 1525.1.9-14, AGD 62

Der puren handlung vnd klag.

[Januar 9.]

Edel, vest, ersam, wiß, besonder, gunstig vnd gepietend herren! Demnach etlich spen vnd irrung zwischen dem hochwirdigen fursten vnd herren, hern Sebastian, abte des wirdigen gotzhus Kempten, vnserm gnedigen herren, vnd seiner furstlichen gnaden erwirdigen conuent an ainem vnd vnser, als seiner gnaden, erwirdigen conuent gedachten gotzhus vnderthonen, am andern tail sich halten, w=olchen wir zu baiden tailen vns gutlich zu vertragen ewer vesten vnd wey\$hait erw=olt vnd de\$halb ainen gutlichen, vnuergriffenlichen tag, namlich auf hewt, furgenommen, de\$halb ewer vesten vnd wey\$hait mit aller vnderthenigkeit vnd demutigkeit als arm, beschwert personen gebetten haben w=ollen, die nachbeschriben puncten vnd artickul, anbetreffen vnser mercklich beschw=arungen, mit denen wir vor vil verschinen jaren bis yetz auf vnsern best=atigeten gnedigen fursten vnd herren vnd s. f. g. erwirdigen conuent mercklich beschw=art worden sind, mit aller demutigkeit vnd vnderthenigkeit ewer vesten vnd wey\$hait gebetten haben, an vilgedachtem vnserm gnedigen fursten vnd herren vnd s. f. g. erwirdigen conuent so vil zu verm=ogen, das vnser nachbeschriben gebrauch, mengel vnd gro\$ beschw=arungen, gegen vns vil jar gehalten, abgestellt vnd verrer gegen vns vnd vnsern nachkommen nit mer begert vnd furgenommen werden.

Vnd anfenglich, eemal wir ewer vesten vnd wey\$hait s=ollich vnser gebr=achen vnd beschw=arungen anzaigen, w=ollen wir vns vor ewer vesten vnd wy\$hait bezugt haben, das wir vnser gegenwirtig, nachbeschriben begern vnd furwenden vnserm gnedigen fursten vnd herren, ir furstlich gnaden voffaren prelaten des wirdigen gotzhus Kempten, vnd irer gnaden conuenten oder desselbigen gedachten gotzhus Kempten, vnd irer gnaden conuenten oder desselbigen gedachten gotzhus verwanten zu kainer verachtung, schmach oder irer gepurlichen vnd rechtm=aßigen gerechtigkeit nachtail, sonder zu vnser gro\$er, notdurftiger vnd gepurlicher beschirmung gethon haben w=ollen. Wann wir auch mit vnserm gnedigen fursten vnd herren vnd ir furstlich gnaden erwirdigen conuent durch ewer vesten vnd wey\$hait auf disen gutlichen tagsatzung gutlich nit vertragen wurden, des wir dann nit verhoffen, das vns s=olchs abgeschlagen vnd verzigen werden, das dann disen gutlichen vnd

vnuergriffenlichen handlung vns an vnser gerechtigkeit in alweg vnseh=adlich vnd verletzlich sein s=ollen.

Nach sollicher obangezaigter protestation w=ollen wir ewer vesten vnd weyßhait am ersten zu vernemen geben, das des vilgedachten gotzhus Kempten von anfang vnd desselbigen stiftung loblich gewonhait vnd gebruch von wegen der zinser vnd zinserin gewesen sey, das die freyen zinser vnd zinserin frey vnd nit aigen personen gewesen syend. Aber desselbigen loblichen gebruch vnd gewonhait, auch freyen zinserschaft gerechtigkeit vnangesehen haben sich ettlich vnser gnedig herren genants gotzhus Kempten bey vil verschinen vnd nechst verruckten jaren vnderstanden, frey zinser vnd zinserin, auch iren elichen kinder durch gefengknus vnd verschreibung zu aigen personen dem vilbenannten gotzhus zu machen, w=olchen zinser vnd zinserin ain groÙe, merckliche zal ist vnd angezaigt werden mag, wann es auch die notdurft erforderte, wie recht ist, bewisen werden m=ocht. Wiewol wir vns zu vnserm fursten vnd herren, ir f. g. erwirdigen conuent gantzlich versehen, das s=ollich gewaltig furnemen gebeßret vnd furter in ewig zeit gegen vns vnd vnsern nachkomen abgestellt werden vnd des kainer rechtvertigung nit bedurfen, dessgleichen w=ollen wir, des gotzhus vermainten aigenlewt, ewer vesten vnd wyßhait gebetten haben, an vnserm gnedigen fursten vnd herren vnd ir furstlich gnaden erwirdigen conuent so vil zu verm=ogen, das wir verrer in kunftig zeit nit fur aigen, sonder fur frey zinser vnd zinserein gehalten werden, dann wir zu s=ollicher herter eigenschaft gedrungen vnd gezwungen worden sind, vnd durch kainen rechtm=aßigen tittel des angezaigt vnd bewisen werden mag, wie recht ist.

Zum andern so beschw=aren wir vns von wegen der freyen zinser vnd zinserin in irem verheyraten, dann so sich ain freyer zinser oder zinserin mit ainer aigen des gotzhus person verheyrat, so wirt im bey ainer pen der kirchgang verpotten, solang bis das der zinser oder zinserin sich dem aigen nach an das offbedacht gotzhus Kempten ergibt, durch w=olches furnemen dem freyen zinser vnd zinserin ir freyhait vnd gerechtigkeit genomen, vnd in ainen hertern staut oder stant wider recht eingefurt werden. Ab w=olchem furnemen wir vns groÙ vnd mercklich beschw=aren, dann die kind der muter leib, anbetreffend freyhait oder eigenschaft, nachgen s=ollen, ander pen oder strafen geschriben recht in s=ollichem fall nit zulassen vnd geben. So mag auch vil mynder in dem obangezaigten fal die pen oder straf gegen vnd wider vns furgenomen werden, in dem so sich zwo personen nach cristenlicher ordnung eelich verheyrat haben vnd das hochwidrig sacrament der hailigen ee vor der kirchen eroffnen vnd verstrecken w=ollen, am ersten bey ainer pen ainer suma gelts, zum andern bey pen der empfachung des hochwirdigen sacraments des zarten fronleichnams Jhesu Cristi, bei w=olcher pen alain der mentsch von wegen sund vnd von kains zeitlichen gestrauft werden soll.

Zum dritten beschw=aren wir vns von wegen der freyen personen verheyraten, in w=olchem fal prelaten vilgenants gotzhus inen ain gerechtigkeit furnemen haben w=ollen. Wann ain freye person, mann oder frow, ain freyen zinser oder zinserin zu der ee genomen

hat, alß bald hat sich die frey person nach der zinserin oder dem zinser in die zinerschaft dem offbenannten gotzhus Kempten ergeben mueßen, dardurch aber die frey person von irer naturlicher vnd angeporner freyhait in ainen schw=aren vnd hertern staut oder stand ingefurt wurt. Desshalb vnser diemutig, vnderthenig, vleissig bit ist an ewer vesten vnd weyßhait, an vnserm gnedigen fursten vnd herren, auch ir f. g. erwirdigem conuent so vil zu mugen, wann sich hinfuren der fal begeben, das sich frey personen zu zinser oder zinserin elich verheyraten, nyemand nach inen in die zinerschaft zu bringen, sonder frey beleiben zu lassen.

Zum vierden, so beschwaren wir vns vond der freyen zinser wegen, die von alter her alweg iren freyen zug in des hailigen r=omischen reichs stet, m=arckt, herschaften vnd auf dem land, wann es inen geschickt vnd gelegen gewesen ist, mit st=ater beywonung on alle schatzung vnd beschw=arung irer guter gehapt, alain den j=arlichen zin\$pfennig dem wirdigen gotzhus Kempten zu geben schuldig gewesen. Aber des vnangesechen haben ettlich vnser gn=adig herren vnd des wirdigen gotzhus prelaten vor vil verschinen vnd nechst verruckten jarn inen furgenomen, irem gotzhus in s=ollichem fal von wegen obangezaigten zugs gerechtigkeit zu machen, nemlich von ainem zinser, der sich in s=ollichem fal hat w=ollen aus des gotzhus herlichait vnd oberkait ziehen, den dritten pfening seiner beweglicher vnd vnbeweglicher guter genomen, dardurch aber dem freyen zinser sein pepurlichen vnd rechtm=aßig gerechtigkeit genomen worden ist, der dann, wie obbemelt ist, von alter her nun ainen j=arlichen zin\$pfening dem vilgenanten gotzhus Kempten schuldig gewesen ist zu geben, seinen freyen zug mit leib vnd gut vßerhalb des gotzhus herlichait vnd oberkait, wa es im gelegen gewesen ist, on meniglichs widerspr=achen vnd gewalt zu verendern.

Zum funften so beschw=arn wir vns ab des gotzhus kornm=aß, mit w=olchem nit geleich in vnd auß dem gotzhus bey ainem, sonder zwayen gemeßen wirt, wann wir korngult hinein geben oder im gotzhus koufen vnd heraußnemen. Dann noch in mentschlicher ged=achtnus ist und bewisen werden mag, das des gotzhus Kempten korngult hinein vnd herauß bey Kempfer vnd kainem andern m=aß gem=aßen worden ist. So ist auch vor vil jaren des gotzhus Kempten vnd desselbig vnderthon gebruch gewesen, wann ain arm-man sein schuldig korngult in das gotzhus gefurt vnd in beywesen des gotzhus kastenvogt selbs gemeßen vnd darnach demselbigen kastenvogt vberantwort, so ist yetz ettlichen verschinen jaren ain newerung vnd dem armen man beschw=arung entstanden, das des gotzhus kastenvogt hinein vnser pflichtig korngult meßen thut, beger wir mit allen trewen vnd vlei\$, unser pflichtig korngult dem kastenvogt selbs meßen vnd im zu vberantworten.

Zum sechsten beschw=aren wir vns ab vilbemeelter gotzhus tailung, wann vngefarlich bey s=achzig oder sybentzig jaren haben ettlich vnser gnedig herren vnd des wirdigen gotzhus Kempten prelaten ainen newen gebruch, irem gotzhus zu nutz vnd vns zu großem, merclichen nachtail vnd verderbung leibs vnd guts, furgenomen. Wann ain aigen man oder frow des

gotzhus abgestorben ist, so kumpt dann des vilgedachten gotzhus landammann in der abgestorben person hus, begert vnd erfordert anstat vnd in namen seins gnedigen herren alle hab vnd guter, beweglicher vnd vnbeweglicher, zu verschreiben. Vnd wieweil dieselbig aigen vnd abgestorben person kinder hinder ir verlaßen hat, die person, so noch mit iren kinden in leben ist, sey arm oder reich, haben etlich prelaten den halbtail des aufgezeichneten vnd beschriben guts genomen, s=ollichen missbruch gehalten, ob ainem aigen mann oder frawen drey egemachel nach ainandern abgestorben sind, auch ettlicher prelat sich ains kints tail benuegen laßen. Vermainen wir in dem merclich vnd groß beschw=art zu sein. Es sey auch wider der wirdigen gotzhewser, so in diesem alg=owischen gezierck seind, gebrauch vnd gantz vnerh=ort s=olchs zu begeren. Des wir mit aller vnterthenigkait vnd diemutigkait ewer vesten vnd weyßhait gebetten haben w=ollen, souil an vnserm gnedigen fursten vnd herren, auch ir f. g. erwirdigen conuent zu verm=ogen, von s=olcher großer vnd merclicher beschw=arung zu ston vnd vns hinfuro mit s=ollicher obangezaigter tailung vnbeschw=art, sonder gantz frey zu laßen. So w=ollen wir, des vilgedachten gotzhus Kempten vermainten aigenlewt, vnserm gnedigen fursten vnd herren gebetten haben, vns verrer nit fur aigen, sonder fur frey personen zu halten vnd in kunfftig zeit zu haben, dann wir alain zu der harten eigenschaft mit gewalt gedrunge vnd bezwungen worden sind.

Zum sybenden, so beschw=aren wir vns in obbenannts wirdigen gotzhus tailung, dann ettlich prelaten vilgedachts gotzhus des fals ain vngepurlichen vnd vnzimlichen beschw=arung wider vns zu halten furgenomen haben. Namlich wann ain ledige person, dem oftgedachten gotzhus verwandt, abgestorben ist, weder vatter, noch muter hinder ir verlaßen, so hat in s=ollichem fall ain prelat der abgestorbenen personen verlaßen gut gar genomen, weder brudern, noch ir verlaßen schw=ostern oder derselbigen kinden von gefalner vnd gepurlicher erbschaft nichts geben, dadurch sy irer naturlicher vnd gepurlicher erbschaft on ainicherlay beschuldigung, so baiden geschriben recht anzaigen, wider recht, billichait, vnd gemainen lantsbruch entsetzt worden seind. Desshalb wir mit aller vnderthenigkait begeren, in s=ollichen obbestimpten fal br=udern vnd schw=ostern, oder wa sy in l=aben nit w=aren, iren kind anstat ir vatter vnd muter erben zu laßen.

Zum achtenden, so beschw=aren wir vns mit des wirdigen gotzhus f=allen, w=olchen von den freyen zinser mit irem großen nachtail vnd wider der freyen zinser gerechtigkeit von vns erfordert vnd begert wirt. Namlich wann ain freyer zinser stierbt, so begert ain prelat vilbenants gotzhus das best ross, so der frey zinser hinder im verlast, hat er dann kain ross verlaßen, begert er das best rind, vnd zum ross oder rind das best claid. Stirbt dann die frow, ain freye zinserin, so wird nach irem absterben das best claid, wie sy auf die hochzeitlichen, der hailigen cristenlichen kirchen vest angetragen hat, erfordert vnd genomen fur den fal. Dessgleichen wirt von sant Martin vnd Niclus zinser das best rind on ains (sic) auch das best klayd von oftgedachtem prelaten zu ainem fal begert vnd ingenomen, durch w=olche begerung vnd beschw=arung dem freyen zinser vnd freyen zinserin ir freyhait genomen wirt.

Vermainen wir, verrer solcher fal vnd beschw=arung zu geben nit schuldig sein.

Zum newnden, so werden wir beschwert mit vilgedachtem gotzhus lechen, dann meniger vnderthon mit dem lechen mer, dann sein vermugen ist, beschwert wiert, wann die gelegen guter yetz bey vnsern zeiten vnd tagen gr=ößer vnd h=ocher im werd angesehen vnd gesch=ätzt werden, dann bey vnser vorfaren vnd eltern, vrsach vile der vnderthonen, vnd doch dieselbigen vnser guter nit mer, sonder vil mynder nutz tragen vnd vns geben sind. Von alter her ist des offbenannten wirdigen gotzhus gebruch gewesen, wann ain mann oder frow von ainem prelaten desselbigen gotzhus seinen vnd iren guter gelechnet hat, ist verrer nit not gewesen, dieweil vnd solang der lechentrager gel=abt hat, von ainem neuen erw=olten prelaten widerumb zu lechen, ob schon ainer, zwen oder drey prelaten des vilbenannten gotzhus abgestorben sind. Verhoffen wir verrer in kunftig zeit kain lechengelt mer zu geben schuldig sein, sonder wie ander vnderthon der hochgebornen vnd durchleuchtigisten kurfursten vnd fursten des hailigen r=omischen reichs gehalten, angesehen vnd gehandhabet werden.

Zum zechenden, so beschw=aren wir vns mit des wirdigen gotzhus lechenhouen, nachdem vil jar des benannten wirdigen gotzhus ain loblicher gebruch vnd alt herkomen gewesen ist, wann ain arm man oder desselbigen vnterthon von ainem prelaten vmb ainen erschatz oder hantlechen empfangen vnd denselbigen erschatz oder dasselbig hantlechen bezalt, denselbigen lechenhof fur in, sein eliche huwsfrowen vnd kind mit holtz vnd veld zu brauchen vnd nießen. Sobald dann der arm man den erschatz bezalt hat, wirt im furderlich von des vilgedachten gotzhus amptlewten bey pen vier pfund pfening gepotten, weder h=ow, stro, noch holtz zu verkoufen, dardurch aber dem armen man sein notdurfftige, leibliche narung genommen wiert. So ist auch ain newer gebruch von wegen obbestimpter lechenh=ofen von dem offbenannten wirdigen gotzhus entstanden, nemlich wann ain arm man ainen lechenhof von ainem prelaten vilbemelts gotzhus vmb ainen erschatz bestanden vnd bezalt hat vnd ainen elichen sun, der sich verheytrat, mitsampt seiner frowen bey im, dem vatter, auf dem lechenhof hat, denselbigen hof im, dem vatter, verhelfen zu buwen, so muß derselbig sun auf ain news vmb ain suma gelts mit ainem prelaten vberkomen, oder es wirt des suns vatter, der s=ollichen lechenhof fur sich vnd seine kind vererschätzt hat, verboten, seinen sun mitsampt seinem egemachel nit verrer bey im zu halten. Vermainen wir vnd bitten desshalb ewer vesten vnd weyßhait, vns gunstlich zu bedencken, das wir auß den lechenh=ouen nach ir fruchtparkait vnd vermugentlichait hew, stro vnd holtz, wie dieselbig in ainer suma vnd anzal angeschlagen werden mag, zimlich verkoufen vnd vnser leibsnarung dardurch erlangen vnd erobern m=ogen, begern auch, w=olcher also einen lechenhof vmb erschatz fur sich vnd seine kind bestanden, dieweil der vatter leben ist, in vnd seine sun, sy haben weiber oder nit, bruchen vnd nießen zu laßen.

Zum aylften beschw=aren wir vns von wegen des vilbenannten wirdigen gotzhus cantzli, in der wir yetz vil jar mit kouf, verkouf, wechselgerichts, auch anderer briuen vnd sigeln

mercklich wider alt herkomen vnd gebrauch beschwert werden. Etwann vor verschinen jaren hat ain arm man vmb ain brief vier blaphart oder bechmisch geben, der yetz zwen guldin, ain guldin vnd auf das minst ain halben guldin geben mu\$, w=olcher beschw=arung wir vns nit mynder, dann anderer obangezaigter vns beschw=aren vnd beclagen sind.

Zum zw=olften beschw=aren wir vns von oftbenannten, wirdigen gotzhus Kempten landamman, wolchem ain veder brevgumb, so in des gedachten gotzhus herlichait vnd oberkait wonen vnd desselbigen vnderthon ist, aufs minst vier blaphart oder bechmisch geben vnd bezalen mu\$, des vor anfang s=olchs bestimpten gebrechts nie erh=ort vnd vormals zu geben begert worden ist, begern wir auch abzustellen.

Zum dreyzehenden beschw=aren wir vns ab den diensten, die wir vilbemelts gotzhus v=ogten vnd amptlewten thun mußen, dann wann wir inen nit in allen des gotzhus schl=oßer nach irem gefallen zu dienen berait vnd gutwillig seind, bieten sy vns an vier pfund pfening oder nemen vns an gefenclich, darab wir merclich beschw=art werden.

Zum vierzehenden beschw=aren wir vns ab des wirdigen vnd vilgedachten gotzhus gefengknus, mit der wir von vil abgestorbnen prelaten, amptlewten merclich beschwert worden sind, w=olchen vns on vernunftig, rechtme\$ig vrsachen in thurn gefenglich angenommen vnd vns in die selbigen in st=ock vnd bl=ock ingelegt vnd mit s=olcher herter vnd strenger gefengknus zu vnbillichen vnd vngepurlichen verschreibungen von vnser freyhait gezwungen vnd gedrungen, also das ain mercliche zal der freyen zinser vnd zinserin mit iren frowen vnd elichen kinder sich gegen benannten gotzhus verschreiben mußen, von demselbigen numermer zu weichen, wie dann im ersten puncten vnser beschw=arungen wir zum tail angezaigt haben, auch kainen andern schirmherren an sich zu nemen, sonder alain hindern vilgedachten gotzhus Kempten beleiben, durch w=olchen der frey zinser von freyer zinserschaft wider recht vnd alle billichait gen=ot vnd ingefurt worden ist. So ist auch der gemain arm man verrer mit s=ollicher obangezaigter gefengknus beschw=art worden. Wann er an zeitlichen gutern so vermugenlich gewesen ist, haben in des gotzhus amptlewt nach irem beduncken vnd gefallen wider alle billichait gestrauft, ist er aber an zeitlichen gutern nit so vermugenlich, sonder arm gewesen, so haben seine, des armen gefangen freund ettlich verm=ogenlich personen, dem gotzhus verwannt, bitten mußen, fur den armen gefangen zu bitten vnd fur in zu verburgen, bis s=olliche pen, darumb er in der gefengknus gestrauft, bezalt worden ist. Es ist auch meniger frumer biderman au\$ gro\$em neyd vnd ha\$ on all vern=unftig vnd rechtme\$ig vrsachen gefenglich angenommen, vnd im in derselbigen seine glider errissen worden. Desshalb vnser diemutig bit vnd begern ist, verrer kainen des oftbenannten gotzhus vnderthon, der das recht leiden mug, gefenglich vergw=altigen vnd anzunemen, sonder in mit recht strafen, dasselbig von im annemen. Wann sich auch der fall begeben, das des wirdigen gotzhus Kempten vnderthon mit ainem oder mer malefitzhandel oder hendel verarckwonet oder verlaympt wurden, ist vnser vnderthenig, diemutig bit vnd begeren, derselbigen verlaympten person nachburen zu fragen vnd an denselbigen vormals

vleißiglich zu erfahren, was wandels, sytten vnd wesen die verlaympt person ir leben lang von jugent auf gewesen sey, darmit kain arm man vnbeschult gr=ößer vnd merer verlaympt, vnd mit herter gefengknus seine glider errißen vnd erbrochen werden.

Zum funfzehenden, so beschw=aren wir vns ab des wirdigen gotzhus j=arlichen stewren, mit w=olcher merclich aufgeschlagen, vnd der gemain man wider sein vermugen vnd leibs narung beschw=art wirt. Vermainen weyter nit mer dem wirdigen vilgedachten gotzhus von wegen der stewr ettwas zu geben, dann ain j=arlich zimlich schirmbgelt, mit dem vnser gnediger herr, ir gnaden erwirdiger conuent vnd wirdig gotzhus ainen zimlichen vnd gepurlichen stand halten mug. Bey dem vnser gnediger her vnd ir gnaden erwirdiger conuent w=ollen bedencken vnd ermesen, das dem freyen zinser sein gerechtigkeit genomen, auch an seinem freyen zug verhindert wirt, das auch sein gnad vnd ir gnaden erwirdiger conuent sovil jarlicher herrengult, zins vnd ander zuf=alligen vnd merclichen nutzung j=arlich aufzuheben vnd inzunemen hat, das es s=ollicher großer vnd merclicher aufschlachtung der stewr, wolchen sich vns zu verderebung leibs vnd guts strecken sind, nit notdurftig sind.

Zum sechzehenden beschw=aren wir uns ab dem raißgelt, so auf vns menig mal gelegt vnd mit demselbigem merclich beschwert werden, dann so oft vnser gnediger her von wegen des gotzhus r=omischen kaysern oder k=onig alt dem loplichen bunt zu Schwauben in offen kriegien hilf thut, werden wir merclich beschw=art mit dem raißgelt, vil mer von vns desshalb erfordert vnd genomen wirdet, dann das gotzhus von wegen desselbigen kriegs oder hilf außgibt, das dann wider vnser alt freyhait, herkomen vnd gebruch ist, dann wir vil benanntem gotzhus in kriegsl=offen nit mer, dann von morgen bis nacht widerumb bey vnsern elichen frowen vnd kind zu sein alain in dem fal zu verhelfen schuldig sind. Bitten wir aber ewer vesten vnd weyßhait, in dem angezaigten fall vnd beschw=arung vns bei altem herkomen beleiben vnd verrier vnbeschw=art zu laßen.

Zum sybenzehenden beschw=aren wir vns ab der new furgenomen huldigung oder ayd, ainem new erwolten vnd best=atigeten prelaten vilgedachts gotzhus zu thun, wolche newerung erst bei vnserm gnedigen vnd nechst abgestorbnen herren hochloblicher ged=achtnus, abt Johan Rudolf, vnd yetz bey regierung vnser gnedigen fursten vnd herren, abt Sebastian, ain newerung vnd furnemen angefangen worden ist, s=ollichen ayd oder huldigung nit versammelt vnd ainh=alliglich an ainer malstat, wie von alter her gebruch vnd gewonhait gewesen ist, sonder ain yettlich gericht in oftedachts gotzhus oberkait auf ainen besonder benannten vnd gesetzten tag zu thun begeret wirt. Vermainen wir in kunftig zeit, wann sich s=ollicher fal mer begeben, vns bey altem herkomen vnd loblicher gewonhait beleiben zu laßen vnd vns nit also von gericht zu gericht on ainicherlay vnser verschuldigung zu tailen.

Zum achtzehenden w=ollen wir vnserm gnedigen fursten vnd herren, des vilbenannten gotzhus prelaten, ermant haben, seiner furstlichen gnaden gegen vns in eigner person muntlichen vnd gethonen erbietung in nechster huldigung, s. f. g. gethon, bey der s. f. g. vns

bey seiner erberkait vnd frumbkait, als frum er ain her vnd prelat des virdigen gotzhus sey, verhaißen vnd versprochen hat, all vnser vngepurlich beschw=arungen abzuthun vnd die gantzen lantschaft zu s=ollichem berufen, sunst wa s=ollichs, als obangezaigt, nit beschechen, s=oll vns vnser huldigung vnd verbindung des ayd in ainicherlay weg zu halten nit verbinden, wir auch auf s. f. g. er bieten nit anderst huldigung gethon haben. Desshalb wir vnsern g. f. vnd herren als arm vnderthon ermanet vnd mit aller diemutigkait vnd vnderthenigkait gebetten haben wollen, s=olchem gnedigen, gethonen erbietung yetz auf dise tagsatzung gegen vns in allen obangezaigten puncten vnd artickul verstrecken vnd stat thun.

Zm newnzehenden vnd am letzten w=ollen wir ewer vesten vnd wey\$hait mit aller vnderthenigkait gunstlich zu vernemen gebetten haben, das vnser vetz obangezaigt beschw=arungen all in gemain vnd ain yeden inbesonder wider des vilbemelten wirdigen gotzhus Kempten ersten stiftung vnd desselbigen gotzhus lantschaft freyhait, alt herkomen, gebrauch vnd gerechtigkeit sind. Dann des gotzhus vnderthon dem wirdigen gotzhus Kempten furderlich got zu lob vnd er, der stifter seelen zu trost vnd hilf mit besondern pacten vnd gedingten vnd mercklichen freyhaiten, wie sy vom gotzhus in allen dingen gehalten werden s=ollen, fur all lantschaften vnd herschaften in diesem alg=owischen gezirk an des vilbenannt gotzhus geben worden ist nach lut globwirdigen stiftbriuen, auf w=olchen wir vns hie ziechen thund, ewer vesten vnd wey\$hait mit aller diemutigkait vnd vnderthenigkait gebetten haben, an vnserm gnedigen fursten vnd herren vnd ir f. g. erwirdigen conuent souil gunst vnd gnad zu vermugen; dieselbigen stiftbrief vnd sigel fur ewer vesten vnd wey\$hait einzulegen vnd dieselbigen zu verlesen vnd verh=oren zu geben. Was dann dieselbigen in allen puncten vnd artickul vermugen, w=ollen wir vns, wie gepurlich vnd recht ist, zu halten vnd demselbigen getrewlich zu l=aben erbotten haben, der hoffnung vnd vertrauens, vnser gnediger furst vnd herr vnd s. f. g. erwirdiger conuent werden vns bey vnserm alten herkomen vnd gerechtigkeiten nach au\$weisung gloubwirdiger brief vnd sigel, des gotzhus stiftung vnd desselbigen vnderthon anbetreffen, beleiben laßen, auch vnser gnediger furst vnd herr werd seiner gnaden gnedigem gegen vns gethonem er bieten stat thun. Begern wir in allen zimlichen vnd gepurlichen sachen, wie getruwen, frumen vnd erlichen vnderthonen wol gepurt, mit leib und gut gegen s. f. g. vnd ir f. g. erwirdigen conuent alzit zu verdienen geflißen sein.

Verer so haben des gotzhus Kempten vnderthon auf gehaltnem tag zu Guntzburg angeben zwen artickul, in w=olchen sy auch beschw=art sind:

Das ain yegklicher gotzhusman in seinen gerichtten, in den er geseßen ist, vnd nit vor des gotzhus lantgericht rechtlich furgenomen werden soll.

Nachdem ain freyer zinser oder aigen man durch ainen heyrat, wechsel oder in ander weg sich an das wirdig gotzhus ergeben, hat der selbigen brief vnd sigel in der cantzlei vber sich selber geben vnd auf sein aigen costen ainem prelaten zu Kempten vberantworten vnd bezalen mueßen.

Ewer vesten vnd weyßhait vnderthenig vnd gehorsam, des wirdigen gotzhus Kempten von funfvndzwaintzig pfarren der merer tail vnderthon.

< Kempten, fasc. 411, Bl. 14-22, 25-42.>

49. Martinszell, 1525.10.23, QGD 28

[...] Demnach und wir als arm Leut und Einwoner in E. G. Gericht Sant Martinszelle bewilligt haben, mit E. F. G. unsers Anligend halben uns gutlich zu vertragen, deshalb wir unser Mangel schriftlich mit ainf=altigem Gem=ut anzaigen, E. f. G. mitsampt den Edeln und Vesten, auch loblichen Bis=assen und R=aten undert=aniglich und durch Gottes Willen dem=utlich pittende, gn=adiklich anzenemen und darinne mit Gnaden bedenken, als hernach volgen ist:

1. Anf=anglich ist unser Mangel der St=urn halb, darmit wir bisher beschwart gewesen, ist unser dem=utig Pitt und Beger, uns die zu ringren und Nachla\$ tun und darinne ansehen unser Armut.

Am 2. als dann bi kurz verschiner Zit ain Raisgelt uf uns gelegt worden, dardurch dann ain Widerwill entzwischen E. F. G. und gemainen Gotzhusleuten jetzt und bi vergangner Zit erstanden ist, darab wir merklich beschw=art, E. F. G. undert=aniglich pittende, uns desselben furohin zu entladen und darvon abzustellen.

Am 3. der Todf=al haben, darmit wir bisher merklich beschw=art, E. F. G. mitsampt iren loblichen R=aten und Bis=assen mit sonderm Ernst pittende, darin zu sechen und Nachla\$ung tun. Dann der Lechen halb, die sich oft verkeren, darin wir als arm Leut oft merklich beschw=art werden, E. F. G. dem=utlich pittende, uns die selben ze ringren und darinne mit Gnaden bedenken. Auch derselben Lechen halb einzeschriben, besonderlich wann Witwen und Waisen Lechen empfachen mitsampt iren Tragern, das Einschriben bi ainem Schilling halber beliben ze la\$en, darmit die selben Wittiben und Waisen nit also beschw=art werden.

[4] Der frien Zinser halben ist unser undert=anig Pitt, E. F. G. inen, ob es ainem oder mer not sein wurde, iren frien Zug ze la\$en mitsampt irem v=atterlichem und m=utterlichem Erb, auch der Todf=al halben, wie sich gepurt, entledigen.

[5] Auch Sant Martins und Sant Niclaus Zinser halben ist unser undert=anig Pitt, w=olle dieselben beliben la\$en mit irem frien Zug und aller Frihait, als die frien Zinser Unser Frauen.

[6] Deraigen Leut halben, dieselben E. F. G. der Aigenschaft hinfuro entschlie\$en und dieselben, wie ander E. G. Gotzhusleut hanhaben, halten und beliben la\$en.

[7] Der armen Leut halben, ob ainer oder mer in E. F. G. oder in ains Vogts Straf k=ame, es w=are mit Recht, oder das er v=aniglich angenommen wurde, das den Malefizhandel nit

antreffen wurd, das dann derselb zimlich und nit mit zwain Ruten gestraft werde, und ob sich derselb verschriben muste, das dasselb zimlichen und nit mit seinen Schaden bescheche. Ob auch ainer oder mer armer Mann vor E. F. G. oder E. G. Vogt und amptleuten versagt wurde, das dann und zu verantworten komen laße, und ob [er] sich nit verantworten wurd nach Gestalt der Sach, alsdann s=olle er strafbar sein, alles mit Truwen ane Gevarde.

[8] Der Zins und G=ult halben, so die armen Leut E. F. G. ainem Castner uf den Casten schuldig sind zu antwurten, ist unser undert=anig Pitt, das dieselben ir Zins Korn ainem Castner selb messen und nit der Castner oder seine Knecht.

[9] Der Canzli halben sien wir als arm Leut beschw=art der Brief halb, E. F. G. ernstlich pittende, uns dieselben abzetun und jeden Brief nach seiner Gestalt ze ringren. Ob auch ainer oder mer ain Kauf t=ate, die Lechen antreffend, und darumb Brief n=ame, das im dieselben nit verzogen, im darzu Zug und Tag gegeben, im Jar das Lechen zu empfachen, wie von Alter her.

[10] Item ob auch ainer oder mer seiner Notdurft halben das sein must, es w=are gelegen Gut oder G=ult, verkaufen, und E. F. G. oder Gnaden arm Leut dasselb nit kaufen w=olten, und im Gotzhus nit ankomen m=ochten, das inen dann s=ollichs gegen anderer Herren Leut außserhalb vergunnen werd, darmit dieselben mit dem Iren bi Glouben beliben und bi dem Iren nit verderben m=ußen.

[11] Item ob auch ainer oder mer mit den general und gaistlichen Rechten von E. F. G. V=ogten, Amptleuten oder andern auf fr=omde Gericht erfordert und umbtriben wurde, ist unser sonder, ernstlich Pitten, denselben fur E. G. Gericht hie zu Sant Martinszell oder in andern Gerichten, in E. G. Graufschafft Kempten ligend, dem Gotzhus underworfen, zu hanthaben, darmit E. F. G. und Gnaden Gotzhus Gericht und Acht beliben, und der arm Man vor Schaden verh=ut werde.

[12] am letsten, ober ainer oder mer zum Sacrament der hailgon Ee griffen wurde, Mann oder Frauen, außserhalb der Herrschaft, das dann dem oder den selben der Kirchgang nit verspert noch verpotten werd, sonder si zu gelichem, pillichem Wechsel kommen laßen ungestraft.

Mit dieser obangezaigter Mainung und Artikeln ainf=altiklich bedacht auch andren Anligen, so in E. F. G. Graufschafft und Gerichten anzaigt werden m=ochten, darinne dann Gnad und Nachlaß erfunden werden m=ocht, ist an E. F. G. unser dem=utig Pitt und Beger, derselben uns nit zu entschließen und mit Gnaden zu bedenken. Das begeren wir als die Verpflichten mit aller Gehorsam und Undert=anikait als arm Gotzhusleut zu verdienen. Tun uns hiemit E. F. G. als unserm gn=adigen Hern bevelchen.

[1] Item da\$ die Pfarren mit verstendigen Priestern [besetzt werden sollen] und kainer under 40 Jarn alt genomen werdt.

[2] Kain Absenz von Pfarn geben, sonder selb z%u besitzen.

[3] Die Sacrament und Hailigkait soll nit mer verkauft, sonder ainem jeden Christenmenschen umb Gotz Willen geben werden.

[4] Dem Kind kain Begrebnus mer z%u halten.

[5] Alle die, so sich gaistlicher Alm%usen brauchendt und, [wie] ir Statut innhelt, pristerlich Ordnung nit halten, sollen irer Empter und Pension entsetzt werden.

[6] Kain Gaistlichkait sol nit mer =uber das Pl%ut richten.

[7] Alle Gaistlichait soll in weltlichen Sachen den weltlichen Richtern underworfen sein.

[8] Alle Gaistlichen sollendt ire ligende Gieter iren F=ursten und Herren verzechenden.

[9] Gmain Landsteuer und Raisgelt sollent die Gaistlichen wie die Weltlichen schuldig sein.

[10] Die Gaistlichait solen sich kainer weltlichen Handlung mer geprauchen.

[11] Die Glaitgelt sollent ab sein, ain jeder Herr sein Land umb Glait frei halten.

[12] Todfell nit mer geben werden.

[13] Heuratten, wa sie wellendt.

[14] Freien Z%ug, hinder wen sie wellendt.

[15] In aigen Gieter frei verkaffen, den Herschaften nichtz darvon geben.

[16] Die ligenden Gieter =uber alt herkomener Steuer nit beschweren.

[17] Bei alter Straff und Fr=avel [lassen], wie Tigens Rettenberg Recht ist.

[18] Alle rinnende Wasser [sollen] frei sein.

[19] Vogel, H=oner, Hasen und Wiltsschwein sollendt frei sein.

[20] So ain Paur stirbt, soll die Herschaft nit mer mit den Kinden tailen.

[21] Grundtrur zu Wasser und Land sollent absein.

[22] Kain Meiterei noch Zell von Essendem mer z%u geben.

[23] Kain Pau, Wein, Korn noch anders der Herschaft nit mer z%u verkaufen.

51. Marktoberdorf (Tigen), 1525.2.24, DBA 28

[*史料文面を入手できず。]

52. Weicht, 1525.3.3, DBA 31

Die von Weicht, so dem gotzhaws Staingaden zugeh=orig, haben die artikel an den prelaten daselbs zu Staingaden f=urbracht, tertia die Marty anno etc. 25.

1. die pawrn w=ollen dem pfarrer klaine zechende, opfer, seelgerett hinf=uro nit mer geben; und wa in der pfarrer nit tett, was er inen schuldig ist, so w=ollen sy kain zechent lassen ligen, sonder den selbs aufheben und ain priester, der inen gefellig ist, darmit aufenthalten.

2. w=ollen die pawrn kain erdschatz, kain pawschilling, kain pawmetzen, weder ayr noch henne, auch kain todfall mer geben, w=olln auch nicht auf die pawstift mer halten, sondern ain j=arliche rechnung ton.

3. w=ollen sy kain taffern mer haben oder aber, dass der aman hinfuro nit wirt sey.

4. w=ollen sy den aman nit mer haben aus vill ursachen, doch nit angezaigt, allain sagen sy, was andern verboten, sey im erst erlaubt.

5. w=ollen sy kain holzwart mer haben, sonder yettlicher sein holz selbs verwarten.

6. den s=oldnern soll holz zu irn hewsern auch gegeben werden.

[*以下、史料文面を入手できず。]

53. Wiedergeltingen, 1525.3.3, DBA 30

Nota die artikel, so von denen von Widergeltingen dem prelaten zu Staingaden furgehalten worden, tertia die Martiy anno etc. 25.

Der erst. Die von Widergeltingen geben alle jar der grafenschaft Schwabegkh ze steur 23 fl. 7 1/2 kr., sagen, sy haben von irn eltern geh=ort, da\$ W. nur ain tagdienst gen Schwabegkh getan hab, nemlich ain egkross alle jar ain tag geschickt, w=ollen hinf=uro solhe steuer ze geben nit mer schuldig, begern an den von Staingaden inen darinne hilflich ze sein.

2. das Aichholz zu W. gelegen sagen die pawrn, es sey vor alter ain gemaindt gewesen, aber durch mi\$breuch inen verboten, w=ollen das hinf=uro widerumb ainer gemaindt zugestellt werde.

3. der mull halben zu W., die bisher ain eeh=afftin gewesen ist, vermaine die paurn, so sy hinein ze malen gedrungen werden, der muller habe desterminder fleys mit inen, wollen, dass sy hinf=uro malen, wa sy w=ollent.

4. Der taffern und schenkstatt halben, dieweil die genannt tafern vor zeiten umb ain genannts gelt verlichen worden ist, aber yetz der wirt umb das umgelt, schenke er die wein dester teurer, de\$halben sy beschwert, begern, da\$ yetlicher, w=olher well, zu W. wein schenke m=oge oder aber ain genannt taferngelt, wie von alterher, genomen werde.

5. der leibaigenschaft halben w=ollen sy kain henne, kain todfall, kain hauptrecht zu geben weyter schuldig sein, es soll auch kainer, heyrat wa er w=oll, darumb gestraft werden.

6. die guetter seyen gross ybergilt, de\$leichen der zubaw genannt der braitkern, auch die landmiet umb ein metzen gehehert, begern dadrein ze sechen und inen geringert werden.

7. w=ollen sy kain ganz noch pawmetzn hinfuro ze geben schuldig sein.

8. der erdschetz oder anfell halben w=ollen sy kaynen mer geben, es sey auch inen

verbotten, die guetter nicht verendern noch verkaufen; w=ollen etlich macht haben, ir gerechtigkeit auf den gietern zu verkaufen, sy hetten ain erdschatz geben oder nit; etlich w=olten, w=olher kain erdschatz gebe, solt auch kain gerechtigkeit auf den gietern zu verkaufen macht haben. Der zwayung halben werden sy des ains und begerten, der von Staingaden solt die grossen g=ult, den zupaw, die reutg=ult, allen und yettlichen zesamen schlagen, doch mit mynderung derselbigen g=ulten, und ain genannte g=ult auf ain yettliche hoff gemacht werden, was ainer ze erdschatz geben und was ain pawr widerumb daraus lesen solte, und kainer mer sich underfachen.

9. den gorssen zechende w=ollen sy gebe; wa es aber darzu keme, dass der klain zechendt abgetan wurde, w=olle sy dermassen den auch nit mer ze geben schuldig sein.

10. der herrndienst halben, dieweil sy gar kain ton, haben sy nicht ze clagen; allain des speicherorns halben sagen sy, ir eltern seyen gebetten worden, ain fart gen Staingaden ze ton, des sy von betts wegen getan, aber yetzmaln werde es inen gebotten; w=olln, dass sy gebetten und inen nit gebotten werde.

11. der Werttack halben, so der von Staingaden die vischn=utz auf der Werttack gehehert habe, de\$halben sy die visch dester teurer kaufen muessen, begern, dass die gedacht vischnutz wie von alter hingelassen werde.

12. des angers halben w=ullen sy, dass der von Staingaden den halben gulden ze w=assern wie von alterher gebe.

13. der undern strass halbe soll der von Staingaden solhs inen wende.

< M=unchen HStA., Kriegsakten 71, fol. 186-87. Gleichz. Aufz., wohl Kopie.>

54. Langenerringen, 1525.3.23, QGD 56

Erwirdig, hochgelehrt, gonstig und gnedig Herren! Wir arme Paursleit zu Erringen biten euer Gnad und Gunst, uns underteniglich zu vernemen dise nachfolgende Articul, damit wir bisher merklich beschw=art worden sein:

Zum 1. ist unser Begeren, das wir hinf=uro Gewalt und Macht sollen haben, ainen Pfarrer selbs erw=olen und kiesen, auch Gewalt haben, denselbigen wider zu entsetzen, so er sich ungebürlich hielte, uns das Evangelion clar, lauter zu predigen on alle mentschliche Zus=atze. Verhoffen, E. G. werde uns s=olchs nit abschlagen, sonder darzu verhoffen sein.

Zum 2. so hat der Pfarrer kain aigen Haus, auch kain zimlich Underhaltung von dem gro\$en Zehenden, man gibt im ain Jare darvon, das er kaum und hart seinen Hennen zu essen geben hat. Biten wir E. G., hierinnen ain Ansehen zu haben und ime, dem Pfarrer, von dem gro\$en Zehenden zimbliche Underhaltung zu geben; wo das nit bescheen wurde, das wir uns nit versehen, wurden wir verursacht, den gro\$en Zehenden selbs anzunemen und dem Pfarrer,

wie gemelt, sein Underhaltung darvon zu geben.

Zum 3. Articul so wollen wir f=urohin dem Pfarrer kain kleinen Zehenden mer geben, weder luczel noch vil, darzu auch kein Seelgeret. Verhoffen, solichs billich vertragen zu sein.

Zum 4. zaigen wir E. G. und Gonst an von wegen des Todfals und alle die, so auf den freien Staffel gehoren, oder ander aigen Leut, auch weder leibaigen, Zins hinf=uro der Mainung in kainen Weg nicht mer zu geben. Verhoffen auch, E. G. und Gonst werde uns solhs uberheben.

Zum 5. so ain Paur abstirbt und Kinder hinder ime verließe, die nachmaln umb den Hof bestandsweis w=urben, ist bisher preuchig gewesen, Hantlon zu geben, als bis in 40 oder 50 Guldin. Wollen wir in gueter Hofnung sein, E. G. werde uns solhs hinf=uro vertragen, wann die Gueter seint vorhin vast und ser beschwert.

Zum 6. ist unser Begeren auch nit unbillichen von wegen des Holz, Waßer, Gewild und die Vogel in den L=uftn, auch alles frei zu haben.

Zum 7. so verhoffen wir, nit billich zu sein, H=uner, Aier und Gens von den Hofen mer zu geben.

Zum 8. hat man uns vor Zeiten in die Milin gepoten, ist bei Mans Gedechn=us nit gewesen. Wollen verhoffen, dasselbig uberhaben zu sein.

Zum 9. so ist bisher der Prauch gewesen, das die Hirten und Eschaien dem Vogt H=uner und Aier geben haben m=ußen. Vermeinen wir, auch ab zu sein.

Zum 10. so ist allen Hantwerksleiten, auch den Hirten und Eschaien in die Rorm=ulin gepoten worden. Verhofen wir, hinf=uro ab zu sein.

Zu dem 11. von des Huet-, Habers- und des Gattergeltes wegen seien wir der Zuversicht, uns hinf=ur auch weiter nimer mit beschweren.

Zum 12. so haben etlich G=uter innen, das dieselbigen G=uter die G=ult nit vertragen kinden, und die Paurn das ir darauf einpießen und verderben. Daruf solt ein Herrschaft die selben G=uter besichtigen laßen und nach der Billicheit ain Gilt ersch=opfen, darmit der Paur sein Arbeit nit umbsonst t=uen. Verhoffen, gescheen werde.

Zum 13. so macht man stets neu Saczungen, daruf dann Frevelen gesezt sint, straft uns nit nach Gestalt der Sach, sonder zu Zeiten aus Neide und zu Zeiten aus großem Gunst. Verhoffen wir, uns bei alter geschribner Straf strafen, darnach die Sach gehandelt ist, und nit nach Gonst.

Zum 14. ist unser erenstlich Begeren, so wir die Gilten haimfieren, das man uns und auch den Rossen zu eßen und trinken, nach zimlicher Notdurft zu schaffen gebe und verordne. Versehen uns, auch solhs gescheen werde.

Zum 15. so ist unser Bit und Begeren, ainen jeden, der so Recht begert, denselbigen dabi zu handhaben, uber das weder st=ocken noch pl=ocken. Verhoffen, auch entlich gescheen werde.

Zum 16. ist unser Beschlus und entlich Mainung: Wann ainer oder mehr Articul, als hie

gestellt, so dem Wort Gots nit gemes weren, als wir dann nit vermainen, dieselbigen Articul, wo man uns mit dem Wort Gots für unzimlich anzaigen wolt, wir darvon abstan, wan man uns mit Grunt der Schrift erclaret. Ob man uns schon etlich Articul jecz zulie\$, und hernach sind befend, das unrecht weren, sollen sie von Stund an tod und ab sein, nichts mer gelten. Dergleichen, ob sich in der Schrift mit der Warheit mer Articul erfunden, die wider Got und Beschwernus des Nechsten weren, wolle wir uns auch vorbehalten und beschloßen haben und uns in aller christenlicher Leer ueben und prauchen. Darumb wir Got, den Herren, biten wollen, der uns dasselbig geben kan und sonst niemant.

55. Winzeln, 152X.X.X, -----

[* 史料文面を入手できず。]

56. Hochmossingen, 152X.X.X, -----

[* 史料文面を入手できず。]

57. Stuhlingen, 1525.4.25, AGD 199

1) Die herrschaft Stuhlingen vnd Lupfen belangen, das nyemant in burgerlichen sachen soll gethurmt werden, der sehaftig ist.

Wiewol war vnd vor etwann alten zeiten in obgemelter herrschaft also gebraucht vnd herkomen ist, so vnd wann vnser herrschaft zu vns oder ainer zu dem andern spruch vnd forderung in burgerlichen sachen vnd handeln, es sy schuld oder anders, so nit malefitz betreffen, zu haben vermeint, vnd derselbig begut vnd sehaftig ist, vnd sonderlichen, so er das recht vnd sachen, darumb er angefordert wurt, vertrosten vnd verpurgen will, mit nichten vnvberwindens rechten soll gefenglich angenommen vnd enthalten werden, vnd ob er gleich in gefengknus komen vnd die vertröstung thun wolt, alsbald soll er der gefengknus entledigt werden. Vber sollichs aber so beschweren vns vnser herrschaften, so sie vermeinen, das einer inen schuldig sey, in welcher gestalt das ist, oder das sie vermeinen, einer etwas gefreult solt haben, vnd wollent denselbigen nit by rechterpieten vnd dem, das er heu\$lich oder heblich vnter inen sitzt oder die tröstung vnd sicherung geben wollen, sunder ir gnaden oder ire amptleut durnen vnd plocken denselbigen, nemen inen zuw gefengknus vnd laßen inen ligen, bi\$ er sich mit inen vertragen nach irem willen, vnd also, nachdem er gunst oder vngunst hat, gehalten wurt. Dieweil dann nymant vnd sonderlichen der sehaft, heu\$lich vnd

hebtlich sitzt, nit fugitiuus vnd die recht vnd sachen, darumb man spruch vnd forderung zu ime zu haben vermeint, vertribosten vnd verpurgen kan vnd will, so ist vnser vnderthenige bitt, e. g. wollent mit vrteil vnd recht sprechen, das vnser herrschaft in sollichen sachen vnd fellen vnd alle forderung vnd clage, die vnser herrschaft zu vns vermeint zu haben, in den gerichtten, da wir, die angesprochen, geseßen, vnd vns by rechterpieten pleiben wollen laßen vnd vns furter darumb nit thurnen, plecken, noch stocken, noch also laßen thun durch ire amptleut, sunder vns by vnsern gerichtten, darunter wir geseßen, pleiben zu laßen vnd on erkanntnus des gerichtts in kein weiße zu strafen.

2) Das die, so vmb malefithhendel angenommen werden, nyergends anderst furgenommen werden sollen, dann an den gerichtten, darunder sy geseßen oder begriffen werden.

Item wiewol wir ein peinlich gericht, stock vnd galgen haben, wellichs peinlich gericht durch vnser herrschaft wurst besetzt, vnd wir bißher in geprauch vnd vbung gewesen, in peinlichen vnd hendel, die ain malefith belangen, seint gericht, auch gemeine recht vermogen, das keiner fur ein vnmittel gericht oder auß dem gericht, da das malefith begangen, vnd der theter an dem selbigen ort begriffen wurt, gezogen oder gefuhert werden soll, nit dest minder so haben vnser herrschaft ein neuwerung kurtzlich furgenommen, vnd so einer, der dergleichen begangen vnd angenommen ist, so furen sie die selbigen von vnd auß vnserm gericht an ir ober gericht, darauß dann vil vnbequems erwechst, etwan der schuldig, nachdem er gunst hat, seinem verschulden nach nit gestraft wurt etc., vnd mußen wir mit großer muge, arbeit, costen vnd wagung den gefangenen dahin furen. Ist vnser pitt zu erkennen, das furter die, so also in vnserm gericht gefangen, angenommen vnd begriffen werden, außser vnserm gericht an das obergericht nit solle gefuhert, sunder vor dem vnderm vnserm gericht gerechtfertiget werden vnd pleiben.

3) Das die herrschaft nympt des gestolen, auch das eygen gut, wann einer vom leben zum tod wurt gericht.

Item so vnd wann einer eines diepstals halber wurt vom leben zum tod pracht, so nympt die herrschaft nit allein das gestolen gut, so es verhanden, sunder auch das gantz gut widder alle satzung, nachdem dem betrubten kein betrubtnus zugelegt werden soll, vnd verderbt also des armen hausfrowen vnd kinder, die dannocht die schulden bezelen mußen. Ist vnser bitt mit recht zu erkennen, das, so sich furter der falle mer begipt, vnser herrschaft des gestolen gut dem ihenigen, dem es gestolen, widderzustellen, auch des armen hausfrow, kinder vnd freunden das verlaßen gut, waher es auch komen ist, laße vnd nit hinneme, vnd vnser herrschaft furter des aberzusteem schuldig seient.

4) So der diep ledig gelaßen wurt, so nimpt der herr des gestolen gut.

Item so vnd wann in gleichem fall einem etwas gestolen, vnd der theter begriffen vnd gericht oder nit gericht oder ledig gelaßen wurt, so behelt die herrschaft die gestolen habe, on das er die dem ihenigen, dem die entpfremdbt, oder seinen erben widder zu handen stellet, dardurch ettwan verderpnus derselben entsteet. Dieweil nun sollichs widder recht, so pitten

wir euch zu erkennen, das vnser herrschaften, so der also gefangen, gericht oder ledig gelaßen wurt, die gestolen habe, dem sie entpfrembt, oder seinen erben widder zuzustellen schuldig sey.

5) So der ihenig, dem etwas gestoln wurt, dasselbig dem piep abeylet, so mu\$ er dasselbig der herrschaft geben.

Item so vnd wann sich begipt, das einer, dem etwas gestolen oder entpfrembt ist, dem theter die gestolen habe abdringt in der nacheyl oder sunst, so mu\$ er sollich sein eigen gut, das er also errettet hat, vnser herrschaft geben, vnd so er das nit offenbart, sunder verhelet, vnd vnser herrschaft des gewar wurt, so wurt er darumb nach derselben oder der amptleut willen gestrafft. Ist an euwer gnaden vnser pitt zu erkennen, das sollich vnrecht sey, vnd vnser herrschaft oder iren amptleuten sellichs zu nemen oder zu strafen nit gepur, sunder das sie schuldig seient, furter dauon zu steen vnd, dem die gestolen habe ist, zu laßen.

6) Von fallen, so eliche leut sterben, so die verstorben person der leibaygenschaft halber angesprochen wurt.

Item wiewol die ehe von gottlicher vnd cristenlicher ordnung vnd satzung vffgesetzt, die auch frey sein, dauon nach todsf=allen nichts genomen werden solle, so ist doch war, so sich begibt, das, so einer oder eine in der herrschaft eine oder einen au\$ der herrschaft nimpt, der oder die der herrschaft mit leibaigenschaft nit verwandt, vnd dann die mannsperson mit tod abgeet, vnd die verstorben person der leibaygenschaft halber angesprochen wurt, so nemen die amptleute das best haupt viech, vnd so dann die frow dergleichen abgeet, die besten kleider, so sy zu hochzeitlichen tagen getragen, sampt ainem best, auch an ettlichen orten in der herrschaft die klaider, so der mann stirbt. Ist an euwer gnaden vnser pitt, mit recht zu erkennen, das furter vnser herrschaft, so sich ye zu zeiten der falle begeben wurt, aberstant, vnd wir weder das best haupt viech, kleider, bett oder gar nichts des todsfals halber zu geben schuldig seient, sunder vns dauon entledigen.

7) Von fellen, so einer sich vermechelt, mit ainer, die der herrschaft mit leibaygenschaft nit verwandt ist.

Item so vnd wann sich der fall begipt, das einer ein vngeno\$ame frow, die der herrschaft, wie oben erzelt, mit aygenschaft nit verwandt ist, [nimpt,] vnd dieselbig vngeno\$ame frow st=urbt, so nemen die herrschaft den dritten teil des gantzen guts on alle entgeltus, ob auch schulden vorhanden sint, oder die verla\$ene kynder erzogen oder nit, vnd begipt sich je zu zeiten, das vns das viech, das etwan nit gar, sunder zum halben teil vnser vnd noch vnbezalt ist, genomen wurt, dadurch sich begipt, das vons armen mangel an zustellung halbs viechs mercklichs begegnet, vnd mu\$en nitdestminder das halb vich bezallen. Ist an euwer gnaden vnser vnderthenige pitt zu erkennen, wie wir by dem nechsten artickel gepetten haben.

8) Das die ehe mit einer vngeno\$ame on erlaubnus der herrschaft verpoten ist.

Item so werden wir aber wider cristenliche satzung beschwert in dem, so es sich begibt, das etwan einer mit wißen vnd willen der herrschaft ain vngeno\$ame fraw, oder die frawe ein

vngenoßamen man, die der herrschaft mit leibaigenschaft nit verwandt ist, nemen, die in die herrschaft mit irer narung pringen will vnd von der herrschaft oder den amptleuten erlaupnus begert, so wurt vns sollichs je zu verpotten oder abere lang aufgezogen, vnd so wir also zu der ehe greifen mit derselben person, so werden wir durch die herrschaft oder amptleut gestrafft. Ist an euwer gnaden vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaft vns furter kein eintrag, verpot oder verhinderung in die ehe thun, auch wir frey, vngestraft einigen val zu geben, zu dem sacrament der heiligen ehe mit personen, mit denen ehelichen zu vermehelen die cristenlich kurch nit verpeut, greifen mogen, vnd wie oben gepetten ist.

9) Das die vom gericht, so sie nit nach gefallen der amptleut vrteilen, fur das lantgericht werden gefordert vnd etwann gestrafft vnd nit frey vrteilen d=urfen.

Item wiewol vnser gerichtspersonen zu dem rechten gelobt vnd geschworen vnd nach irer besten verstentnus in sachen, so fur sie bracht worden, vrteylen nyemant zu lieb, noch zu leid, so ist doch war, so ye zu zeiten die amptleut zu irem gefallen der herrschaft sachen vor den gericht, so in jedem flecken der herrschaft gehalten wurt, furnemen, vnd die erbarn vom gericht irer aytspflicht vnd verstentnus nach etwas erkennen, vnd dasselbig den amptleuten nit gefellt, so laden sie die selbigen vrteilsprecher fur das lantgericht, beclagen, sie haben nit recht geurteilt, vnd werden also ye zu zeiten die vrteilsprecher in straf erkannt, daru\$ dann nichts ander\$ folgt, dann das die erbarn leut verm=oge irs ayts vnd verstantnus zu vrteilen nit frey, noch sicher seient vnd alle zeit zu vorteil den amptleuten wider iren eit vnd verstentnus zu vrteilen wider alle recht, vernunft vnd pillicheit gedrungen, vnd die parteien, gegen denen die amptleut clagens furnemen, allewegen vngerechter vrteil gewertig sein mußen. Dieweil dann ein richter vmb sein vrteil nit mag außerhalb ettlichen f=allen, im rechten gesetzt, furgenomen werden, vnd die vom gericht zu dem gericht gelobt vnd geschworen, die appellation von sollichen vndern vrteilen fur vnd an das lantgericht zugelaßen, da sich die amptleut wider m=ogen erholen, so anders sie fug vnd recht haben, so ist vnser pitt, euwer gnaden wellent mit recht sprechen vnd erkennen, das die vom gericht in sachen, so also fur sy bracht werden, wie sie gelobt vnd geschworen vnd nach irer besten verstentnus, wie ein jeder richter zu richten schuldig ist, vnd er got, dem almechtigen, red vnd antwurt darumb geben will, vrteilen vnd sprechen moge, das die vrteiler darumb an das lantgericht nit zu citieren, furzunemen, zu beclagen oder zu strafen seient, so sy wider die amptleut wurden sprechen, sunder were sich der gesprochen vrteil beschwert, fur vnd an das lantgericht als die ober herrschaft zu appellieren macht habe.

10) Das alle person, jung vnd alt, mußen by dem gericht sein, so die herrschaft vber das blut richtet.

Item so vnd wann vnser herrschaft vber das plut richten will, so manen die amptleut in allen flecken alle die ihenen, die vber vierzehen jar alt seien, by dem lantgericht zu erscheinen, bi\$ zu entschaft daselbig bey der hohen bu\$ vnd straf zu pleiben, da dann wir keinen nutz, sunder vnsern vnnutz schaffen mußen, von vnser arbeit geen; etwann standen eins hau\$ gar

vnd ganz ledig. Dieweil dann in kurtzen jaren sollich also furgenomen ist, vnd au\$ einem jeden flecken ein kleine zal genomen, damit das lantgericht genugsam verhut worden, wir auch des vnnutzen costen enthalten vnd an vnser arbeit pleiben m=ogen, pitten wir in dem rechtlich fursehung zu thun, damit wir alle nit d=orfen am lantgericht erscheinen, sunder das die herrschaft zu den richtern au\$ aynem hau\$ eins jeden flecken ein mannsperone eruorder, das gericht zu behuten, versehen wir vns, das es damit genugsam verhut werden mag.

11) Das der vndervogt oder vnderamptman mit wi\$en vnd willen der gantzen gemeine oder mererteil der stimmen gesetzt werden s=olle.

Item wiewol je vnd je in der herrschaft gewesen ist der geprauch vnd herkomen, das, so vnd wann es zu fellen komen ist, einen vndervogt oder vnderamptman zu setzen, das derselbig mit wi\$en vnd willen der gantzen gemein oder mererteil der stymmen gesetzt ist, so haben doch vnser herrschaften in kurtz verschinen jaren inen furgenomen, denselben on vnser wi\$en vnd willen vnd allain nach irem wolgefallen zu setzen vnd thun vns verhinderung daran, nemen, wer inen geliept, darau\$ entsteet, das derselbig allein nach willen der herrschaft oder der amptleute handelt, damit er nit abgesetzt werd, vnd werden auch etwann gesetzt, die nit geschickt dazu seint. Ist an euwer gnaden vnser vnderthenige pitt zu erkennen, das vnser herrschaft vn\$ bei dem also pleiben zu la\$en vnd den vndervogt oder = amptman, wie von alter herkomen ist, mit wi\$en vnd willen der gantzen gemein oder mererteil der stymmen zu setzen vnd anzunemen schuldig sey. Des obern amptman halber nemen wir vn\$ gar nit an.

12) Das wir gedrunge werden, brief durch den lantschreiber zu schreiben zu la\$en, die doch vnder des lantgerichts sigel nit versigelt werden.

Item so werden wir beschwert durch vnser herrschaft, so vnd wann einer der vnsern ettwann brief will la\$en aufrichten, es seient kauf-, verkauf-, contrack- oder andere brief, wie die namen haben, so vnder vnser gericht sigel sollen aufricht werden, die wir ettwan durch schreiber vmb ein gar gerings haben mogen schreiben la\$en, so werden wir gedrunge, solliche brief durch den lantschreiber schreiben zu la\$en, der vn\$ dann vbernimpt. Ist an euwer gnad vnser pitt zu erkennen, das wir furter solliche brief vnd die nit vnder des lantgerichts, sunder vnserer gericht insigel gefertigt werden mu\$en, durch andere schreiber vnd nit den lantschreiber schreiben m=ogen la\$en vnd darzu nit, wie bi\$her, gedrunge werden.

13) Das wir gedrunge werden, frembden herrschaften vnd edelleuten zu raysen vnd zuzuziehen.

Item wiewol wir allezeit, so vnser herrschaft vnd irer gnaden lant vnd leut wurden vberzogen, gantz willig weren vnd seien, mit vnsern leib vnd haben bestendig vnd hilflich zu sein, so werden wir durch vnser herrschaften gedrunge, au\$lendigen herrschaften vnd edelleuten zu raysen vnd zuzuziehen mit vnserm schweren costen, wagnus vnser leib vnd guter, das wir zu thun nit schuldig. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaft f=urter

vns andern vnd außlendigen herrschaften vnd edelleuten zu raysen, zuzuziehen vnd hilf zu thun nit mer dringen, wir auch weiter, dann so vnser herrschaft, ir land vnd leut vberzogen werden, zu ziehen vnd reisen oder hilf zu thun nit schuldig seint.

14) Das vns die fronwelt vnd andere holtzer widder alt herkomen zu brauchen benommen wurt.

Item wiewol auch wir von alter here zu vnser notturft one eintrag vnser herrschaften gepracht haben die fronwelt vnd andere holtzer, so ist vns doch in kurtz verschinen jaren durch vnser herrschaft vnd ire amptleut sollicher prauch benomen, vnd will vn\$ sollicher prauch zu vnser notturft nit meher gestatt werden, das vn\$ mercklichen schaden vnd nachteil bringt. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaft vnuerhindert furter vn\$, wie von alter here geschehen, solliche fronwelt vnd andere holtzer geprauchten laßen, daran kein verhinderung, noch irrung thun.

15) Das vnser herrschaft, ire amptleut vnd diener mit hetzen, baytzen vnd jagen vber die acker vnd auch zu vnbequemlicher zeit one scheiwe reiten vnd gangen, die frucht verwusten vnd schaden thun.

Item wiewol wir mit schweren costen, muhe vnd arbeit vnser wisen, acker vnd andere guter pauwen mußen, damit wir vnser herrschaften m=ogen thun, das wir inen von rechts wegen zu thun schuldig seint, auch vns, vnser weiber vnd kinder dauon n=oren mußen, derohalber vn\$ kein schad von vnser herrschaften, amptleuten vnd diener geschehen, sunder das die mer, dann andere zu verhuten schuldig seint vnd andern das zu wehern, vnd vn\$ vnser guter pillichen beschutzen sollen, nitdestweniger so reiten vnd laufen vnser herrschaften, amptleut vnd ire diener aun scheuhe vber die wisen, ecker vnd ander vnser guter mit dem baytzen, jagen vnd hetzen vnd auch zu zeiten, als die frucht am meisten mag dadurch schaden empfangen. Ist vnser pitt, euwer gnaden wollent erkennen, das vnser herrschaft, amptleut vnd ire diener furter das aberzusteem schuldig seient, vnd so wir de\$halber schaden empfangen, sie darumb pfenden vnd strafen m=ogen.

16) Das die herrschaft die waßer, so durch vnser guter geen, vns widder alt herkomen genomen vnd vischern gelyhen haben.

Item so haben wir etwan viel gutere vnd wiesen, so vnser eygen seint, dadurch fließende waßer laufen, die wir bi\$hier zu vnser notturft der mullin vnd die wisen zu weßern gepraucht haben, vnd dann auch die waßer gemein seint, so haben vnser herrschaften vns sollich in kurtzen jaren genomen, gestatten vns die nit zu geprauchten vnd verleihen die vmb ein zin\$ den vischern, die dann vff vnsern gutern mit zerreißung vnd zerschleifung der zeun vnd weren vns mercklichen schaden thun, auch an den mullin vnd wisenweßerung verhindert werden. Ist vnser pitt zu erkennen, das gedachte vnser herrschaft vns daran kein verhinderung thun vnd vns solliche waßer zu vnser notturft, wie von alter herkomen ist, auch die zu fischen widerumb geprauchten zu laßen schuldig seint, die furter nit mer, wie von inen bi\$hier geschehen, den vischern zu verleihen.

17) Das die herrschaft einem son oder tochter, der oder die außgestewrtist, erbt vnd die nechsten freunt außschleußt, das sie nennen hagstoltz.

Item wiewol verm=oge gemeiner geschriben rechten versehen ist, das ein yeder nechster freunt, es sey vatter, mutter, schwester, bruder oder ander, des nechst verstorben verlaßen hab vnd guter erben sollen, so ist doch war, das widder sollichs gesatz vnd alle vernunft vnd pillicheit, so vnd wann ein vatter seinen sone oder tochter sein gepurent ertheil gibt, vnd sich die selbig person in die ehe nit gestattet vnd stirbt, so nympt die herrschaft derselbigen verstorben verlaßen hab vnd guter vnd schleußt auß vatter, mutter, bruder, schwester vnd die nechste naturliche, rechtliche vnd billiche erben. Ist vnser pitt mit recht zu erkennen, das vnser herrschaften furter dess aberzustanden vnd den erbfall, dahin der von rechts wegen, fallen zu laßen schuldig sey, die nechsten erben mit nichten daran hindern vnd sich sollicher verlaßen habe vnd guter nit meher vnderziehen.

18) Das des entleibten haausfrowe vnd erben mußen den costen geben, so vber th=ater gericht wurt, ob auch der entlaufft, oder die frowe nit clagt.

Item so vnd wann einer in der herrschaft zu tod gesschlagen wurt, vnd der th=ater entlaufft, vnd des entleubten freunt nit clagen, so richtet die herrschaft nitdestweniger vber das plut, dar=uber dann großer costen geet, muß des entleubten hausfrouw oder kinder sollichen vncosten von dem iren geben. Dieweil dann des entleubten freunt nit clagen, vnd darumb vnbillich ist, das sie den costen, so der halber vfflaufft, tragen sollen, so pitten wir zu erkennen, das in angezeigten f=allen des entleubten hausfrouw, kinder oder nechsten erben sollichen vnbillichen costen außzurichten vnd zu bezallen nit schuldig seient, sunder des frey vnd ledig standen, damit nit beschwert werden.

19) Das die herrschaft die kinder, außserhalb der ehe geporn, erben will mit außschließung der nechsten freunt, ob sie auch von ledigen geborn seien.

Item so vnd wann ein kunt, das außserhalb der ehe geporn ist, ob auch das von zweien ledigen gezilt wurt, mit tod abget, so will die herrschaft desselben verlaßen hab vnd guter erben vnd schließen derselben nechsten erben auß, ob auch dasselbig bruder oder schwester hette. Ist vnser pitt, e. g. wellent erkennen, das bruder, schwester, vatter, mutter oder nechste erben desselbigen ledigen kunds vor der herrschaft rechte erben seint, vnd denselbigen durch die herrschaft kain eintrag, noch verhinderung mer thun.

20) Das ein straf eins maulstraichs gewesen ist drey oder funf schilling, ytzt wurt in großen fr=auel gezogen.

Item wiewol war, das von alters her vff vns komen ist, so vnd wann einer einem andern ain schlechten maulstraich geben hat, das derselbig, so er vnrecht funden worden ist, nit vber funf schilling zu straf geben hat, vnd derselbig klein freuel dem vnderamptman, schultheis oder vogt, der den stab in der hand gehapt, zugeh=orig, vnd er den genomen hat, so wurt doch durch vnser herrschaft oder amptleut sollichs fur ein großen freuen angezogen vnd daf=ur genomen, dem vnderamptman, vogt vnd schulthei\$, der den stab in der hand hat,

entzogen, anheimschen inen die herrschaft oder ire amptleut. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaft vnd amptleut schuldig seient, in sollichem falle bey dem alten fr=auel zu laßen, das wir auch dar=uber vnd als fur ein großen fr=auel nit sollen gestraft oder angezogen werden, inen auch denselbigen fr=auel nit meher anheimschen, sunder dem vnderamptman, schulthei\$ vnd vogt, der den stab in der hand hat, volgen zu laßen, inen darumb kein eintrag mer zu thun.

21) Das wir vns vor vnser herrschaft, so sie ye zu zeiten haben gulden vffgenomen, verschriben, vnd so wir in die laystung gemant, den costen entrichten mußen.

Item so haben vnser herrschaften je zu zeiten gulden vffgenomen vnd vns verm=ogt, das wir iren gnaden zu vnderthenigen gefallen vn\$ fur sie verschriben haben, im fall, wa sie die jerlichen gulden nit bezalten, vn\$ in laystung zu stellen, bi\$ sie die bezalen vnd wiewol sie vns dagegen schadlo\$ zu halten zugesagt haben, so hat sich doch oft begeben, das wir, vmb das sie die gulden nit bezalt haben, in die laystung gemanet vnd auch geleistet vnd etwan vil verzert haben, wann sy dann bezalung gethaun oder sunst sich mit den glaubigern vertragen haben, so haben sie vns vnser zerung halber kein erstattung gethaun, sunder wir haben vnser zerung selbst widder die billikeit vnd schadlo\$zusagung tragen vnd gedulden mußen. Ist vnser pitt zu erkennen, so vnd wann sich solliche f=all mer begeben, das sie vns schadlos halten vnd die zerung, so wir in der leistung irenthalber gelitten, auch den schaden, den wir darau\$ leiden, entrichten, vnd wir die zerung vnd schaden zu tragen oder leiden nit schuldig seient.

22) Das wir werden gedrunge, zu malen in einer mulin, so vn\$ vngelegen vnd beschwerlichen ist.

Item wiewol in der herrschaft Lupfen vnd Stulingen etlich mulin gelegen, die vn\$ am bequemsten zu malen gelegen, so werden wir doch zu vnserm großen nachteil gedrunge, in einer mulin, vnser herrschaft gelegen, die doch vn\$ vnd einem jeden flecken vngelegen ist, zu malen. Dieweil dann wir doch sunst nyrgends malen, dann in vnser herrschaft vnd iren mulin, auch vnser multer vnd lon gefallen, so ist an e. g. vnser pitt zu erkennen, das ein jeder fleck in der herrschaft Stulingen vnd Lupfen ime am bequemlichsten gelegen sein korn malen m=og vnd nit also, wie oberzallt, zu malen gedrunge werden.

23) Das wir ankunfft der zyn\$ vnd renten nit wißen.

Item so geben wir j=arlichen vnser herrschaften mit vnser großen beschwerden zin\$, renten vnd gulden von vnsern gutern vber alles raysen vnd anders, das wir vnsern herren geben vnd thun, wißen die ankunfft nit, v\$ was vrsachen solliche geraicht werden, noch auch was vnser herrschaften dagegen vns zu thun pflichtig vnd schuldig seient. Dieweil billich die ankunfft angezeigt wurt, bitten wir zu erkennen, das vnser herrschaft schuldig sey, vns anzuzeigen die ankunfft sollicher zin\$, gulden vnd renten mit glauplichem schein, warumb wir die inen zu geben, vnd was sy vn\$ dagegen zu thun schuldig seient, oder so sie das nit theten, erkennen, das wir inen furter damit nit zu gewertigen schuldig seient, noch die inen furter mer raichen vnd dauon frey vnd ledig sein sollen.

24) Das wir mit mancherley frondienst werden beschwert.

Item vber das so werden wir durch vnserere herrschaften vnd ire amptleut mit manicherley vnleidenlichen frondiensten beschwert vnd dadurch, nachdem wir in ainer rauhen art gelegen, vnserere guter zu pauwen verhindert werden, vnserere weib vnd kinder zu emerren nit wißen, auch ettwan vnserere herrschaften, das wir inen sunst zu thun schuldig, nit laisten kunden, noch m=ogen. Pitten desshalber zu erkennen, das wir furter sollicher frondienst zu thun nit schuldig, noch von vnser herrschaft darzu gedrungen werden, sunder der gantz vnd gar frey, ledig steen sollen, vnd seint nemlich diße die vnleidenliche frondienst:

Item wir mußen einen tag habern, zum andern hanf binden, bewerfen, widder eren vnd seggen, item brachen, falgen, geet eren, seggen vnd egen, schneiden vnd in die scheurn furen, vnd so es gedroschen wurt, auß der scheurn in das schloß furen, item die matten meymen, hewen vnd in das hew in die scheurn furen, item hagen, jagen, die wiltsayl furen, vnd so willpret gefangen wurt, in das schloß furen, so mußen wir auch zu zeiten das willpret auß dem schloß geen Than furen, gein Engen oder andere ort, dahin es zu furen vnsern gnedigen herren gefellig.

Wir mußen auch den wein von R=uelissingen, desgleichen auch von Cuenßheim auß dem Els=as vnd wo sein gnaden den kauft, gein Stulingen bey vnser eigen futer furen. So mußen wir auch das schloß nit allain mit prenholtz, sunder auch mit pauwholtz versehen vnd beholtzen, item die ecker reuten vnd seubern, item den pauw vff die ecker furen, zerspraiten vnd zetteln. Item so wir seggen sollen, vnd die vnbequemist zeit ist dauon zu steen, so mußen wir wurtzeln graben, morachen gewinnen, wecholder abschlahen, erbselen brechen, damit vnserere gnedige herren schlehencompost machen m=ogen. Item wir mußen auch durch vnß selbst oder vnserere weiber vnd dienstvolck den hanf verschlihen, retzen vnd biß zu der kunkel beraiten laßen. Dazu so mußen wir auch die bech vnd waßer helfen abschlahen vnd vischen vnd das vns das beschwerlichst vnd schedlichst ist, das waßer in vnd vff vnserere guter richten, die vns dadurch zu schaden komen vnd verderben. Item wir mußen korn furen von Schlaytten geyn Schaffhusen vnd auß dem schloß Schaffhusen vnd von Engen gein Stulingen habern, dessgleichen korn vnd habern von Bondorf gein Stulingen vnd Schaffhausen furen. Item dem burgvogt mußen wir den stalacher megen vnd embden, den burgarten megen vnd heuwen, vnd das dreymal im jar. Item wir mußen auch dem burgvogt sein viech ain zu Bendorf frey vmbher laßen gen vnd huten. Vnd wiewol wir vor, das wir des ackergends frey sein solten, geben futer, habern, rauchhaber, kelbergelt, vogtheuwe, auch pflugkorn, nitdestminder werden wir gedrungen, die acker zu pauwen vnd eren. So mußen wir die jaghunt ziehen, so lang das den amptleuten gefellig, das vns nit allain beschwerlichen an der atzung, sunder auch schidlich an vnsern jungen hunern vnd ander gefugel, das wir nit m=ogen erziehen, sunder das von den hunden schaden nimpt. Bitten zu erkennen, das wir die selbige jaghunt zu ziehen vnd zu halten nit schuldig sein, sunder des frey sein sollen.

So seint wir von Witzeim, so zu der herrschaft Lupfen erkaufft seint, beschwert, das wir vber

die schatzung vormals nit mer geben haben, dann zwen guldin, haben die herrschaft zu kurtzen zeiten sollichs erstaigt vff anderthalben guldin h=ohr. Ist vnser pitt zu erkennen, das die herrschaft schuldig sey, vns bey den zween guldin, wie es vff sie komen ist, pleiben zu laßen vnd von sollicher furgenomen neuwerung zu steen schuldig seint.

Item so haben wir von alters her vff vnsern guttern, die wir schwerlichen bi\$hier haben mußen verzinsen vnd versteuren, darumb beschwerden tragen, rayfstangen vnd he\$linstecken, darab man schinen zu den kerben oder zeinen machen mag, gehauwen, damit ain arm man je zu zeiten sein narung hat m=ogen beßern, das wurt vns itzt durch die herrschaft benomen vnd verpotten. Ist vnser pitt mit recht zu erkennen, das sy schuldig seint, vns vngeirrt, wie dann von alters here wir gepraucht haben, sollichs widder prauchen zu laßen vnd darumb kein gepott thun, noch zu strafen.

25) Das junge knaben nit sollen zu dem rugen genomen werden.

Item so ist der prauch bey vn\$, das zu zweien gerichtten je ainer den andern rieget, vnd in denselbigen vil geuert geschicht vnd leuchtlichen geglaubt wurt, werden die jungen knaben, so vber zw=olf jar nit alt seint, gedrunge zu riegen, vnd das vmb ayt zu schweren. Ist vnser pitt zu erkennen, das solliche junge knaben zu dem riegen nit werden gedrunge, vffgenomen, noch mit dem ayt beladen, sunder das einem jeden flecken zugelaßen sein solle, in craft ires ayts, damit sie dem gericht verpunden seint, from, erber leut in einer anzall darzu vffzunemen vnd mit dem ayd zu beladen, damit in dem riegen niemant geuert wert oder vnrecht geschehe.

26) Das die von Witzen in der herrschaft Lupfen nit dürfen gens oder enten ziehen.

So wurt auch ettlichen in der herrschaft Lupfen, als denen zu Witzen, verpotten, das sie nit dürfen halten oder ziehen gens, noch enten, dauon doch die armen ir leibsnarung m=ochten haben. Ist vnser pitt, das euwer gnad sollich pott mit irer gnaden spruch aberkennen vnd sprechen w=ollen, das die armen zu Witzen furter vnuerhindert der herrschaft verpott m=ogen gentz vnd enten nach irer notturft, wie in andern flecken vnd dorfern gewonlich ist, ziehen.

27) Das wir mußen das holtz geben, so einer mit dem brand gericht wurt.

So werden je zu zeiten, so in der herrschaft einer mit dem brant gericht wurt, die flecken, wellichen die benennt werden, gezwungen, das holtz zu geben, vnangesehen das die herrschaft des armen gut hinwegnimpt. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir vnd dieselbigen flecken furter, so vnd wann einer zu dem brant geurteilt wurt, das holtz darzugeben nit schuldig seint, sunder des frey vnd ledig, vnbezwungen steen vnd pleiben, sollen auch furter des armen gut den erben la\$[en], wie oben gepetten ist.

28) Das man im frieling widder gemeinem geprauch verpeut, wun vnd wayt zu seubern vnd zu verprennen.

Item wiewol ein gemeiner lantsprauch ist, das alle zeit im fruling, vmb das wun vnd wayd wachse, so die vervnseubert ist, geprant wurt, das doch niemant schaden pringt, so wurt vn\$ doch sollichs by hoher straf vnd pu\$ verpotten, wiewol wir durch das prennen vff vnsern

aigen gutern, die wir biß hier schwerlichen verzinßt haben, die wait nit zergeen laßen. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaften vns pillichen bey sollichem gemeinen landsprauch laßen vnd das pennen on eintrag, verpot oder verhinderung gestatten, wie es bey altem also herkomen ist.

29) Das der vogt zu Bondorf die gemeinen beschwerden nit tragen will vnd doch alles geneußt, das andere genußen.

Item wiewol ein vogt zu Bondorf auch guter daselbst hat vnd geneußt, was ein anderer daselbig geneußt, vnd dann ettwan zu erhaltung der gemeinen nutz daselbig gepott oder verpott geschehen, will er die nit halten, will auch nit helfen weg oder steg beßern, pauwen oder erhalten, wiewol er die gleich den andern praucht. Ist vnser pitt zu erkennen, das derselbig vogt schuldig sey, dieselbige weg, steg helfen zu halten, pauwen vnd beßern, die gepott vnd verpott, so je zu zeiten daselbig geschehen, gleich andern ingeseßen halte vnd nit vberfare vnd so er die vberfahren wurd, das er die straf gleich andern darumb zu leiden vnd tragen schuldig vnd pflichtig seie.

30) Das wir mußen geben schatzung vnd etwann zwo, wißen nit warumb. Belangt das stetlin Stulingen sampt dem dorf.

Item so haben wir bißher mußen geben zwen vnd zweintzig guldin m=untz, funf scchilling heller vnd ettwann zwo schatzungen, wißen auch die vrsachen, warumb das geschicht, nit, noch auch was vns dagegen von vnser herrschaft geschehen solle. Derohalber pitten wir vns von sollicher schatzung zu erledigen vnd zu erkennen, das wir fürter keine mer zu geben schuldig, es werde dann dargethaun augenscheinlich notturft, vnd das durch ein gericht erkannt werd, das wir auß notturft solliche schatzung geben sollen.

31) Das die herrschaft den zol nimpt, aber wir weg, steg vnd prucken pauwen mußen.

Wiewol war, das gewonlich die zoll darumb werden geben, das dauon weg vnd steg gehalten werden sollen, so ist doch war, das vnser gnedige herren alle zol zu Stulingen nemen vnd vffheben, nitdestminder so mußen wir mit vnserm großen costen, darlegen, muge vnd arbeit weg, steg vnd prucken machen, in beßerung vnd pauw halten. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser gnediger herr, dieweil er die zel nimpt, schuldig sey, die prucken, weg vnd steg zu machen, in pauw vnd beßerung zu halten, oder aber das er vns sollichen zol empfangen, fordern, vffheben vnd einemen laß, dagegen die prucken, weg vnd steg zu machen, in pauw vnd beßerung zu halten.

32) Das so einer etwas vngeuerlichen findet, so muß er das der herrschaft geben.

So je zu zeiten einer etwas vngefert findet, das zu nutz zu prauchen mag sein, vnd das nit der herrschaft anzeigt, wurt er hertenklichen darumb gestraft. Bitten zu sprechen, das die herrschaft von sollichem furnemen stande.

33) Vom buntgelt zu geben vber andere schatzung.

Wiewol wir vnser herrschaften bißhier willig gewesen zu geben, was inen von alters zu geben gepurt hat, so seint wir doch vber sollichs zu vnleidlichen schatzung vnd buntgelt

gedrungen worden, vnd vnnot, dadurch vnser voreltern vnd wir zu vnvberwintlichem schaden pracht vnd komen seint, vnd sollich je vnbillichen zu geben ist, so pitten wir zu erkennen, das wir dieselbig schatzung vnd puntgelt furter zu geben nit pflichtig, noch schuldig seient, vns damit nit zu beschweren, wie bi\$her geschehen, seint wir vrpittig, wa vnser herrschaft, ire lant vnd leut werden vberzogen, beuecht oder bekriegt, zu errettung derselbiger schatzung, steuwr vnd hilf zu thun nach eins jeden zimlichen verm=ogen.

34) Das ein jeder solle in erster instantzen vor seinem richter furgenomen werden.

Wiewol wir aigen gericht vnd stab haben vnd halten, vnd ein jeder verm=oge der recht vnd des reichs ordnung in erster instantzen solle vor dem selbigen furgenomen werden, so werden wir doch oftmals fur vnd an das lantgericht citiert in erster instantzen, dahin wir mu\$en mit schwerem costen ziehen. Piten zu erkennen, das billichen by dem gemeinen rechten vnd des reichs ordnung gela\$en vnd in erster instantzen vone vnd au\$ vnserm gericht vnd stab nit citiert, gefordert oder furgenomen werden.

35) Vom vogtrecht sagende.

Wiewol wir bi\$here vnser herrschaften geben haben, was wir inen von alters here zu geben schuldig gewesen, so haben sie inen furgenomen ein neuwerung vnd schlagen vff vnser guter ein sum gelts, das wir jerlichen geben mu\$en, das genant wurt ein vogtrecht, des wir hochloch beschwert. Pitten sollich vogtrecht mit recht abzuerkennen vnd sprechen, das wir khein vorgrecht zu geben schuldig seint, sunder vns dauon mit recht zu erledigen.

36) Das wir gedrungen werden, ein richter vff vnser costen zu geben.

Wiewol billich ist, das ein jede oberkeit, die gericht vnd recht hat helt, ein richter vff seinen costen setzen solle, so hat doch die herrschaft bi\$her vns von Stulingen dahin ben=otiget, das wir haben mu\$en halten ein richter vff vnsern costen. Bitten zu erkennen, das wir furter ein richter zu setzen vnd halten vff vnsern costen nit schuldig seint, vns auch dauon entledigen, sunder das die herrschaft einen vff iren costen als die herrschaft zu setzen schuldig sey.

37) Das hendel, so nit malefitz beruren, fur peinlich hendel vnd vor dem peinlichen gericht angezogen werden.

Wiewol in gemeinen geschriben rechten aigentlich versehen vnd gesetzt seien die felle, welche malefitzhendel seint beruren vnd fur peinlich gericht h=oren, vnd f=ur peinlich gericht nit sollen gezogen werden hendel, die malefitz nit beruren, so ist doch war, das vnser herrschaft bi\$her zu vilmalen hendel fur das peinlich gericht gezogen vnd fur malefitzhendel angezogen, die nit malefitz, sunder burgerlich hendel seint. Pitten zu erkennen, das vnser herrschaft oder ire amptleut die burgerliche hendel, vnd so nit malefitzhendel seient, in erster instantz fur das burgerlich gericht vnd stab vnd nit fur die peinlich vnd malefitzisch gericht ziehen, noch auch burgerlich hendel fur malefitzisch hendel anziehen.

38) Das einer nit wein schencken darf on straf, er schenck dann das gantz jar.

Item so vnd wann einer ettwan ain saum oder zwen wein hat vnd den verschencken will vnd ettwa drey oder zehen wochen vnd nit ain gantz jar schenckt, so wurt er vmb dreuw pfunt

gestraft, vnd aber in eines armen vnd eines jeden vermugen nit ist, ein gantz jar wein zu schencken, so ist an e. g. vnser pitt zu erkennen, das wir nit schuldig seient, ein gantz jar wein zu schencken, auch das wir vnd ein yder seyner gelegenheyt nach, solang ime geliebt, vnd er vermog, on strof weyn schencken vnd zu schencken aufh=oren mege.

39) Das einer, so au\$ der herrschaft zeucht oder erbt, beschwerlichen abzug geben mu\$.

Item so vnd wann ainer au\$ der herrschaft ziehen, oder aber einer etwas in der herrschaft erbt vnd daru\$ furen will, so wurd derselbig des abzugs oder nachsteuer halb h=ochlich vnd mercklich beschwert, vnd vngleichheit gehalten, nachdem man etwan einem gunstig oder vngunstig ist. Bitten in dem au\$ richterlicher oberkeit ein einsehens zu haben vnd ma\$ zu geben, was einer von dem hundert guldin wert vnser herrschaft f=ur den abzuge geben solle vnd in dem nach gelegenheit der lantart sollichs gnediglich bedencken, damit wir nit werden also beschwert vnd wi\$en tragen m=ogen, was wir geben sollen, vnd das damit gleichheit gehalten werde.

40) Vom vorstmeister.

Item wiewol alle thier vnd gewilt von gemeinen rechten frey seint, einem jeden die zu fahen erlaubt, nitdestoweniger so werden wir mit setzung eines forstmeisters beschwert, so einer will f=ogel, fuchs, hasen oder klein wilt jagen, stecken machen oder rinden schneiden, so mu\$en wir sollichs schwerlichen von dem vorstmeister kaufen, ist er einem gunstig, so la\$st er es zu, ist er im vngunstig, so schlecht er es abe, oder der arm mu\$ es schwerlichen kaufen.

41) Das das wildpret frey sein solle.

Darzu wiewol wir vnser =acker vnd guter schwerlichen pauwen vnd daruon vnser herrschaften geben, ouch vns, vnser weib vnd kunder erneren mu\$en, vnd das wilt daruff vns mercklichen schaden zufugt, das doch von gott vnd dem rechten gemein vnd zu aufenthalt vnd notturft der menschen erschaffen, ein jeder das fangen mag, so wurt doch sollichs vns bey hoher straf verpotten, das wir sollichs weder fahen, jagen oder verscheychen sollen oder mgen, vnd so einer das pott vbertritt vnd ergriffen wurt, so sticht man ime die augen au\$ oder peinigt in sunst in ander wege nach der herrschaft oder der amptleute willen vnd wolgefallen. Ist vnser pitt zu erkennen, das nwmer wir verm=oge der g=ottlichen vnd rechtlichen gesetzen one straf alles gewilt, hohe vnd nider, m=ogen jagen, schie\$en vnd fahen vnd zu vnser notturft geprauchten, oder so das ye mit recht nit sollt oder mocht erkannt werden, als doch wir in ansehung gotlicher vnd geschribner recht nit verhoffen, al\$dan zu erkennen, das wir mit ma\$ vnd geding, wie die von Lentzkirch anzeigen, sollichs mogen fahen, vnd vns derma\$en frey sey, oder vff das allerwenigst das zu fahen vnd zu schie\$en haben (vnd ist das der von Lentzkurch geprauch gewesen, das sy der herrschaft von dem hohen wild die vier leuf, vom ber den rechten datzen, von der saww den kopf geben, vnd das sy das ander wild alles frey gefangen haben), so wir das vff vnsern =ackern vnd gutern finden, vnd das sollichs furter nit mer gepannt werd, sunder vns frey sey, das auch wir dem vorstmeister, vmb das er vns erlauben solle etc., nichts mer zu geben schuldig seient vnd

buchsen vnd armbroster, nachdem die vns verpotten seint, tragen m=ogen, auch nit schuldig seint, den hunden, wie bi\$her, bengel anzuhengen.

42) Von wilthag, die vff vnsern aygen gutern gemacht werden.

Item so werden zu zeiten vff vnsern aygen gutern, die wir schwerlichen verzinsen vnd pauwen mu\$en, wiltheg gemacht, die auch ettwan nymer gepraucht werden, vnd so wir vnserer guter wellen pauwen vnd seubern zu vnser nutzung vnd den hage von dannen thun oder offnen, so vnderstet man vns darumb zu strafen, darzu auch so will man alsdann nit gestatten, das der hage wider zugemacht werde, dadurch vns durch das wilt mercklicher schad zugefugt wurt. Pitten zu erkennen, das wir furter den hag zu vnser notturft m=ogen dannen thun, offnen vnd wider zumachen on straf, vnd das vns die herrschaft daran kein verhinderung thue.

43) Vom lantzygling.

Item so vnd wann ain lantzygling, das ist einer, der in das land zeucht vnd de\$ herren nit ist, so w=ollen die herrschaft, das desselbigen kundern, die sunst frey seint, sein leibeigen sein sollen vnd mu\$en geloben vnd schweren, one seiner gnaden wi\$en vnd willen nit au\$ der lantschaft zu ziehen. Pitten zu erkennen, das furter die herrschaft dieselbige kunder damit vnbeschwert, svnder frey, ledig, lo\$ vnd nit zu aygen mach, noch sie zu dem ayd n=otige oder dringe.

44) Von der badstuben, die ein gemein vff iren costen gepauwet, die herrschaft die genomen vnd hingeben hat.

Item so hat ein gemeind zu Stulingen vff ire aigen costen vnd arbeit ain badstuben gepauwet vnd gemachet, dieselbige vmb ein j=arlichen zin\$ verliehen, hat vnser herrschaft in kurtzen tagen vns der badstuben one recht entsetzt, dieselbige abgedrungen vnd on alle bezalung vnd widderlegung genomen vnd einem bader geschenckt, wie sich dann der bader offentlich berumpt, er habe dess brief vnd sigel. Dieweil dann niemant one recht entsetzt, noch auch das sein genomen oder hingeben werden solle, so ist an e. g. vnser pitt mit recht zu erkennen, das vnser gnediger her vn\$ solliche badstuben widder zu handen stellen vnd restituieren vnd zu der gemein handen widder komen zu la\$en schuldig sey, vnd dem bader, dem die verschenckt ist, gepieten, dauon zu tretten, der gemein kein eintrag mer darin zu thun. So dann wir eingesetzt seien, die badstuben zu vnser handen gestellt, vnd ir gnaden spruch vnd forderung desshalben zu vns zu haben vermeint, seient wir vrbuttig, iren gnaden darumb des rechten an orten vnd enden sich gepurende gewertig zu sein.

45) Von Lentz Wachtern, der au\$ der wisen ein gartenrecht gemacht hat.

Item so hat vnser gnediger herr selliger Lentz Wachtern vergunt, in der statt graben au\$ einer wisen ein gartenrecht zu machen, da dann vor nie kein gartenrecht gewesen, vnd bannet die wisen, will es kein wisenrecht, wie andere wisen seint, sein la\$en. Bitten zu erkennen, das vnser gnediger herr mit gedachtem Lentz schuldig sey zu verschaffen, das er solliche wisen ein wisenrecht sein la\$, wie dann andere wisen seint, vnd die nit verpanne als gartenrecht.

46) Von Lentz Wachter, der den stattgraben innhat.

Es hat auch gedachter Lentz ime geaygnet den stattgraben, da alle zeit ein gemeine burgerschaft alle nutzung darau\$ fließende hat mogen haben. Ist vnser pitt zu erkennen, das gedachter vnser gnediger herr mit gedachtem Lentz zu verschaffen schuldig seie, das er der gemeind, wie bi\$her vff sie komen ist, an der nutzung, so sie darau\$ haben m=ogen, nichts entziehe, noch entfremden, sunder die zu geprauchen, nutzen vnd nießen laße.

47) Von Lentz Wachter, der frey sitzen will.

Wiewol auch gedachter Lentz zu Stulingen eigen hau\$ vnd hof hat, er auch praucht vnd nutzt holtz, velt, wun, wayt vnd alle gemeine werck vnd almand, als ein jeder ander burger, derhalben ye billichen steuren, wachen vnd fron zu thun schuldig gewesen, so ist er doch zu großem nachteil anderer burger, die desto h=ohrer werden dadurch beschwert vnd angelegt, durch die herrschaft gefreiet, welliche er auch vermeint einem andern zu verkaufen, zuzustellen vnd zu vbergeben mit andern seinen gutern. Ist vnser pitt, dieweil er, wie oben geh=ort, wie andere burger die wun, wayt etc. nutzt vnd prauchet, das er schuldig sey, alle beschwerden mit hutten, wachen etc., wie die genannt m=ogen werden, wie andere burger vnd inwoner thun, zu tragen vnd leiden, auch furter kainer, der solliche seiner guter kaufen oder inhaben wurd, der frey sein solle, das auch ime sollichs von der herrschaft nit gestattet werden solle, sunder die herrschaft ime solche freyheit abzukunden schuldig sey.

48) Von Braun Hanns, der den Schelmenacker, so vormals almund gewesen, innhat.

So hat vnser gnediger herr selliger Braun Hanns ain gut als fur ein eigen gut vnd frey, ledig geben, das von alter her geheißten hat der Schelmenacker vnd ye vnd allwegen ein almunt gewesen ist, die gemein das genutzt vnd genoßen. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser gnedige herrschaft sellich gut als ein almunt wider zu der gemein handen komen laße, dieselbige, wie von alter her gewesen, zu nutzen vnd zu prauchen, vnd furter inen nit mer entwende, noch jemants fur eigen oder in andere weg hingebe.

49) Vom landschreiber, forstmeister vnd keller, die nit beschwerden tragen wollen.

So nutzen vnd nießen auch der landschreiber, vorstmeister vnd keller zu Stulingen holtz, velt, wun vnd wait gleich andere burger, die aber gleich Lentz Wachtern frey seien von der herrschaft gelaßen sich berumen. Bitten wir gleich zu erkennen, wie de\$halber bey Lentz Wachter im obern artickel gepetten ist, vnd alle gemeine werck helfen zu vollstrecken, stege, wege zu beßern vnd in eren zu halten gleich annern burgern.

50) Das vns verpotten wurt zu kaufen vnd verkaufen saltz etc. wider alt herkomen.

Item so ist Stulingen gefreiet, vnd lang also gehalten worden vnd herkomen, das ein jeder burger daselbs hat m=ogen kaufen vnd verkaufen, was er hat gewollt, aber in kurtz verschinen jaren ist ein vffsetzung vnd gepott geschehen, das niemant hat saltz verkaufen, noch fayl haben durfen, dann allein der landschreiber. Bitten zu erkennen, das sollich gepott vnd furnemen als ein neuwerung billich vff vnd abgethaun werd, vnd das wir billichen bey dem alten herkomen vnd geprauch gelaßen werden sollen vnd furter nit allein saltz, sunder

auch alles anders m=ogen kaufen, verkaufen vnd fayl haben.

51) Wuttental sampt irer zugehorde, in der vndern grafschafft Stulingen gelegen.

Es beschweren vnser herrschafft die selbige dorfer, das sy mußen alle zeit in das schloß ein wachter geben, wie wol sy sich zn zeit des vnfridens nit widern, vnd geschicht das darumb, als wir glauben, das die herrschafft nit wißen wachter zu bekommen, vnd das sy inen nit gern lonen, daz dann ein neuwerung ist. Pitten zu erkennen, das furter dieselbige dorfer anders nit schuldig seint, ein wachter in das schloß zu geben, dann so etwan aufrur im lant seint, vnd zu zeiten des vnfridens, so vnd wan vnser herrschaffen vberzogen werden.

52) Das vns verpotten wurt, gens vnd enten anderst, dann in das schloß nit zu verkaufen.

Item sy durfen auch nit enten vnd gens verkaufen oder kaufen one der herrschafft oder der amptleute wißen oder willen by einem pfunt heller, sunder mußen die in das schloß tragen vnd inen zu kaufen geben vnd also gedrungen, die enten vnd gens nach der amptleute willen zu geben. Ist vnser pitt zu erkennen, das die selbige dorfer vnbezwungen vnd frey, wa vnd wenn sy wollen, enten vnd gens verkaufen, vnd jeder die kaufen m=oge.

53) Von frondienst, den kalkofen belangen.

Es werden die obangezeigten dorfer gezwungen, holtz in kalckofen zu firen, helfen brennen vnd allen zeuge zu firen, so die herrschafft pauwet, vnd mußen also ire guter vngepauwet laßen, oder werden zum wenigsten zu vnbequemer zeit gebauwet. Pitten mit recht zu erkennen, das sie damit nit sollen beschwert, sunder diser frondienst erlediget werden vnd die zu thun nit schuldig sein.

54) Das wir mußen den dritten pfennig geben von holtz, das wir aus vnsern aygen welden verkaufen.

Wiewol ein gemeint sollicher dorfer eygen gehultz hat vnd pillichen des holtz vnbeschwert verkaufen solten, so werden sy doch dahin gedrungen, so vnd wann sy holtz verkaufen, so mußen sy der herrschafft den dritten pfening von erl=ostem gelt geben. Ist vnser pitt zu erkennen, das sye der herrschafft dauon nichtz zu geben schuldig oder pflichtig seint, sunder sy dauon zu erledigen.

55) Das wir den dritten pfening von der einigung geben mußen.

Dergleichen mußen sy der herrschafft den dritten pfening von der einigung geben. Pitten wir zu erkennen, wie by dem nechsten gepetten ist.

56) Von wisenhabern.

Es ist auch vor zeiten vffgewachsen, das man in dorfern geben hat ain anteils habern, das man geheßen hat den wi\$haber, vmb das die herrschafft hat vergunztiget, auß einem graben der armen leut wisen mit dem selbigen waßer zu weßern. Es ist aber von dem wisenweßern komen, vnd hat also die vrsach, darumb man den wi\$habern geben hat, vffgeh=ort, darumb man pillich den wisenhabern nit mer geben solt, nitdestminder so wurt der wi\$haber genomen. Ist vnser pitt, dieweil die wisen nit mer werden durch sollich waßer geweißert, das die vnderthonen den wi\$habern nit mer schuldig seint zu geben, sunder sy dauon absoluieren

vnd erledigen.

57) Eschingen, vnter der grafenschaft gelegen, das vngelt betreffen.

Wiewol von alter her das vngelt zu Eschingen einer gemeinden zugestanden, sie auch das one eintrag der herrschaft empfangen vnd eingenomen, dauon brucken, weg vnd steg gepauwet, gepeßert vnd in eren gehalten, so hat doch die herrschaft vngeuerlichen by zweintzig jaren sich des vnderzogen vnd zu iren handen genomen, aber nitdestweniger haben wir die brucken, weg vnd steg mußen pauwen, beßern vnd in eren halten, darzu auch wir mit gepotten je zu zeiten gedrungeñ seint worden. Ist vnser pitt in recht zu erkennen, das vnser herrschaft vn\$ schuldig sey, sollich vngelt wider zu handen komen zu laßen vnd furter sich des nit vnderziehen entpfangen, noch einnemen, vnd das sie vns, vmb das sie sollich so lang entpfangen vnd eingenomen haben, ein erstattung nach euwer gnaden erkanntnus thun.

58) Von gepott, das die herrschaft gepeut bey drey pfund heller vber alt herkomen.

Wiewol auch ye vnd allewegen der alt geprauch gewesen, so einer dem andern etwas schuldig gewesen oder anderst zu thun, dieselbige bey sechs schillingen zu bezalen, vnd das alle drey gepott vnd jeder by sechs schillingen gepotten worden ist, so aber jemannt vnser herrschaft schuldig, so wurt bey dreuw pfunden gebotten, ehe vnd zuvor der, dem gepotten ist, vngehorsam erscheint. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir billich by dem alten geprauch vnd herkomen gelaßen werden sollen, vnd das gebott nit h=ohrer geschehen solle, denn bey sechs schilling, wir auch, so es h=ohrer geschicht, dem zugeleben nit schuldig gehorsam zu thun seint.

59) Die leibaigenschaft belangen.

Wiewol von recht ain jeder anfangklich frey geporn, vnd vn das wir oder vnser vorfaren ye verschuldt hetten, das wir zu der leibaigenschaft genomen werden sollten, yedoch wellent vnser herrschaft vn\$ f=ur eigen leut haben, halten vnd vermeinen, das wir inen alles thun sollen, was sy vns heißen, als weren wir geporn knecht, vnd es mit der zeit dahin mocht komen, das sy vns auch verkaufen wurden. Ist vnser pitt zu erkennen, das sie schuldig seient, vn\$ der leibaigenschaft zu erlaßen vnd kein mer zu derselbigen dringen wollen, wir sunst als getreuw vndertham außerhalb diser beschwerden vnser herrschaft thun, was wir von alters here schuldig gewesen.

60) Von erbschaft der ledigen geporen, die vnser herschaften erben wollen, vnangesehen das sy ledige kinder haben.

Item so vnderstanden vnser herrschaft, so vnd wann zway ledige person sich mit ainander fleischlichen vermischen vnd kunder mit ainander erobern, die im rechten naturliche kinder genant werden, vnd die eltern sterben, dieselbige eltern widder gemeine vnd gottliche recht zu erden, vnd schließē au\$ die ledige geporne kinder vnd freunt, vnd mußen nitdestominder die freunt die kinder erziehen. Ist vnser pit zu erkennen, das vnser herrschaft sich furter sollicher erbschaft zu entslagen schuldig sey vnd die erbschaft dahin komen vnd fallen laße, wie es gemeine vnd gotliche recht verordnen, damit die arme, junge, vnschuldige kindlin, die

kein schult tragen, erlich m=ogen erzogen vnd ernert werden, damit sie nit zum bettel gericht oder sunst zu schanden verursacht werden.

61) Von fischwaßern.

Wiewol von gottlichen vnd gemeinen geschribenen rechten alle fließende waßer mit fischen vnd ander derselben nutzung gemein vnd frey seint, so haben doch vnsere herrschaft sollich einzogen gleich dem wilt. Ist vnser pit zu erkennen, das solliche waßer furter mit vischen vnd ander nutzungen widder frey gelaßen vnd one einzogen oder verpant pleiben, vnd wir ongeirrt der herrschaft die vischen mogen.

62) Vom wildhag, durch die zelg gemacht.

Es ist im bann zu Muchen durch die zelg an einer straßen ein wilthag gemacht, da dan dieselbige inwoner ecker vnd andere guter haben, diese wol, wie andere guter m=ochten pawen vnd nutz dauon haben, so ist aber inen verpotten bey zehen pfunt, das sie bey zweinzig schuh weit zum wilthag ire =acker nit durfen pawen oder seen, wiewol die =acker, so ir seint, an den hag gangen. Ist vnser pit, e. g. wollent erkennen, das durch vnsere herrschaft sollich gepot vnbillich geschicht, vff- vnd abgethon werden solle, das auch wir vnuerhindert solliches gepots vnsere guter, sofeer sie gangen, eckeren, pawen vnd seen mogen, wie andere vnsere guter.

Peticio.

Wir wollent vns vorbehalten haben, dise vnsere beschwerd, clagen zu meren, mindern vnd endern vnd sunst alle vnsere notturft furzupringen, vnd zu sollichem allem pitten wir vff alle vnd yede artickel insonderheit zu erkennen vnd sprechen, wie bey einem yeden mit recht zu erkennen vnd begert ist. Ob aber ein oder mer begeren oder petition, den articulierten beschwerden angehenckt, dem gar strengen rechten nach nit m=ocht statt haben, noch auch darnach geurteilt werden sollt, als wir doch nit hoffen, so pitten wir nichtdestominder, das e. g. wollent bedencken vnd erwegen die gottliche, naturliche pillickeit, vernunft vnd verstant, vnd was die selbige vermogen, außweisen vnd zugeben, erkenn[en] vnd sprechen, damit wir von obangezeigten vnleidlichen beschwerden erledigt werden vnd vnder vnser herrschaften, auch bey weib, kinder, hab vnd gutern mogen pleiben vnd thun, was erbarn vnd fromen leuten der pillickeit vnd vnserm vermogen nach woll gepurt, alles vnd jedes in der pesten form, e. g. hochadelich ampt vnderthenigklichen anrufende.

58. Brigtal, 1524.12.18, AGD 82

Artikel, welche von den Brighthaler Bauern in der M=uhle zu Klengen berathen und angenommen wurden.

1. Ihren Herrschaften sollen sie weder hegen, noch jagen d=urfen; alles Gewild, Waßer und V=ogel sollen frei sein.

2. Sollen nicht verbunden sein, ihren Hunden Bengel anzulegen.
3. Soll ihnen frei stehen Armbr=uste, B=uchsen und Flinten zu tragen.
4. Von F=orstern und J=agern sollen sie nicht gestraft werden k=onnen.
5. Nicht verbunden sein, ihren Herrn D=unger zu f=uhren.
6. Weder ihnen zu m=ahen, zu heuen, zu schneiden, Holz und Garben einzuf=uhren.
7. Sollen sie der M=arkte und der Handwerker halber zu Nichts verbunden sein.
8. Soll keiner geth=urmt oder gebl=ocket werden k=onnen, der das Recht verb=urgen kann.
9. Sollen sie weder Steuer, noch Schatzung und Ungeld zu zahlen schuldig sein, es w=are dann zu Recht erkannt.
10. Sollen sie nicht schuldig sein, Bau-Korn herzugeben, Acker zu fahren oder gehen.
11. Niemand soll des Ungehorsams wegen bestraft werden, wenn er ohne Erlaubniss weibet oder mannet.
12. Wenn sich einer selbst h=angt oder entleibet, soll der Herr sein Gut nicht nehmen.
13. Der Herr soll keinen erben, der noch Verwandte hat.
14. Sollen sie nicht verbunden sein, Abzug oder Vogtrecht zu bezahlen.
15. Wer Wein in seinem Haus hat, soll selben ungestraft ausschenken d=urfen.
16. Wenn der Vogt einen wegen eines Frevels belanget, aber nicht mit guter Kundschaft =uberwindet, soll er selben zu zahlen nicht verbunden sein.

59. Lenzkirch, Vor 1525.4.6, AGD 200

[*以下の 60、61、62、63、64 とともに、1525.4.6 に Reichskammergericht に提出された文書による。]

1) Vom Satfelt, das vns entzogen ist. Wiewol wir ime Satfelt genant eygen weld vnd guter haben, einer gemeind vnd sonst niemant andern zustendig, so hat doch vnser gnediger herr, graf Wolf, junckher J=orgen von Rechenbach oun vnser wißen vnd willen ein velt hingeben, vns das entzogen vnd abhendig gemacht zu vnserm mercklichen nachteil vnd wider das vns zugesagt im kaufen pleiben zu laßen, wie oben erzelt. Ist an e. g. vnser pitt zu erkennen, das graf Wolf sollich velt also hinzugeben nit gezimpt hat, sunder das vnser herrschaft vns sollich velt zu handen zu stellen schuldig vnd pflichtig sey, furter auch nichts, so der gemeind zusteet, hingebe.

2) Von der steuer. Wiewol wir, als wir von Plumneck gewesen vnd an vnser herrschaft kauft, vnd vn\$, wie oblaute, zugesagt worden ist, zu steuwr nit mer, dann dreißig pfunt heller Schaffhuser werung geben, so werden wir doch von tag zu tag h=oher vnd vnleidenlichen beschwert. Wiewol nun wir von rechts wegen, wie andere vnser mitkriegsverwanten, der steur wol ledig sein sollten, yedoch so pitten wir zu erkennen, das vnser herrschaft irem

zusagen, vnd wie wir in kaufs an ir gnaden komen, bey sollichen dreißig pfund leichter muntz vnd onerstaygt pleiben zu laßen schuldig sey, wir auch iren gnaden zu steuwr nit mer, dann die dreißig pfunt heller leichts gelts zu entrichten vnd zn bezalen schuldig seint.

3) Schlu\$, gen Lentzk=urch gehorig. So seient wir zu Schlu\$ von alter her frey gewesen, also das wir nie kein eigen vogt bey vns gehapt von der herrschaft Furstenberg, sunder was in vnserm thal vnser oberkeit von Furstenberg zugeh=ort hat, das hat der vogt von Sant Blasy dem vogt zu Lentzk=urch angezeigt. Nitdestweniger so haben vnser herrschaft vngeuerlichen in zweintzig jaren wider sollich alt herkomen ain eygen vogt geen Schlu\$ vnd frey gesetzt, das dann vns nachteilig. Pitten zu erkennen, das vnser herrschaft vns by vnserm alten herkomen, vnd wie wir an die herrschaft erkaufft vnd vns zugesagt, pleiben zu laßen vnd den vogt hinweg zu thun schuldig sey vnd vns desshalber vnbeschwert laße.

4) Lentzk=urch, vom abzug. Wiewol wir mit maßen, als ob angezeigt, an die herrschaft erkaufft seint, vnd von alters her also geprauht worden, so vnd wann einer auß der herrschaft hat wellen ziehen vnd jederman vnclagbar gemacht, sein eyd vffgesagt, sein wagen geladen, so hat der selbig seines abziehens halber frey ledig vnd on alle entgeltnus wol m=ogen hinziehen, send wir durch vnser herrschaft entsetzt vnd werden hertenklichen mit dem abzug beschwert nach der herrschaft oder der amptleut willen. Ist an euwer gnaden vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaften schuldig seient, vn\$ by solchem altem herkomen, vnd wie sie vns erkaufft, vnd wir an sie kommen seint, pleiben zu laßen, wir auch den abzug zu geben nit gedrunge, noch ben=otigt werden sollen.

So werden wir vberlegt mit mancherlay vngewonlichen potten, davor sich ain man nit wol weißt zu hutten. Pitten sollich gepott abzustellen vnd es bey alten gepotten pleiben zu laßen.

5) Vom freuel. So haben wir je zu zeiten, so wir den freuel bezalt haben, geben Schaffhuser muntz, so haben doch vnser herren sollichs vff Rappennuntz gestellt vnd erstaigt. Pitten vn\$ bey der Schaffhuser muntz pleiben zu laßen.

60. L=offingen, Vor 1525.4.6, AGD 200

[* 59.の註を参照。]

1) Zum ersten so seint viel guter in Laufinger ampt, die von alters here zehentfrey seint gewesen, seint die armen leut in kurtzen jaren gezwungen, das sie nun hinfurter von sollichen freien gutern zehenden geben mußen. Ist vnser pitt, euwer gnaden wellent erkennen, das wir von den gutern, so vormals zehentfrey gewesen seint, wie von alters here vff vns komen ist, wir kein zehenden mer zu geben schuldig seient, sunder das vnser herrschaft dieselbige vns wider frey vnd ledig vnbeschwert des zehenden halber laße.

2) So der hagel schaden thut, wurt vns nichts nachgelaßen. Wiewol zum oftermals sich

begipt, das der hagel oder wint mercklichen, großen schaden an fruchten thut, vnd ein misswachsung kompt, so wollen vnser herrschaft vnangesehen desselbigen vn\$ die zin\$ nit nachlaßen, leychtern, noch an laßen steen bi\$ zu guten jaren, mußen wir mit vnserm verderben inen die zin\$ geben vnd wißen al\$dam nit mer mangel halber der frucht zu seggen. Ist vnser pitt zu erkennen, so vnd wann sich dergleichen felle begeben, das wir vnsern herren dise zin\$ zu entrichten nit schuldig seint, vnd im dem der billicheit nach ein gnedige fursehung zu thun, damit wir armen pleiben m=ogen.

3) Vom weyher, der vns schaden thun mag, des sich die von Leffingen, das stettlin, auch beclagen. Es haben auch vnser herrschaft ein weyher von vnsern aygen gutern gemacht, darau\$ vns an vnsern gutern vnd heusern mercklichen schaden geschehen mag, so ettwan das waßer groß wurt, als auch vor zeiten ettlich viech erdruncken ist. Pitten vnser herrschaft rechtlich dahin verm=ogen, das sie sollichen weyher dermaßen versehen, damit vn\$ an vnsern heusern, gutern, viech vnd an vnsern leiben kein schad geschehe.

4) Alle d=orfer in Leffinger ampt von fruchtzin\$, die wir ytzt vor dem kasten vber alt gewonheit liffen mußen. Wiewol wir in possess gewesen, vnd von alters here vff vns also komen vnd gepraucht worden, das wir die fruchtzin\$, so wir jerlichen vnser herrschaften geben, dem vnderamptmann in einem jeden flecken geraycht, er auch die von ainem jeden flecken also genomen vnd empfangen hat, so seind wir doch in kurtzen jaren dahin gedruncken worden, das wir die selbige frucht haben mußen furen gen Leffingen vnd daselbig vor dem casten liffen. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir sollichs zu thun nit schuldig seint, sunder das wir bey dem alten herkomen pleiben sollen, vnd ein vnderamptmann ine einem jeden flecken die fruchtzin\$e von vns zu nemen vnd zu entpfahen schuldig sey, vnd weiter nit gedruncken werden sollen.

5) Von vngelt, außerhalb Lentzkirch vnd Ferenbach. Wiewol wir vnserm gnedigen herren, graf Conrat von Furstenberg seligem, vff ir gnedigs begeren, nit au\$ schulden vier jar lang von einem jeden saum weins zu geben bewilligt funf plaphart, ir gnaden vns auch zugesagt, die nit lenger zu nemen, sollichs doch vnangesehen so haben wir bi\$her sollich funf plaphart vngelt mußen geben. Dieweil aber sollichs au\$ bitt vnd nit au\$ schulden geschehen, noch lenger bewilligt ist, so pitten wir zu erkennen, das wir furter sollich vngelt zu geben nit schuldig seient, vnser herrschaft sollichs an vn\$ nit mer zu fordern haben, wir auch des gantz frey steen sollen, das auch vnser herrschaft das, so sie also von vn\$ vnd vnsern vorfaren vber die vier jar empfangen, wider heraußen zu geben oder sunst zu erstatten nach euwer gnaden erkanntnus schuldig seient.

6) Leffingen vnd die dorfer, darunter gehoren. Es ist von alters her von vnser herrschaft von Furstenberg, vnd al\$ das stettlin L=offingen in ainem guten, vermuglichen, zimlichen wesen gestanden, wol erpauwet vnd mit vilen vnderthan besetzt gewesen, vfferlegt worden, alle jar zu geben vierzig oder zwayvndvierzig pfunt Rappengelts, das wir auch bi\$her geben haben. Es ist aber sollich stettlin mit der zeit in großen abfalle komen, das es nit wol vber

viervnddreißig gepauwter heuser hat vnd vns schwerlich ist, nun weiter sollich sum gelts zu geben. Dieweil dann wir in abfall vnd geringering komen seint, so pitten wir mit recht zu erkennen, das vns pillichen vnser herrschaft nach des vnderthon armtumb vnd e. g. erkanntnus ein leichterung, geringering vnd milterung zu thun schuldig seint.

7) Von frondienst, so die von L=offingen vor andern thun mußen. So werden wir vber das, so durch die Lupfischen vnd Stulingischen der frondienst halber angezeigt ist, mit frondiensten beschwert, nemlichen wir mußen haberprot gen Lentzkirch furen, item mancherlay brief bey tag vnd nacht hin vnd wider vff vnser zerung tragen. Item die armen leut in L=offinger dorfer holtz vnd scheyter gen L=offingen zufuren. Item mußen den hunden vnd j=agern kochen. Item zimmer vnd bauwholtz den von Gysingen, Furstenberg vnd andern vff vnsern kosten furen. Wir werden auch beschwert mit jagen, hagen, garn, sayl vnd hunt furen vnd das wiltpret by tag vnd nacht an manch ort hin vnd wider zu furen, im habrat zu acker zu geen, brachen, segen, falgen vnd anders zu fronen, wie in der von Lupfen vnd Stulingen artickel by den frondiensten angezeigt ist. Pitten von vnstat wegen zu erkennen, wie sie gepetten haben.

8) Von der stewr, die zwaymal im jare genomen wurt, die nit mer, dann ain mal zu geben, belangen die dorflin im L=offinger ampt. Wiewol von alters here die dorfer in L=offinger ampt nit mer, dann jars ein steuer haben geben, wie das auch der landsprauch gewesen, so hat man doch ein neuwerung angefangen, vnd mußen nwmer zway mal die steur im jar geben. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir furter nit mer schuldig seient nach gemeinem lantsprauch vnd altem herkomen, dann ain zymbliche steuwr einmal im jar zu geben, als nemlich vff Martini.

9) Vom walt Kregenbach genannt. So ist vor zeiten vnd in menschen gedencken der wald, genannt Kregenbach, in L=offinger ampt gelegen, frey gewesen, also das wir inen haben mit wun vnd wayd m=ogen prauchen. Den haben vnserere herren verpannet, also so vnd wann ainem armen ain viech darin entlaufft, so wurt er darumb hertigklich gestraft. Ist vnser pitt zu erkennen, das sollicher walt furter nit gepannt, sunder wie von alters here mit wun vnd wayd frey sein, wir auch nit gestraft werden sollen, wie bißher geschehen, vnd den nutzen vnd prauchen m=ogen.

61. R=otenbach, Vor 1525.4.6, AGD 200

[* 59.の註を参照。]

Es seint vnser forfaren vnd wir, vnd in menschen gedencken, durch vnserere herrschaft vnd amptleut gedrungen vnd bezwungen worden, allezeit die brief, so ettwan von vnser herrschaft dahin komen, an ende vnd ort, dahin sy geh=ort haben, zu dragen, vnd wiewol wir das zu

thun nit schuldig, dann es vns vast beschwerlich vnd an vnserer arbeyt versaumlich gewesen, so haben wir doch als arme leut gethaun, hat der vogt dasselbig vns beredt, das wir ime ain anzal habern geben solten, so wolt er die brief an ort vnd ende, da sy hin geh=orend, verschaffen vnd pfert daruff halten, damit wir bey vnser arbeit pleiben mochten. Als nun derselbig vogt ist gestorben, hat vnser herrschaft sellichs fur ein gerechtigkeit inen geschepft vnd vns dahin pracht, das wir nun furter sellichen habern mu\$en gen Leffingen dem vndervogt geben, damit ir gnaden ime desterweniger zu dienst gelben mu\$en. Bitten solliche abzustellen vnd zu erkennen, das wir vnser herrschaft sollichen habern zu geben vnd dienst zu thun nit schuldig, noch pflichtig seient, sunder vns dauon zu erledigen.

62. Riedb=ohringen, Vor 1525.4.5, AGD 200

[* 59.の註を参照。]

Die sonderliche beschwerung, so Rietberingen, auch den von Furstenberg zustendig, vber obangezeigte gemeine beschwerung tragen mu\$.

1) Vom vngelt. Wiewol wir von alters here des vngelts gefreyet gewesen vnd keins geben haben, so seint wir doch in kurtzuerschinen jaren damit beschwert, vnd das von vnser herrschaft vgggesetzt worden. Bitten zu erkennen, das vnser herrschaft sollich vngelt, als widder alt herkomen vffgesetzt, widder abstell, wir auch das zu geben nit schuldig seint, sunder vns dauon ledig zu erkennen.

2) Das wir by dem eyt gen Gisingen gemant werden. So vnd wann wir vnser herrschaft ettwan zin\$ verfallen vnd die nit gleich vnd al\$ bald bezalen, ob auch einer die also zu bezalen nit hat, so werden wir nit by einer geltpenen, sunder bey dem eit gen Gi\$ingen gemanet, dauon nit zu komen, bi\$ die verfallen zun\$ bezahlt seint. Dieweil aber sollichs vns vast beschwerlich vnd captio\$, so pitten wir zu erkennen, das vnser herrschaft vn\$ furter nit mer by dem eid gepiete, vnd in dem ein gnedigs einsehens zu haben, damit wir armen, so wir ettwann die zin\$ so bald nit wi\$en zu geben, nit also beschwert werden.

3) Frondienst. Vber die frondienst, so vormals durch vnser mitkrieguerwanten vnd vn\$ der frondienst halber angezeigt, mu\$en wir den zehenden von Blumenberg geen Furstenberg oder Wartenberg vff vnsern costen, auch holtz, stain, sand, kalck vnd ziegel auch gen Furstenberg furen vber alt herkomen. Pitten zu erkennen, wie oben gemeinlich der frondienst halber gepetten ist.

4) Vom hofpauwen zu Heynigen. Item es hat vnser gnediger herr by vns in vnserm dorf ainen hof, den wir bi\$hier, wiewol vnpillichen, in fron gebauwt haben, sellichen hof vnser herrschaft jetzt verlihen hat, den derselbig pauwet, nitdestmonder so werden wir gedrungen, dagegen ain andern hofe in ainem andern dorf, Heynigen genannt, zu pauwen vff vnsern

costen. Bitten zu erkennen, das wir sellichen houē zu Heynigen zu pauwen nit schuldig seint, sunder des pauws gantz vnd gar ledig vnd frey steen sollen, vn\$ auch von sollichem vermeinten frondienst zu absoluieren vnd ledig zu erkennen.

63. D=oggingen, Vor 1525.4.6, AGD 200

[* 59.の註を参照。]

1) Vom fleischrecht, das billicher das wolfrecht genent wurt. Vber die gemeine obangezeigt beschwerden zaigen wir von Deckingen sonderlichen beschwerden an, das vor zeiten vnser herrschaft wider alle recht vnd billikeit, so vnd wann sie ettwann kein fleisch in den heusern gehapt, oder sunst inen gefellig gewesen, so seint sy einem armen man, der viech gehapt hat, nach irem gefallen in das viech gefallen vnd darau\$ die peste viech zu irem geprauch genomen, vnangesehen obgleich etwann entlehnet viech darunder gewesen vnd nit eygen gewesen ist, vnd haben wir dasselbig mu\$en bezalen. Hat vnser herrschaft in kurtzen jaren, dieweil wir vns des beschwert haben, vffgesetzt, das wir dafur geben sollen acht pfund heller. Ist vnser pitt zu erkennen, das [wir] solliche fleischrecht, auch die acht pfund heller darfur zu geben nit schuldig, noch pflichtig, auch dauon zu absoluieren seint, vnd vn\$ auch absoluieren, das auch vnser herrschaft vns armen vmb das gemein viech ein gepurliche erstattung nach euwer gnaden erkanntnus zu thun schuldig seint.

2) Vngelt. So werden wir auch vber alt herkommen mit dem vngelt beschwert, das von vns genomen wurt. Bitten vns mit recht auch dauon zu erledigen vnd erkennen, das wir das zu geben nit schuldig.

3) Von ackergeen. Wiewol wir, wie andere vnser mitkriegsverwanten, der frondienste vnd ackergeen frey sein sollen, als wir oben ingemein gebetten haben, so werden wir gedrunge, das wir von einem yeden zug zwey malter korn vor dem ackergang haben geben] mu\$en. Pitten zu erkennen, wie bey dem nechsten artickel gepetten ist.

4) Vogtrecht. Wiewol wir vnsern gnedigen herren die vogt- vnd fleischsteuer, doch vnphillichen, wie oben gesetzt, geben vnd sunst vnser guter verzinsen, so wurt dorch vff vnser guter ein vogtsteuer geschlagen vnd werden auch mit der gro\$en steuer beladen. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir die zu geben furter nit schuldig seint, vn\$ auch mit recht dauon ledigen vnd absoluieren.

5) Das wir bey dem eit gein Gisingen gemant werden. So werden wir auch beschwert inhalt des andern artickels, mit einem bezeichnet, wie die von Ryetberingen.

6) Von der steuer, so zway mal geben wurt. Wiewol by vns nit vber 15 h=ofe seint, so mu\$en wir zu zway malen jerlich 60 pfund heller zu steuer geben, dadurch wir mit der zeit von vnsern gutern gedrunge m=ogen werden. Ist vnser pitt, euwer gnaden wellen ein

gnedigs einsehens haben, damit wir leidlich der steuwr halber angeschlagen werden vnd vff das halb, wiewol vns sollichs auch beschwerlichen, vnd wir zu geben nit schuldig, jedoch wollent wir vn\$ des bewilligt haben.

7) Von faßennachthuner. Wiewol wir nit schuldig seint, fasennachthuner zu geben, vnd von alters her nit mer, dann ain faßenachhun von vn\$ genomen, so ist doch sollichs, wie die steuer, erstaygt worden vff zway fasennachthuner. Pitten zu erkennen, wie der zweifachen steuer halber respectiue gebetten ist.

64. Unadingen, Vor 1525.4.6, AGD 200

[* 59.の註を参照。]

Die sonderliche beschwerden des dorfs Vnadingen.

1) Vom fall, das wir vber andere vnserer mitkriegsuerwanten beschwert, nemlich so ein mannsperson styrbt, der eigen gut hat, so nimpt die herrschaft das best viech, es sey ross, ochs oder kuw, vnd der vogt das allerbest clayt mit hoßen, wammes, degen oder meßer, wie der verstorben am heiligen Weyhenn=achttag zu kurch ist gangen; stirpt aber ein frouwenperson, so nimpt die herrsschat ain berayte betstatt mitsampt rock, mantel, sturtz, stuchen vnd hembd vnd g=urtel, vnd wie sie an ainem vierhochzeitlichem tage zu kirchen gangen ist. Pitten zu erkennen, das furter vnser herrschaft sollichs alles vnd jedes abzustellen schuldig seint, wir auch zu diser zeit, so es zu fellen k=ome, sollichs nit mer zu geben schuldig, sunder das euwer gnaden vns wollen also von sollicher vnbillicher beschwerden erledigen vnd ledig sprechen.

2) Vngelt. Wiewol wir von alters here vngelts frey gewesen, so haben doch in kurtzuerschinen jaren vnser herrschaft vff ein jeden saum weins vier Behemisch gesetzt. Pitten zu erkennen, das wir die zu geben nit schuldig, noch pflichtig seint, vnd dauon vn\$ zu absoluieren vnd ledigen.

3) Von weinfuren vnd puntgelt. So haben vnser herrschaft vngeuerlichen in zwaintzig jaren vffgesetzt vnd vns beschwert zu geben j=arlichen ain guldin puntgelt, darzu das wir alle jar geben mußen vier guldin fur weinfuren. Pitten zu erkennen, das wir sampt vnd sonder zu geben nit schuldig seint vnd vns dauon ledig erkennen, dann sollich weinfuren allein vnser herrschaft vor zehen oder zwaintzig jaren au\$ pitt vnd keiner gerechtikait geschehen.

65. Waldau, 152X.XX, AGD 200

Von der stewart.

Vnd vber solliche gemeine beschwerden so zeigen wir von Waldouwe an vnd beclagen vns, wiewol wir von alters here vnd nach sage des gotshau\$ Sant Peters ime Schwartzwald eltistem vrbarbuch wir vnserm gnedigen herren von Furstenberg zu stewart nit mer schuldig zu geben, dann ain marck silbers oder siben pfund heller Rappengelts, sollichs auch also von alters here gehalten, vnd das alsdann der apt des gotshau\$ vber das plut zu richten ein vogt gesetzt, vnd vber das niemant mer mit vns zu thun hat inhalt di\$ instruments mit E, des alles vnangesehen so seind wir durch vnd von der herrschaft Furstenberg gestaygt worden vff zwey marck silbers oder dafur zu geben vierzehen pfund heller Rappengelts vnd werden nit destminder beschwert von der herrschaft Furstenberg, wie oben in gemeinen articulis angezeigt. Ist vnser pitt, das die herrschaft Furstenberg schuldig sey, vns pleiben zu laßen der steuwr halb inhalt obangezeigten eltisten vrbarbuch des gotshau\$ Sant Peters, wir auch furter nit mer, dann ain marck silbers oder siben pfund heller Rappengelts dafur zu geben schuldig seint, vnd das die herrschaft, vmb das sie mer, dann recht ist, genomen hat, vns wider ein erstattung thun nach euwer gnaden erkanntnus vnd vn\$ furter mit andern beschwerden ledig vnd frey laßen vnd nit anziehen.

66. Neustadt, 152X.X.X, AGD 200

Newenstat, die stat, den val belangen.

Wiewol wir in der statt bi\$hier nie kein val nach eines absterben geben haben, auch von vns nie gefordert, sunder der frey gewesen, nitdestminder so haben vnser herrschaft vngeuerlichen vor zweyen jaren vnderstanden, den fal zu nemen, vnd an vns begert, dieweil wir aber derhalber besorgen mußen, wa in dem kein versehung geschehe, das vnser herrschaft vff irem furnemen best=on werden, so ist an euwer gnaden vnser pitt, dieweil wir nie kein geben haben, zu erkennen, das wir der herrschaft kein val zu geben schuldig seind, sie auch von vns keinen zu fordern oder zu nemen haben, noch sollen, sunder vns von irem furnemen zu ledigen vnd absoluieren.

67. T=aler, 152X.X.X, AGD 200

1) Wiewol auch die teler in Neuwenstatter ampt, wie wir, vor dreyen jaren des val frey gewesen, nitdestminder so hat vnser herrschaft vngeuerlichen inwendig dreyen jaren die v=al in telern gefordert vnd von inen genomen, die verstorben person sey eigen oder nit. Ist vnser pitt zu erkennen, wie wir von der Neuwenstatt gebetten haben, respectiue vnd das die herrschaft den telern schuldig sey, vmb die genomen felle ein erstattung nach euwer gnaden erkanntnus zu thun.

2) Von fronen. Es werden auch vber die frondienst, darin alle kriegsuerwanten gedrunge, wie oben in der gemein angezeigt worden ist, die teler mit hagen, jagen, dem amptman vnd vogt zu furen, was sie die armen heißen, es sey visch, schmaltz oder anderst zu furen, dermaßen beschwert, das sie ire arbeit nit mogen thun, mußen ire guter ligen laßen vnd komen zu sollicher großer armut, das sie gar nahe zu weichen gedrunge werden, vnd so sie irem gefallen nach nit fronen, so stockt vnd pleckt man die armen leut, vnd zu zeiten so strafft man sie hertigklichen. Ist vnser pitt zu erkennen respectiue, wie oben by dem gemeinen artickel der frondienst halber gepetten ist.

3) Von dem riegen vnd derselbigen purgation. So vnd wann ainer geriegt wurt von einer eintzingen person, vnd der, so also geriegt ist, sich will entschuldigen vnd vermeint, er habe, wie er dargeben, nit gethaun, so wurt ime nit geglaubt, es sey dann, das er das widerspil mit siben personen beweiß. Dieweil dann sollichts wider gemeine geschribne recht ist, so pitten wir zu erkennen, das wir vns zu vbersibnen, wie bißher geschehen, nit schuldig seint.

4) Von dem falle, den wir vber obangezeigte todfell, in gemeinen artickeln gesetzt, geben mußen.

So ist in der herrschaft Furstenberg wider alt herkomen vnd geprauch furgenomen worden, so vnd wann ainer ein lehen, das doch sein aigen ist, hat vnd das verkaufen will vnd verkauft, so muß er ein fal daruon geben, als oft vnd dick das verkauft wurt, ob es auch ain tag hundertmal wurd verkauft. Ist vnser pitt, euwer gnaden wollen erkennen, das wir den falle also zu geben nit schuldig, sunder dauon zu erledigen seyen, als wir auch pitten, vns dauon zu ledigen vnd absoluieren.

68. V=ohrenbach, 152X.X.X, AGD 200

1) Wiewol war, das graf Heinrich von Furstenberg seliger gedechtnus fur sich vnd seine erben vns verschriben, gelobt vnd geschworen hat, vns alle vnser recht zu halten, wie wir die von alters herbracht haben vnd vber wedder an vnser leib vnd guter zu dringen vnd vns inhalt diser verschreibung, mit A. bezeichnet, zu halten, vnd wir verm=oge sellicher verschreibung haben geben sechs marck silbers lauters vnd letinges Freiburger brands vnd gewagens, nemlich drey marck Walpurgis vnd drey marck Martini, vnd volgends auch durch graf Hainrichen vnd graf Egen seligen, obgemelts graf Heinrichen s=one, ein vertrag vffgericht, fur die sechs marck zu geben zu zwayen zilen 41 guldin, das wir auch den freuel berechtigten sollen vnd m=ogen, vnd vnser obangezeigte freyung mit A. in kreften pleiben sollen inhalt der covey mit B., vber vnd wider sollichts alles seind wir inhalt der obangezeigten gemeinen beschwerden, auch in andere viel wege mit fron, steur, schatzung vnd anderen vberleit, weiter dann die verschreibung, freyung vnd verdrege mit gewalt gedrunge vnd gezwungen worden. ist an e. g. vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaft vns by sollichen freyung vnd vertrag

zu laßen schuldig sey, wir auch weiter, noch ferrer, denn inhalt derselbigen iren gnaden mit steuer, fron vnd andern zu thun pflichtig vnd pillichen dabey gehanthapt, geschützt vnd geschirmt vnd darwider nit gedrunge werden sollen.

2) Von dem freien zug der stat Ferenbach. Item so ist es also im flecken Ferenbach herkomen vnd geprauch worden, so vnd wann ainer in flecken gezogen ist, hat er fünf schilling heller geben, dergleichen auch fünf schilling heller, so er darauß gezogen ist. Wider sollich alt herkomen vnd geprauch hat die herrschaft inen furgenomen, so vnd wann einer hinein ziehen will, so muß er sich sollicher freyheit, altem herkomen vnd geprauch verzeihen, oder muß heraußen pleiben, vnd so derselbig hineinzeucht vnd zu seinem gefallen wider hinauß will ziehen, so laßt inen die herrschaft on ein großen, beschwerlichen abzug nit ziehen, dadurch dan sich begipt, das niemant gern in den flecken zeucht, derselbig =od wurt. Ist vnser pitt zu erkennen, das die herrschaft von sollicher neuwerung vnd furnemen stande vnd vns verm=oge der freyhait pleiben laße vnd sunst zu erkennen, wie by dem nechsten artickel zu erkennen gepetten ist.

3) Fr=auel. So nimpt die herrschaft zehen pfunt fr=auel, so dem flecken zugeh=ort, auch drew pfunt fr=auel, die dem schultheißen zugeh=oren, wider obangezeigte freyheit vnd verträge, verschreibung. Pitten zu erkennen, das die herrschaft dauon zu steen schuldig sey, vnd sonst, wie der verschreibung halber oben gepetten ist.

69. F=furstenberg, 152X.X.X, AGD 199

Wir in newem Furstenberger ampt addiern dem sibenvndsibentzigsten artickel, von der erbschaft der vneelichen kynd sagent, das innerhalb zweyen jaren Caspar Datter vnd N. Schonhartin ein kynt mit eynander gezilt außershalb der ehe, doch sie beyde ledig gewesen, vnd als die mutter gestorben, hat der obervogt von wegen der herrschaft, als er sich angemaßt, die mutterliche guter, vnd was ir verfangen gewesen, onangesehen das ein kynt vnd sunst andere freunt vorhanden gewesen vnd nach sein, vnd mußen die freunt das kynt on des gut ziehen wyder alle recht, gotliche satzung vnd die billigkayt. Ist vnser pit mit vnserm gnedigen herren zu verschaffen, das solche genumen vnd entwerte erbschaft dem kynt vnd freunden wyder zu handen oder sunst erstattung dargegen gethon wert, damit sie onberaubt der erbschaft bleyben, vnd das kynt erzogen mog werden.

Die vnderthonen des von Reckenbach, so mit der hohen oberkeyt in Alt- vnd Newfurstenberg gehorent.

Vnd dieweyl juncker Jorgen von Reckenbach vnderthon mit der hohen oberkayt, peinliche hendel, den wyldwaßer vnd welt vnder Alt- vnd Newfurstenberg vnd Loffinger pfarr gehoren, so repetiren wir, des von Reckenbach vnderthon, alle artickel, so die im ampt Alt- vnd Newfurstenberg derselbigen hendel vnd sachen halb haben furgetragen, bitten in aller maßen,

wie bey eynem yeden vnd sunst durch sie gebetten ist.

70. Hausen vor Wald, u. Bachheim, 152X.XX, AGD 201

Hausen. Der vnderthaum des von Schellenbergs beschwerden, die sie (allein) antreffen (außer der oben angezeigten gemeinen beschwerden) vnd erstlich zu Hausen.

Vom wein furen. Wir mußen vnser herrschaft von Schellenberg auß dem Breißgaw furen ain wagen mit wein oder aber darfur geben drey gulden iber alles, das wir inen sunst thun. Pitten zu erkennen, das wir furter sollichs zu thun oder zu geben nit mer schuldig seint, sunder vns dauon absoluieren vnd ledigen.

Vom wald, dadurch vnser viech geet. Item vnser herrschaft hat in vnsern zwing vnd bennen ein holtz, dadurch dann vnser vich zu wayden geet, das wir zu vnser notturft haben vnd dauon vnser herrschaft auch, was wir zu thun schuldig seint, ausrichten mußen, das doch mit seinem durchgang an dem holtz gar keinen schaden thut, mußen wir der herrschaft geben j=arlichs ain pfund heller. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir irne [sic] sollichs zu geben nit schuldig, noch pflichtig seient, sunder dauon zu absoluieren vnd vns erledigen vnd sprechen, das wir nitdestminder das viech dadurch m=ogen on schaden geen laßen vnd dreiben.

Von der herpstweiden. Wiewol von alters herkommen vnd geprauchet ist, das niemant, es sey herrschaft oder andere, in vnser herpstwaiden mit seinem viech faren soll, jedoch so faren vnserer herrschaft vnderthon [sic] in die besten herpstwayden, das wir alsdann nit m=ogen geprauchten. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaft sollichs abzustellen vnd vns alein geprauchten zu laßen schuldig sey.

Von zol, so man vom saltz gibt. So beschwert vns vnser herrschaft, so vnd wann einer auß vns zu Zell oder Vberlingen oder vor seinem hauß ein schieben saltz kauft, so muß er dauon ein schilling zol geben wider alt herkommen. Pitten zu erkennen, das wir sollichen zol zu geben nit schuldig seient, vnd vns dauon zu absoluieren vnd ledigen.

Vom hewe verkaufen. Item so begibt sich oft, das vnser einem gott ettwan heuw beschehert, das ime zuuil zu geprauchten, oder er sunst gelts notturftig ist vnd das verkaufen will, es wachse vff lehen oder eigen gutern, vnd das verkauft, so straft man in vmb 3 ## vnd will haben, das er dasselbig selbert etze. Ist an e. g. vnser pitt zu erkennen, das solliche straf vnpillich vnd vnzimlich sey, wir auch furter das heuw nit schuldig seint zu behalten, sunder das mogen zu vnser notturft vnd gelegenheit zu jeder zeit verkaufen.

Das wir nit d=urfen seuw oder lindisch tuch borgen. So vnd wann vnser einer, der ettwa nit bar gelt vnd sich doch gern erneren wolt vnd etwa ein schweigseuw oder lindisch tuch kauft vnd das nit bar bezahlt, sunder mit gutem willen des verkoufers das borgt, daruß der herrschaft nichtz entsteet, so muß er 3 ## heller zu straf geben. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir frey kaufen vnd borgen m=ogen vnd darumb kein straf zu geben schuldig seient.

Das wir aus vnsern h=oltzern nichtz verkaufen dorfen one bewilligung der herrschaft. Wiewol war, das wir ettlich lehen, auch eigen h=oltzer haben, dauon wir zum\$ geben, vnd so wir daru\$ zu vnser notturft on erlaupnus verkaufen ein baum, so werden wir vmb 3 ## gestraft, wiewol vnser herrschaft nach irem willen darau\$ baum verschencken. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir au\$ sollichen h=oltzern one erlaupnus vnd on straf megen verkaufen, vnd das vnser herrschaft furter darau\$ kain baum, noch holtz mer vershenck.

Zu dem gemeinen artickel, die fron belangen, oben gesatz, so mußen wir stein vnd holtz furen vnd alles das thun, wa sy vns heißen. Pitten zu erkennen, wie oben gemein bey den frondiensten gepetten ist.

Von der mulin vnd malen. Wiewol in der von Schellenberg gepiet ettliche mulina liegen, die vns der nehe halber darin zu malen gelegen seint, so werden wir doch zu vnserm großen nachteil gedrunge, in einer vns vngelegner mulin zu der Neuwenburg zu malen. Dieweil dann der herrschaft an dem multer oder sunst nichts abgeet, vnd wir in der herrschaft millin pleiben, ist vnser pitt zu erkennen, das wir mogen malen in einer m=ulin in der herrschaft, vns am allerbequemlichsten gelegen, vnd nit schuldig seient in der mulin, da wir itz gedrunge seint, zu malen.

Von zinsen, die wir wider alt herkomen vor dem casten mußen raichen. So seind wir in altem geprauch vnd ruwigem possess gewesen, vnd also vff vns komen, das wir je zu zeiten den zin\$, so wir der herrschaft von vnsern fruchten geben, dem amptman eins jeden flecken geraicht haben, er auch den von vns empfangen hat, vnd wir den nit weiter haben furen durfen, ist in kurtzen jaren sollichs vns genomen, vnd des entsetzt vnd dahin gedrunge worden, das wir sollichen zin\$ vor dem casten mußen entrichten vnd v\$ dem flecken zu der Neuwenburg furen. Ist vnser pitt zu erkennen, das wir furter den selbigen zin\$ anderst nit schuldig seint zu geben oder zu furen, dann in eins jeden flecken vnd nit schuldig vor dem casten zu liffen, das auch ein jeder vnderamptman eins jeden flecken demselbigen, wie bi\$here von alters here geschehen, den zu empfachen vnd anzenemen schuldig sey.

Von frondienst vber obangezeigte gemeine frondienste. Wir seint vber andere mit frondiensten beschwert, nemlich zu der winterfrucht mußen wir dreuw mal zu acker geen vnd zu eren, item einmal egen, dergleichen im habrat, in der summereren. So mu\$ ein jeder zug ein juchart winterfrucht vnd ein juchart summerfrucht bauwen vnd dasselbig seyen, schneiden, binden vnd darzu dasselbig vff den kornmarckt geen Schaffhusen, gel Zell, oder wahin er das bescheiden wurd, furen mit vnsern wegen vnd von ackern. So gibt man vns den gantzen tag nit wol fur ein pfennig prot. Ist an e. g. vnser pitt zu erkennen, wie dann von wegen aller ander vnsern mitkriegsuerwandten oben bey den frondiensten gepotten ist.

Bach, auch den von Schellenberg zustendig. Wir werden inhalt des achten artickels deren von Hausen, also verzeichnet, beschwert. Pitten zu erkennen, wie daselbig gepetten ist.

Das vnser herrschaft in vnser viechpann fert. Wiewol wir eigen viechpann vnd weiden haben, so wir zu vnser notturft vor vnserm viech pannen mußen, damit wir vnsern nutz

mechten schaffen, so fert aber vnser herrschaft hiert mit irer gnaden viech daruff vn\$ zu großem nachteil. Biten zu erkennen, das sollicher hiert anstatt der herrschaft furter mit seiner herrschaft viech vff sollich viehwaid mit mer faren, noch nutzen oder prauchen sollen, sunder vns die vnser notturft nach zu nutzen, zu geprauchen vnd zu bannen kein ver hinderung, noch eintrag thue.

Von den gutern vnter Sant Blasy gutern gelegen. Wiewol wir vnder Sant Blasius guter auch etwa vil guter gelegen haben, die wir schwerlichen verzinsen mußen, so zeucht doch vnser herrschaft solliche guter an sich dermaßen, das wir die vnser notturft nach nit wißen kunden, noch mogen geprauchen. Ist vnser pitt zu erkennen, das sich vnser herrschaft sollicher guter pillich zu entschlahen schuldig sey, dero sich auch furter nit mer vnderziehe, sunder vns die vnser notturft nach zu geprauchen laße vnd kein eintrag mer thue.

Von ackern. So vnd wann in vnser zwingen, bennen vnd holtzern ecker werden, so vnderstanden vnser herrschaft, solliche auch zu geprauchen vnd an sich zu ziehen, bitten, wie oben gepetten, vnd weiter, das vns pillichen solliche ecker zu geprauchen, nutzen vnd nießen zustanden.

So hat der vogt zu der Neuwenburg sein viechpannt außgereytt vnd fert nun mit seinem viech in vnser zwing, benn vnd waid, vber das wir die schwerlichen verzinsen. Pitten zu erkennen, dieweil er sein viechpannt außgereutet, das er in vnser viechpann nit fare, wir auch das zu gestatten nit schuldig, noch pflichtig seint.

Vom pott, das abgethon ist. Wiewol von alters herkommen vnd gepraucht ist, das pott vnd verpott vff funf schilling geschehen, die selbige, so sy fellig wurden, den gemeinen nutz vnd flecken zugestanden, vnd furter gepotten worden vff ein pfund heller, der herrschaft, so das vbertretten worden, zugestanden, so hat doch vnser herrschaft kurtzlichen das gepott an funf schilling zu nachteil des gemeinen nutz abgethaun vnd allein das ein pfund pleiben laßen. Ist vnser pitt zu erkennen, das vnser herrschaft schuldig sey, vns bey altem herkommen vnd dem gepott funf schilling pleiben zu laßen, das wir auch furter wider bey funf schillingen zu gepieten haben, vnd so das vbergangen wurt, das alsdann erst des herren gepott geschehen solle.

Von der [sic] bach, durch vnser dorf laufende. So ist ain pach, so mit großem vnserm nachteil durch vnser guter, auch das dorf lauft vnd vn\$ mercklichen schaden mit dem vberlaufen thut, das vns widder alt herkommen zu fischen verpotten. Dieweil dann wir den schaden, so vns dauon entsteet, dragen vnd leiden mußen, so ist vnser pit, euwer gnaden w=ollent erkennen, das vnser herrschaft schuldig sey, vns zuzulaßen vnd vergunstigen, solliche bach auch zu vischen, vnd das sie vns kein eintrag mer darinn thue.

Von gebung eins andern zin\$ von ettlichen b=achen. Wiewol wir von lehen, die wir haben, schwerlichen zin\$ geben, vnd dann ettwann dadurch ein we\$erlin fleu\$st, so wir zu geprauchen wißen, so mußen wir doch dauon eyn sundern zin\$ geben. Bitten zu erkennen, das wir sollichs zu thun nit schuldig vnd solliche w=a\$erlin mit vischen vnd ander vnser

notturft vnuerhindert der herrschaft, on gebung eins andern zin\$ geprauchen m=ogen vnd sollen.

Vom weinfuren. So werden wir vber alt herkomen beschwert in dem, das wir alle jar vnser herrschaft vier karren mit allem zeug vnd rossen mußen darstellen, ire wein damit heimzufuren, auch alle jar drey tage holtz vnd heuw mit vnsern rossen vnd karren heimfuren. Bitten zu erkennen, das wir sollichs zu thun nit schuldig vnd vns dauon zu absoluieren vnd ledigen.

Peticio.

Additio.

Wir von Haußen vnd Bach werden auch beschwert mit den fellen, so die vngnosamen geben mußen, darzu auch mit den todfellen. Dieweil nun sollichs vnbillich, so pitten wir zu erkennen, das wir dieselbigen furter zu geben nit mer schuldig seien, sunder vns dauon zu absoluieren.

Vnd weil wir mit der hohen oberkeit vnd hendel in Furstenberger ampt geh=orn, so sein wir auch mit denselbigen einzogen, darumb von vnn=oten, dasselbig hie anzuzaien.

71. G=oschweiler, 152X.X.X, AGD 202

Beschwerden deren von Grosser\$weiler widder junckher Jeorgen von Reckenbach.

Von frondinst.

Wir beclagen vnd beschweren vn\$ erstlich, wiewol wir von den edelleuten von Plumegk an vnsern junckhern komen seint mit allem dem, das wir von alters here inen gethon haben, vnd inen alle jar nit mer, dann ein juchart vnd ein vierling ackers gepawen vber summer vnd winter vnd weiter nit schuldig gewesen, jedoch so haben vnser junckhern in kurzen jaren vns dahin gedrungen vnd gezwenget, das wir inen mit allen zeugen brachen, f=algen, zu sat eren vnd egen, item das wir korn vnd habern ein tag seubern mit zehen personen, desgleichen hew f#uren, dergleichen im habrat, dweil dann dermaßen, wie oben geh=ort vnd gesagt, wir an die von Reckenbach komen, so pitten wir zu erkennen, das vnser junckher vns dabey pleiben zu laßen schuldig sei vnd vns zu s=ollicher newerung nit dringe, noch weiter beschwere, das auch wir ime weiters zu thun, dann wie von alters herkomen, als oben erzelt, nit pflichtig noch schuldig, sunder dauon zu absoluiere seient vnd vns dauon zu absoluiere.

Das er vns ein wiesen verhelte, die wir ime vff sein bitt vmb ein zin\$ geliehen haben.

Item wiewol wir vnsern junckhern vor zwelf jaren vff sein pit vmb ein j=arlichen zin\$, vns dauon zu geben, haben ein wiesen vngeferlichen vff zwelf mansmat, so in vnsern g#utern gelegen vnd gemeinem flecken zugeh#ort, zehen jar lang vnd nit weiter vmb zehen schilling Rappengelts gelyhen, so hat er doch sollichen zin\$ vns nit mer, dan zwen jar geraycht, will auch vns die wiesen nit mer zustellen, vermeint die f#ur ein recht vnd sein eygen g%ut zu

haben, ist vnser pit zu erkennen, das gedachter vnser jungkher schuldig sey, vns, soviel jar er die wiesen genutzt vnd geprauchet hat, die ausstendige zin\$ zu entrichten, auch vns solliche wiesen widder zu vnsern vnd der gemeint handen zustellen vnd dauon abzusteuen schuldig sey, sich auch der gantzlichen nitt vnderziehe, noch deren geprauch, sunder, sunder vns die zu vnser notturft zu geprauchen gestatte.

Das vns vnser junckher vorhelt ein velt, das wir ime au\$ pitt gelyhen haben.

Dergleichen so haben wir vor ettlichen jaren vff vnser junckher freuntlich pitten vnd begeren geliehen ein velt, so in vnser wayt vnd viehpann gehort, das er ytzt ffur eygen ime will anheymchen vnd zuziehen, vnd mu\$en ime darzu darvor hueten, darzu so fert er in andere vnserere zweng, benn vnd wayden, die wir schwerlichen m#u\$en verzinsen, vnd erwechst vns darau\$ gro\$er, mercklicher schaden, ist vnser pit zu erkennen, das gedachter vnser junckher schuldig sey, dweil das velt allein vff pit ime geliehen, wie bey dem nechsten clag artickel gepetten ist.

Vnd des so viel mer zu erkennen, das vnser juncker mit seinem vieh f&urter vff vnser wayt, zwing vnd benn zu faren sich entschlage, daruff nit fare, noch der sich geprauche, sunder die vns allein geprauchen la\$e, wie von alters here geschehen ist.

Von fa\$nacht- vnd weyhennachth&unern.

So ist war, das wir vff vnd an die von Reckenpach von denen von Plumeck kamen, das wir den von Plumeck nie kein fa\$ennacht- oder weyhennachth&uner geben, noch sie die gefordert haben, aber es haben vnser juncker vns dahin gedrunge, das wir inen, widder das wir inen die g&ulten nit schuldig vnd des bey dem Plumecker frey gewesen, die fa\$ennacht- vnd weihennachth&uner haben m&u\$en geben.

Dieweil dann die sachen die gestal haben, so pitten wir zu erkennen, das wir pillichen bey sollichem pleiben sollen vnd die fa\$ennacht- vnd weihennachth&uner zu geben nit schuldig seient vnd vns dauon zu absoluiren vnd ledig zu erkennen.

Vom raysen.

Wiewol war, das wir vnsern junckhern von Plumeck, als wir in gewesen, weiter nit gerayset haben, dann das wir z&u nacht widder haben m#ogen heim komen, vnd wir also dabey gela\$en, vnser junckher von Reckenbach auch vns zugesagt, vns pleiben zu la\$en, wie junckher Balhassar von Plumeck gethon, so werden wir doch weiter zu raysen gedrunge, pitten zu erkennen, das wir vnsern junckhern weyters, noch anderst zu raysen nit schuldig seient, dann das wir bey tage widder heim komen m=ogen, vnd vnser junckher schuldig sey, vns zu halten, wie wir vff vnd an inen komen seient, vnd er vns zugesagt, vnd pitten wir zu Go\$ersweiller, e. g. wollent in di\$e vnserere sondere artickel genedigklichen vnd wol bedencken, das dieselbige beschwert erst in menschen gedencken vnd in kurtzen jaren vffkomen vnd vor nit gewesen seint.

Wir von Reckenbach werden auch beschwert mit den fellen, so die vngeno\$amen geben m=u\$en, darzu auch mit den todfellen, dweil nun sollichs vnpillich, so pitten wir zu

erkennen, das wir dieselbigen f=urter zu geben nit mer schuldig seient, sunder vns dauon zu
absoluiern.

Vnd wiewol wir mit der hohen oberkeit vnd hendel in F=urstenberger ampt geh=oren, so
seien wir auch mit denselbigen einzogen, darvmb von vnn=oten, dasselbig hie anzuzeigen.

[史料は以上。]

文部科学省科学研究費補助金

研究課題：近世ドイツ語の地域的多様性と同質性についての研究

研究課題番号：12610534

平成12年度－平成14年度 基盤研究(C)(2)

研究代表者：堀口里志（福岡教育大学教育学部）

研究分担者：池田利紀（福岡教育大学教育学部）

永田諒一（岡山大学文学部）

ドイツ農民戦争期におけるオーバー
シュヴァーベン地方農民要求簡条書
の分布

――文部科学省科学研究費補助金
研究成果報告書――

平成15年（2003）3月25日 発行

共編者 堀口 里志
池田 利紀
永田 諒一

印刷所 有限会社 大学製本所
岡山市桑田町10-5

<http://www4.ocn.ne.jp/~daigaku/index.html>
